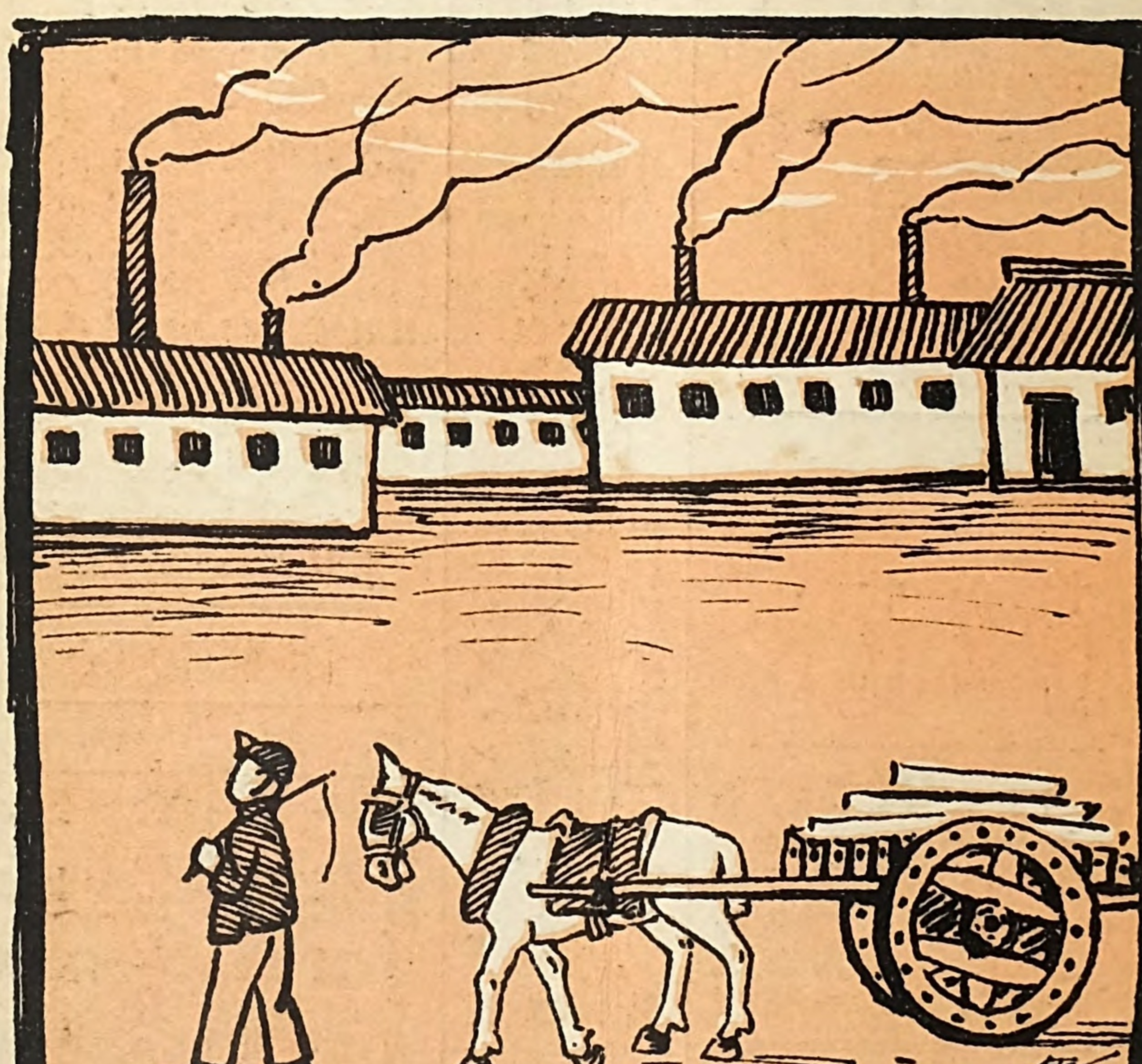
大正十一年八[illegible]
大正十二年一月一日發行（毎月一回一日發行）

THE SOCIETY OF MANCHURIA

滿洲之社會



癸亥新年號

第壹巻第五號

資本金 八千萬圓
拂込濟資本金 五千萬圓
積立金 壹千五拾四萬圓

預金、貸出、割引、海外諸爲替、地金銀ノ賣買其他一般銀行業務竝
朝鮮、滿洲、浦潮斯徳及亞港ニ於テ日本銀行代理店事務ヲ取扱申候

本店 朝鮮京城南大門通
振替貯金口座 京城三三三番

朝鮮銀行

總裁 美濃部俊吉

支店出張所

內地 東京、大阪、神戸、下關
朝鮮 釜山、大邱、仁川、平壤、鎭南浦、元山、群山、木浦、淸津、會寧
滿洲 大連、旅順、營口、遼陽、奉天、奉天新市街、鐵嶺、開原、四平街、鄭家屯
長春、吉林、安東縣、龍井村、哈爾賓、傅家甸
支那 上海、青島、天津、濟南
露領 浦潮斯德 亞港
米國 紐育

右ノ外倫敦、巴里其他內外樞要ノ地ニ爲替取引先有之候

滿洲之社會＝癸亥新年號

（大正十二年一月號）

●設立　明治四拾壹年壹月

●資本金　貳千萬圓

●拂込濟資本金　九百五拾萬圓

●諸積立金　貳百貳拾貳萬五千圓

◎定期預金利子　(一ヶ年)七分

大連市大山通十四番地

電話代表番號五三〇〇番
振替貯金(大連)二三〇〇番

株式會社　日支合辦

正隆銀行

頭取　安田善兵衛
顧問　安田善次郎

●當行は安田貯蓄銀行の代理支店として一般貯蓄預金を御便利に取扱申候

●當行は日本内地、朝鮮、南北滿洲、支那内地に於て約二千の爲替取引先を有し候

●當行は關東州地方費現金並に大連市金庫事務取扱致候

●當行は臺灣銀行と特約を結び外國爲替取扱致候

支店(所在地)　旅順、營口、奉天、撫順、開原、四平街、長春、鄭家屯、錦州、天津、青島

派出所(所在地)　大連市小崗子(電話五七四)、奉天城内

謹賀新年

大連人士年賀列名（イロハ順）

濱町、川崎造船出張所長 岩藤與十郎

山縣通、大阪商船會社支店長 伊藤董

大廣場、大連市役所助役 伊佐壽

滿鐵會社、埠頭事務所 市川數造

滿鐵會社、電氣作業所長 出原佃

淡路町、拾貳區五拾五號 原田光次郎

東廣場、三泰油房 長谷川潔

紀伊町、大倉商事株式會社支店 堀洋三

山城町、六號地 栃內壬五郎

丹後町、ヒ區三 値賀連

山城町、大連醫院長 尾見薰

紀伊町、一一大庭商會 大庭仙三郎

大山通、小林又七支店 太田信三

東廣場、大連取引所信託會社 小澤新之輔

伊勢町、大連銀行 河邊勝

大山通、正隆銀行 川澄末吉

愛宕町、錢鈔信託會社 神崎常一

滿鐵會社、埠頭事務所長 貝瀨謹吾

市外、沙河口滿鐵工場長 横井實郎

佐渡町、進和商會 高田友吉

播摩町、ヌ區四拾貳號 立川雲平

磐城町、田邊醫院主 田邊猛雄

兒玉町、五ノ七 田邊敏行

伊勢町、大連銀行 津村甚之助

山城町、大連醫院
鶴見三三

大山通、遼東銀行
中岡祐雄

伏見臺、大連市長
村井啓太郎

山縣通、三井物産會社支店長
向井忠晴

滿鐵會社、運輸部長
梅野實

神明町、リ區六號地
野津孝次郎

愛宕町、錢鈔信託會社
黑崎眞也

西通、關東廳土木課出張所長
倉塚良夫

市外、沙河口滿鐵工場庶務課長
栗村平三郎

近江町、東洋拓殖會社大連支店長
安川和三郎

東廣場、大連重要物産取引所長
矢野久三郎

奥町、大連火災海上保險株式會社
山室辰之助

山縣通、日本郵船會社大連支店長
山本武夫

監部通、松茂洋行
間原德太郎

兒玉町、八ノ一
松岡洋右

滿鐵會社、社會課長
牧野虎次

播摩町、ヒ區二號
俣野義郎

信濃町、滿洲水産會社
福田顯四郎

松山臺
古澤丈作

兒玉町、三ノ四
今景彦

山縣通、大連起業倉庫
小嶋鉦太郎

西公園町、百拾參區九
古財治八

兒玉町、八ノ四
赤羽克己

霧嶋町、ス區四十六號地
相生由太郎

信濃町、山葉洋行
平井太次郎

奥町、龍口銀行
平塚牛治郎

西公園町、一一三區
門田新松

大廣場、遞信局長
杉野耕三郎

恭賀新年

新旅順日進町六ノ四
渡會貞輔

旅順月見町六ノ二
片平清

火災 海上 運送

保險

明治火災保險株式會社　千代田火災保險株式會社

東京火災保險株式會社　東京海上火災保險株式會社

日本火災保險株式會社　神戸海上運送火災保險株式會社

共同火災保險株式會社　大阪海上火災保險株式會社

横濱火災海上保險株式會社　大正海上火災保險株式會社

代理店

三井物産株式會社

大連支店

大連市山縣通一二六號地

電話　代表番號五〇八五番

資本金　參百萬圓

積立金　參拾六萬七千圓

營　業　一般銀行業ノ外年賦(なしくずし)又ハ定期償還ノ方法ニヨリ勸業資金貸付取扱申候

大連市大山通九番地

株式會社　遼東銀行

電話　長　六三三番　一〇六七番　三七四四番

振替大連一六九一番

支店所在地　小崗子。金州。普蘭店。瓦房店。貔子窩

爲替取組先　內地。朝鮮。滿洲ノ各樞要地

謹賀

朝鮮銀行大連支店
中國銀行
大連商業銀行
滿洲商業銀行大連支店
東洋拓殖株式會社大連支店
大連取引所信託株式會社
大連株式商品取引所
大連取引所錢鈔信託株式會社

新年

正金銀行大連支店

正隆銀行

龍口銀行

大連銀行

遼東銀行

旅順銀行大連支店

教育銀行

南滿銀行大連支店



送り迎ふ年の瀬

歳は不況裡に暮れて不況裡に改まり、斯くして壬戌の大正十一年は去り而して癸亥の大正十二年は來りぬ。顧みれば昨年の社會は財界の不況を中心として不安と動搖の幕に包まれ、一部の俸給生活者を除きて、焦燥、煩悶、懊惱、苦惱の極に達し、到るところ生活苦、社會苦の呻吟を聞かざるはなしといふ悲慘なる光景を現出したり。投機虚業に最も無分別なる突進を敢てしたる滿洲の社會は、それ丈け其の反動的打撃も亦一段と深刻を極めたり。

社會全體が此くの如き病態となりては、如何なる名醫も歸死回生の術を施すに由なく、成るやうにしか成らぬと諦めて半ば自暴的に之を放棄せるが如き觀あり。癸亥の新歳は如何に成行くべき乎。自己の明日の運命さへ判斷し得ざる淺薄なる人智を以て一年間の前途を的確に見透し得る道理なし。併し過去の病態より推して本年も財界の本復捗々しからざるべき事は、之れを豫想するに難からずとせば、社會の不安と動搖もまた隨つて繼續すべし。

個人の病苦も之を善用すれば一種の修養となる、況や社會の病苦をや。此の見地よりせば、財界の不況を中心とする昨年の社會苦、生活苦は個人にも社會にも好個の修養となりたるものと云ふべく、之がために焦燥、煩悶、苦惱、懊惱せず、寧ろ之を善用して大死一番新たに前路に向つて進境を開くの大なる決心覺悟なかる可らず。大正十二年癸亥の新歳を迎ねて、先づ何よりも大切なるは此の心機一轉の工風と更始一新の努力奮闘なりと知れよ。

滿洲之社會　第壹卷第五號　大正十二年一月發行

滿洲に於ける社會的黎明

會長　金子雪齋

社會相は社會心理の返影であり、之を進めなければ社會の進化は望まれない。而して個人と社會とは循環作用を以て互に其心理を築き上げる。雙方の心理に矛盾なくして美善な進化を遂げるのが理想であるが、如何に融會同致しても、『美善な進化』が無ければ頽廢と爲り、寧ろ背馳よりも恐るべきであることは、專制や壓力で習性的に個人と社會との合致的心理と爲り組織と爲つた歴史上の惡結果に見て明かである。更に堅く組織された社會であれば、背馳せる個人心理をも包容し同化するの容易なることは勿論であるが、或心理を有する社會に對して背馳せる組織を强ゆることは至難である。唯何等社會的慣習の羈絆（レスツレクション）なき人々が或る社會心理に進み、結束して美善なる社會組織の創造を企てることは、國家に對し、世界に對し、天に對する重大の義務であり、實に尊き人類性の禮讃である。而して滿洲に於ける現在社會人こそ正に此大業の負擔に値すべき選民である。

所謂社會事業は多端である、否、無限であらう。之を調査し審究し、其急なるも

のを始めとして着々實行すべきは論を待たない。又此實行が一般人群をして眞の社會人たらしめる導線にもなるであらう。但し此『事業一天張り』は個人と環境との間に赤錆の着きたる如き習性を成せる內地の唯一社會策である。滿洲に在つては此以外に緊急の問題、否、愉快な多望な要件が待つて居る。其れは『社會心理』の栽培である。年少の人、荒削りの人、異民族等の烏合せる滿洲には、未だ眞の社會心理が無い、白紙だ、無垢だ、自由だ、善く言へば社會的の虛靈不昧だ。斯る肥沃の土壤を放置して荒蕪に委したり、內地その他で餘つた苗などを移植してはならぬ必ず人間性の純眞な淨潔な天資の血に咲く花が生んだ心理の種を蒔いて模範農園否、模範社會と爲さねばならぬ。

男も女も、父母も夫妻も、兄弟も姉妹も、朋友も、資本家も、勞働者も、官吏も軍人も、學者も、藝術家も、醫師も、商賈も、會社員も、紳士も、學生も、請負師も、辯護士も、總ての人々は皆強く反省し、若し固着した赤錆、囚はれたる迷妄あらば決然として之を洗却し、更生的思想を揮つて起つべしとしてである。更に總ての家庭家校、新聞は皆文化の發動機であり單位であり、社會心理の乳房である。自家の悟性の上に獨創的(オリヂナリテイ)に、能發的(アクテイヴ)に、由我的(インデペンデントリー)に、滿洲的特殊文化の爲めに社會心理をも啓發せしめねばならぬ。無批判の追隨は囚はれたる思想と共に唾棄すべしてである。斯くて滿洲の社會は權威を有し、未來を支配すべき吾人の文化は築かれ、燦爛たる光彩に渤海の波に輝くのである。奮へ滿洲の社會、今や汝の黎明である。

民衆主義と民衆政治

歐洲大戰後に一時燎原の火の如く全世界に燃ゑ擴がつた民衆主義の聲は、近來稍々下火になつたが、其の代り、着々實行の時代に入り、我が日本に於ても總てが民衆的になりつゝある。『下に居らう』と怒鳴つて民衆に土下座をさした封建時代の大名行列のやうな極端な權柄ぶりは、王政維新後、廢藩置縣、四民平等、憲法發布、議會開設といふ順序を踏んで次第に其影を沒し、次いで官吏の權柄ぶりと云ふ惡い癖が出來、それがビユーロクラチーと相結んで一種の特權階級臭味を放ち、一般民衆に厭な感情を起させたが、最も官僚主義であつた裁判所、警察署の如きも最近に至りて大いに民衆化し、法律も段々民衆的になり、民衆を指して『こら貴樣』と云つたのが『あなた』と呼ぶ樣になり、『出頭すべし』が『御出頭相成度候』と變り、證人の呼び出しにも、被告の取扱ひにも、其他些細の事に至るまでも、餘程その調子が改まつて來た。是れ民衆主義が實行の時代に入つた傾向を明かに物語るものである。政治は民と與にすべきもので、民衆を度外視した政治の有り得やう筈がないから、敎育の普及、人智の發達、民衆の自覺、時代思潮の推移と相俟つて、さう成るのに不思議はない。斯くして權力主義、覇道主義の寡頭政治は益々衰ゑて行くのである。

併し之と共に必要なるは民衆の敎育、言葉を換ゑて云へば、民衆の良化善導と、それから民衆力の組織化といふ事である。敎育の足らない組織力のない民衆なるものは、雜然たる烏合の衆で、斯る民衆の下に民衆の文化と福祉を增進すべき眞の民衆政治が行はるゝ道理なく、また斯る民衆によつて共存共榮の堅實なる社會が打建てらるゝ筈もない。そこで、今日の歐米諸國に於ては、社會敎育といふ事が非常に尊ばれ、民衆の多數を占むる筋肉勞働者のために特別の敎育機關が設けられ、庶民高等敎育の必要が叫ばれ、各大學にチユ

ートリアルクラスの設備が整つて來るといふ有樣になつた。勞働者それ自身も、賃銀の增收による物質的生活の向上進歩にのみ滿足しないで、智識的人格的にも向上進歩せんことを欲し、進んで高等教育を受けるものが多くなつた。彼等の研究心と向上心とは案外に熾烈であつて、圖書館は勿論、一種の社會教育機關たる新聞雜誌の如きも、之がために彼等の研究心と向上心を滿足させるやうに努め、難解の稱あるカントの哲學の如きも之を通俗化した圖書が刊行され、それを勞働者が爭ふて讀み耽るといふ傾向になつて來たといふ事である。然るに等しく萬事が民衆的になりつゝある我が日本においては、普通教育は兎に角、社會教育の設備がまだ滿足に出來て居らず、庶民高等教育機關も之なく、民衆それ自身も物質的生活と共に精神的生活の向上進歩を圖るといふ眞摯な態度に乏しく、唯漠然と民衆主義の聲に和して空威張りをなし、靜かに自己を省察して自己の內容を充實させると云ふ考ねが何うも足らぬ樣に思はれる。之れでは民衆主義も民衆政治も其實を擧ぐること覺束なく、民衆の文化と福祉を增進することも難かしいのである。

筋肉勞働者の團體は漸く整ひ來り、個々分立的のものが合同聯結的となり、それが昨年九月三十日大阪天王寺公會堂において開かれた全國的勞働組合總聯合會議に當りて自由聯合派と組合統一派との二大分野に截然區別されたが、組織力だけは兎に角整つて來た。組織の整頓は彼等の力を强める所以であるから、折角と骨を折るべしであるが、大切な民衆教育と民衆それ自身の研究心と向上心とが乏しくては、勞働者の力が强くなればなる程、彼等の跳梁跋扈を馴致し、少數專制が一變して多數橫暴となり、質の文明が量の文明に移り行き、感情が理性を征服し、デモクラシーがモボクラシーとなり、モップ騷動が流行し、危險なる階級爭鬪が頻繁に行はれ、社會主義や、共產主義や、無政府主義が貴ばれ、國家を無視したインタナショナリズムや民族を藐視した人類愛などが持て囃され、若しそれが資本主義を倒せば、資本主義の弊害とは異なつた他

の弊害を生じ、さうして社會の全局に非常なる混亂を來たし、或は一轉して文化の逆進を見るやうな事にならうも知れない。それで人類の文化と民衆の福祉が確實に増進さるゝか否かは大なる疑問だ。殊に我々日本人は感激性に富み、性急短慮で、物事に激し易い性分であるから、民衆の力が組織的になつて來ても、民衆の社會教育と民衆それ自身の精神的向上進歩がそれに伴なはないならば、其の結果は恐らく寒心すべきものがあらうと考へられる。近い話が、借家爭議問題にしても、それは惡家主の横暴からも起るが、また惡借家人の亂暴からも起るもので、借家人のうちにも隨分無理性のものがあるから、如何に民衆主義の時代になつたからとて、無理性の民衆をして横行濶歩せしむるが如きは、甚だ厭ふべき事である。斯る民衆主義は、惡貨が殖ゑて良貨が驅逐されると云ふグレシャムの方則を人類社會のうへに現はす樣になり、雜草繁茂して芝蘭枯槁し、瓦礫榮ゑて珠玉衰ゑ、既に龜裂の入つた物質文明に一層龜裂が入り、間口ばかりで奥行のない極めて淺薄な見苦しい社會を現出する事になるだらう。社會教育を盛行せよ、勞働者を教育せよ、彼等をして智識と人格の向上進歩に熱心ならしめよとの聲が高まつて來たのは當然の歸趨である。

勞働運動の基底には、何處に於てもマルクス及びエンゲレスの社會革命的思潮が流れ、反資本主義と共に階級鬪爭の意識が強く、社會革命のために政治革命を主張し、サンジガリストやワイ・ダブリユー・ダブリユーやスパルタクス團などと、隨分過激なものも出來たが、彼等は斯くせざれば人類の文化と民衆の福祉が確實に增進され能はぬと堅く信じて居るか何うか、資本主義憎さに只それを倒壞するためにのみ動いて居るのではないか何うか。社會革命を行はないでも社會政策によりて人類の文化と民衆の福祉は現に着々として進みつゝある。總てが民衆化しつゝあると共に、共産主義者の宣言であり社會革命家の要望する種々の政策のうち、交通機關の國家集中、通信事業の國有、義務教育の普及、學校の民衆化、兒童の保護、累進税の實

施など次第に行はれ、その他の事も漸を追ふて行はれやうと云ふ傾向を有つてゐる。社會施設の最も遅れてゐる我が日本にも普通選擧が早晩行はれやうと云ふ時代になつた。言論及び集會の自由も既往に比すれば餘程寛大になつた。社會革命を欲するものは土地の國有と總ての生産及び工場をも國有若くは公有にしやうと望んで居るから、政治革命を行つて政權を無産者階級の手に握らない限り、それは到底望まれないと言ふかも知れないが、斯うした經濟政策の改めも社會政策によつて徐々に實現し得る望みがある。革命といふ破壊的非常手段を採らなければ人類の文化と民衆の福祉が增進されぬといふ道理はない。勞働運動が起るは必然の勢ひだが理性を缺いだ闘爭一點張りの盲目的な勞働運動は善良なものと言へない。

冒頭に掲げた言語や態度の民衆化なるものは、民衆主義の究竟目的から云へば、末節のまた末節とも稱すべきものであるが、我が日本にも斯うした傾向が着々現はれて來たと云ふことは、兎も角も喜ぶべき現象である。社會政策をもつと徹底的に實行し、各人が社會問題の研究に熱心となり、文化施設と社會事業とが一層廣汎に普遍的に實施され、同時に、社會教育の機關が備はり、新聞雜誌なども今より一段進んで民衆の社會的良心と社會的智識を增進することに勗め、民衆の多數を占むる筋肉勞働者も、物質生活の向上進歩にのみ滿足せず、更に精神的方面の研究心と向上心を高むるに至つたならば、民衆主義と民衆政治とは徐々に實現され、過激な社會改革を行はないでも、人類の文化と民衆の福祉は大いに增進されることゝ信ずる。それには又、貴族、富豪、其他の特權階級の人々も深く自省して其の態度を改むる事にせねばならぬ。政治、經濟及び社會の諸々の施設は、民衆を本位として之より益々改革すべく、一部少數者の利益を擁護するやうな偏頗な政治ばかりは斷然改めなければならぬ。民衆を土芥視し、民衆を踏臺にし、其上に自己の生活的安全地帶を築こうとするが如き封建的陋習は、モハヤ時代の斷じて許さぬ所である。（渓峰）

黑風白雨

◆戌歳が退却して亥歳が進出した亥歳には遮二無二向ふ見ずの猪突主義が流行ると云ふから危險だ◆財界の窘迫は戌歳に入つて一層深刻を加へたから亥歳の本年は行く處まで徹底的に押して行く事になるかも知れない◆グラ〳〵動搖ばかり續けるのは思ひ切が足らず整理が十分でないからだとすれば少しは危險でも此の亥歳に猪突主義で今一段追ひ詰めるも可からう◆すると來年は子の歳だから今年一杯で不景氣がどん底に落ち込みさうして福の神が來年の春頃から眷族の鼠を引連れて善哉々々とお出でなさるだらう◆戌年には喧嘩が多いと云ふが去つた大正十一年を振返つて見ると成程喧嘩が多かつた滿洲も可也に騷々しかつた◆財界がぐら附き不景氣で人の心が落付かぬため色々な厭な事件や問題が矢繼早に起りそれに伴れて流言蜚語も多かつた◆神でない限り人には誰も缺點のあるものだが自分の缺點を棚に上げて他のアラ拾ひをすると云ふ傾向もあつた◆他人面上の瘤を嗤ふよりも汝自身の頭の蠅を拂へと云ふ古人の訓戒などは顧みられないで他を讒誣中傷すると云ふ風もあつた◆其の根も葉もない事實に遠ざかつた流言蜚語に動かされて徒らに他を疑ふといふ惡い習癖も此間に作られた◆斯くして社會は懷疑の巷となり下らぬ事まで互ひに疑ぐり合ひ疑心は更に暗鬼を生じ枯尾花を幽靈と見るやうな事にもなつて人心は益々荒んで往く◆財界が落付かぬので社會も落付かず社會が落付かぬので下らぬ騷ぎや流言蜚語が多くなるのだが夫れを面白がつて掘くり立てたり搔き廻したりする者があるので一層濁つて了うのだ◆社會の空氣が濁ればバチルスが跋扈して社會の健康を害しそして惡貨良貨を驅逐すと云ふグレシャムの方則が社會を支配して益々惡化するばかりだ◆斯かる時代には爭鬪の爲めの爭鬪が多くなり己れを上げん爲めに他を陷れると云ふ陰險卑劣な事も行はれ社會の平和と安寧が非常に侵害される◆國家社會のた

めに一點の私心を混ゑない公心に基いた論議や爭議が起るのは差支ゑないが故らに平和を破るやうな濁つた動機から起る騷ぎは感心しない◆臺北の醫學會に臨席した大連醫院長尾見薫博士の土產話のうちに『臺灣のものは情愛に厚く親しみが深く總ての上に人情美が溢れて居る當大連のものが人情に冷たいのに比べて見て雲泥の差がある』と言はれた一節がある◆全く其の通りで何う云ふものか滿洲殊に大連の社會には中傷、陷穽、讒誣、鬪爭、悶着、紛擾ばかり多く又故意にそれを煽り立てる者もあつて人の心が荒み隨つて情愛に乏しい◆臺灣の社會が人情美に溢れて居るのは幾らか保守的時代に入つて社會に落付が出來たからであらう乎とも思はれるが社會の底に情愛が流れて居るのは好いことである◆社會の紐帶は乾燥無味の法律や機械的組織力のみで堅くなるものでない何と云つても情愛が一番大切である◆他の惡口を言よりもと思ひやりと同情を高め謙讓の美風を養ひ親しみのある溫かい社會を作る樣にせねばならぬ◆滿洲は猶ほ建設の時代に在るとも見られる點があるから動搖が多く紛擾が絶ゑないので有らうが厭な事件や問題が引切なしに起り其の結果人の心が益々冷酷になるのは眞に嘆息に堪ゑない◆此の數年來殊に滿洲の社會人心が荒みに荒みそして人心是れ殆く道心是れ微かなりと成つたのは一面財界の惡化と動搖の致すところで有らう◆餘りに利己心が強く互ひに自分勝手の事ばかり考ゑ他に對する諒察力も同情心もない社會は早晩破滅の運命に逢着する◆亥歳の本年は昨年の戌年のやうに噛み合ひ喧嘩が起らぬとしても謂ゆる猪突主義でどんな向ふ見ずの騷ぎが起らぬとも限らぬから用心が大切だ◆中途半端な處にぶら付いて居るよりも猪突主義でもつて往く所まで往くも可からうが餘り猪突的に進むと鼻柱を折つたり谷底に落ちたりするかも知れない◆何にしても滿洲と云ふ處は騷々しい處だ最少しお互ひに氣を附けて社會に餘裕と安定と親しみと平和を加へたいものだ。

自治行政と自治心の養成

社會局長官　塚本清治

文明が進步して國家の事務が複雜になつて來ると、國家の政務を擧げて悉く其の任命に係る官吏をして處理せしむることは困難で、それは國家の目的を達する所以でない。地方團體の事務は利害關係ある地方の人民をして直接に之れを處理せしむることが却つていゝので、また比較的費用が寡くて濟むと云ふ便宜があり人民をして政治に熟練せしめ公共心を發揮せしむる利益も伴ふて來る。地方自治は地方民自ら行ふものであるから、責任觀念を深く感じて自ら最善を盡して努力するに至り、其の成績の擧がると然らざるとは自分等の努力如何に在るものと考へ、自然他に向つて不平を訴ふることなく、常に自ら反省して公共の事務に努むる樣にもなる。自治の制度なるものは、此等の點からして、國家が其の政治を行ふ一手段として、又國家が其の目的を達する一方法として創始せられたるものである。國家の政務と云ふ語を廣く解釋するならば、自治の事務も亦固より其の一部に外ならぬのであつて、國家の政務以外に自治のあるべき筈がない。國家の政務の一部を地方團體の人民に委せて自ら處理せしむることが卽ち自治行政である。國家が其の官吏をして直接に處理せしむる政務と相對して自治と言ふ語を用ゐることゝなつたのだ。故に自治行政の觀念は直ちに國の行政に對する觀念となるのである。自治行政の定義に付ては學者間に種々な說があるけれども、學問上の研究は姑く措き、此には最も普通に行はれて居る定義を述ぶるに止めたい。則ち普通の說に依ると自治とは地方公共團體が法律の認めた範圍內に於て團體員が自から選擧した機關に依て其の經費を以て其の公共事業を處理することを謂ふのである。自治の事務は國の行政の一部に外ならぬけれども、國家が之を一度地方團

體の自治に委ね、其の地方團體が國家の監督の下に之を處理することを自己生存の目的であると考へ、茲に公法人として獨立の存在を爲すに至るのである。此意味に於て自治とは國家自らの行政、語を換へて言ふと官治に對する觀念になるのである。自治の元祖たる英國に於ては、自治てふ語が頗る廣き意味を有し、國民が代議士に選ばれて立法に參與することも、陪審官となつて司法裁判に加はることも、地方の自治行政を行ふと同じく總て之を自治と稱して居るが、それは自治の發達した英國のことであつて、我國の自治は獨逸語の Selbsterwaltung と同じく地方に於ける自治をのみ指すのである。

次に自治の範圍に付て述べんに、我國の市町村の事務には固有事務と委任事務との區別あり、固有事務とは市町村の存立の目的として法律の委任する公共事務を言ひ、委任事務とは市町村存立の目的以外に於ての國なり府縣なり其他の公共團體なりの事務のうち特別に市町村に委任せられたるものを言ふので、獨逸の自治體の事務に於ても同樣の區別がある。元來市町村其他の公共團體は國家の委任を受け法令の範圍內に於て一定の國務を處理することを自己生存の目的として居るもので、之れが自治體本來の性質であるから、市町村の事務を廣義に解すれば、悉く國家の委任に基くものである。此の意味から言へば、市町村の事務は皆委任事務と稱すべきで、固有事務と委任事務との區別あるべきでない。又その委任事務なるものも、市町村に委せられて市町村自ら之を行ふことに定められた以上は、固有事務と共に等しく市町村の自治事務となるのであるから、實際に於て固有事務と委任事務とを區別する必要が無いのである。英國の自治に於ては固より此の區別が存在しない。然るに我が市制及び町村制に固有事務と委任事務との區別があるのは獨逸の制度に據つたものである。又我が市制及び町村制に於ては委任事務即ち法令に依て市町村に委任せられた國の事務の外に市町村の機關たる市町村長其者に對して委任せられた事務がある。例へば彼の小學校令、道路法、戶

籍法等に依つて市町村長に委任して行はしむる事務が甚だ多い。而して市町村に對する委任事務は、委任に依て市町村の事務となるのであるから、特に反對の明文が無い以上は、其の執行に要する所の費用は市町村の負擔すべきものである。之に反して市町村長に委任して行はしむる事務は、元來が國又は上級の公共團體の事務であるから、之れが執行手續に屬する費用は、市制及び町村制の規定に依り市町村の負擔と定むるも執行する事務本體の費用は、特に反對の明文がない以上は、市町村の負擔に屬しないのが原則である。然しながら之は全く理論上の事であつて、實際に於ては國又は上級の團體から其事務を市町村長に委任して執行せしむる爲め、特に費用を交付することは殆ど無く、市町村の負擔たることを免れないのが通常である。又市町村に對する委任事務と市町村長に對する委任事務とは、市町村會の權限の上に相違を生ずる市町村に對する委任事務であるならば、市町村會の議決範圍内に屬して居るけれども、市町村長に對する委任事務であると、市町村會の權限外に在るのである。凡そ斯の如き固有事務と委任事務との別、或は市町村に對する委任事務、市町村長に對する委任事務と云ふが如き區別は、一般の人には餘り必要な事ではないけれども、玆には英國の自治と異なるところを明かにして參考に供したいと思ふのである。

英國に於ては、前陳の如く、市町村固有の事務と委任事務との區別もなければ、市町村に對する委任事務の外、市町村長に對する委任事務と云ふが如き觀念も無い。法令に依て市町村の事務と定められたることが總て市町村の固有事務と考へられて居る。英國の自治制度に於ては我國又は獨逸の制度に見るやうな市町村が公共事務を處理する團體なりと云ふが如き公共團體の權限を概括的に定むる規定が無いのである。即ち抽象的に權限を定めたる明文なく却つて市町村の事務が一々各種の法令に依て定められて居る。英國の自治制を輸入したる獨逸に於ては、上述の如く、廣く公共事務を處理する團體であることを市町村本來の性質とし

て居るに拘らず、其の母法たる英國の自治制に於ては、其の市町村の事務は一々法令に依て國家が市町村に委任して居る。我國なりの獨逸なりの自治體の權限は概括的に定められて居るけれども英國の自治體の權限は列擧的であると言はなければならぬ。此點は我輩の見を以てすれば自治の本源たる英國の方が少しく豫想外に感ぜられる。且又た英國に於ては、我國の市町村制の上でいふ市村町に對する委任事務も、市町村長に對する委任事務も、總て市町村の固有事務卽ち本來の自治事務と考へられて居る。我國で言ふと、小學校は其の性質に於て國の營造物であるが、之が設備を市町村の事務として、其の費用を市町村に負擔せしめて居る又道路の如きも、市道、町村道に至るまで國の營造物であるが、之が築造は市町村の費用を以てせしむることになつて居る。然るに英國においては、小學校にしても、市道、町村道にしても、市町村で設ける以上は總て之を市町村の自治事務として行ひ、勿論市町村の營造物と考へて居るのである。思想上から言へば、英吉利の自治制度は寧ろ簡易であるが、我國の如く理論的に說明し經理的に觀察することは、寧ろ英國の自治に缺けて居る。蓋し理論よりも實際を重んずる英國の國民性から生じた現象であらうが又自治を重んずる國民性が與つて居るとも思はれる。我國においては理論上國の事務であり國の造營物である所のものでも、英國では一旦市町村に託せられた以上は市町村自ら之を自己の事務を考へて責任を以て最善を盡すと云ふ情態で、斯の如き自治思想の厚き國民には、日本流の理論的の考は無くなるものと思はれる。自治體なるものは國家の權力の下に國權の一部を割き與へられ之を自己の權能として行使することを許されて居る團體であるから、自治體は勿論國家から獨立して居るものでなければ、又國家と相對立して居るものでもない。若し國家から獨立し、或は國家と相對立するものであるならば、其の自治體と稱するものは自治體に非ずして國家其者であると言はなければならぬ。故に自治體とは國家の下に存在を保つ團體を意味するもので、自治體の

權能の淵源が國家の權力であることは、自治體本來の性質である。然るに英國の地方自治は、國民思想の産物であつて、先づ自治體が成立して後に國家が成立したと云ふ風に考へて居る。此點を以て英國の國民は其の地方自治の基礎の鞏固なることを誇つて居る。實際から云へば正しくさうであらうが、理論を以てすれば此の思想は無論誤つて居るから、我國の自治制には適用すべからざるものである。然し此の一事によつて看ても英國の國民が自治の信念に極めて厚いことは自らに明かに分るのである。

自治の意義及び市町村の事務の範圍並びに其の分類は、茲暫右に述ぶるが如きものであるが、現に教育の整備して居る今日の我國に於ては、自治に就ての知識が餘程普及して居ることゝ察せられる。而も其の割合に自治其者の發達が捗々しくないのは遺憾である。それは何故であらう乎。之は最も重大なる問題で、吾人の研究を要すべきものと思はれる。我國の自治制は實施以來既に三十年を經過したとは言ひながら、英國の如く數百年を經過し來れる國とは固より比較すべきでないから、今日の情態を以て必らずしも歎惜するにも及ぶまいけれども、兎に角從來の成績を以てすれば、豫期の如き完全なる運用を遂げて居るとは言はれない更に大いに將來我等の努力を要するものがあると思ふ。抑々自治の發達を圖り其の成績を擧げやうと思へば自治に關する法律上の智識を普及するの必要なることは論述するまでもないが、我輩の見る所を以てすればそれ以上更に大なる必要を感ずるは、自治の思想、自治の精神、自治の情操を涵養することである。自治の思想、自治の精神、或は自治の情操と言ふものは自治の根本である。而して自治の根本觀念なるものは何かと言ふと一語にして盡せば自己で自己のことを處理するの謂である。理論上自己の事は自己で處理しなければならぬと云ふ智識を有して居つても、智識だけに止つて、之を實行しなければ滿足されぬと云ふ信念が伴つて居なかつたならば、未だ以て自治の根本精神を備へて居ると云ふことは出來まい。我輩の言はんとする

所は、自治の智識、自治の理論ではなくして自治の信念である。固より自治の信念、自治の精神を養ふ爲めには、地方自治に關する法律智識を修得せしめることも必要であらうが、市制及び町村制の何たるを知ることがヨリ大切で、之れに依て自ら自治の何者たるかを解し、自治の趣味を感じ、其の結果、自治の精神を養ふに至ることは疑ひない。自治に關する法律上の智識を普及せしむることも勿論肝要なれど、然しながら智識は必ずしも直ちに思想、情操、精神に化するものではない。市制及び町村制を讀んで之を解釋する法律上の智識は今日の市町村當局竝に其の關係者等が大體備へて居る。市町村行政の局に當る者でなくとも、市制及び町村制に關する智識は、教育の進歩と共に、漸次市町村民の主なる者の間に普及し來つて居る。それにも拘はらず、自治が發達せず、其の成績の擧らぬのは何故であらう乎、要するに自治の精神を體得して居ない爲であらうと思ふ。智識と思想、情操及び精神とは、動もすれば掛け離れて居るものゝ樣に考へられるが之が抑々自治の振興せざる主なる原因である。自己のことは自己の處理すべきものであると云ふ智識と共に之を實行しなければ滿足が出來ないと云ふ思想、情操、精神が大切である。

我輩は曾て歐米視察を試み、彼國の自治の實際を見ることに努めたが、外國の自治制度と日本の自治制度との比較の如き制度其者の研究に重きを置かず、出來ることならば、直ちに自治制度の運用情態や國民の頭腦中にある自治の精神如何を調査して見たいと思ふた。自治の精神は固より無形のものであるから、之を觀察することは容易でなかつたが、何とかして形の上から精神を見たいと思ひ、英國の中央官廳へ行つて監督の方法を聽いて見た。貴下の官廳では自治團體監督のために一箇年凡そ何人位、幾何の日數地方へ出張された乎、若し延人員、延日數が統計に示されてあるならば、それを示して貰ひたい、と言つて質ねて見た所が英國中央官廳の吏員は解答に苦んだ樣な顏をして暫し返辭が無かつた。仍て更に市町村の自治行政に付て立

入つて聽いて見た。例へば市町村會で不當な決議をしたり或は違法な決議をした時には何うする乎、縱來此等の事件があつた時でなくとも、中央官廳では豫じめ市町村の實況を能く調査して置かなければならぬと思ふが、斯ゝ用意を以て監督することは無いかと、斯ういふ點を重ねて聽いて見た。然るに係官の之れに關する答には、私の國では市町村が自治制を施行して自分の事は自分で處理することになつて居るので、中央官廳から監督に行くことを必要と認めない、成程時には不法不當の事が無いとも言へぬ、然しそれは自身で救濟して居るから別に干渉する必要がないと云ふ樣な辯解であつた。中央官廳では右の如き解答をしたけれども、尙ほ幾分の疑を懷いて居たので、今度は一方の監督を受ける側卽ち市町村側の情態を見たいと思ひ英國の或二三市に就て視察し、而して又聽いて見た。貴方の方へ監督官廳から一年に一回とか二年に一回とか監督官が來やうと思ふが、其の實況を承知したいと、斯う聽いて見たら、市の係員は立どころに之を否定して監督に廻つて來ることはないと言つた。それでは不當若くは不法な事があつたら何うするかと質ねて見ると、市町村は自治の團體であるから、萬一不當若くは違法のことがあれば、市町村民が自ら之を救濟する監督を待つまでもない事ではないかと云ふ答辯で、監督官廳と同樣な答辯であつた。勿論英國でも特別な事項に付ては監督官の制度あつて監察を行ふこともあり、殊に會計に關しては會計檢査官の制度あり、そして嚴密なる檢査が行はれて居るが、以上は英國の一般的監督に關する實際上の慣例を述べたものである。此の點から考へても英國人の自治の精神の强盛なることが分らう。自治の沿革が異つて居るし、國の歷史が同一でないから、彼國の慣例を直ちに我國に移すことは不可能であるけれども、其の精神は大いに採つて以て模範とすべき價値があらうと思ふ。然らば我國に於ては如何なる方法を用ゐて自治の精神を養成せば可なるべき乎と言ふと之れは實に至難の問題である。立憲思想や道德の觀念の養成も困難であるけれども、道德の命

ずる所の義務、之を體得する所の信念の養成は殊に難問題で、自治の精神も亦同様の感なきを得ない。結局敎育の力に待つより外に途がない様だ。家庭敎育及び學校敎育に於て兒童の時代から此の精神を養ふことが必要である。別して兒童の時から着手すると有效であると思ふ。兒童の時から自身の事は自身で處理すると云ふ精神が養成せられ、自己一個の事又は一家の事に付て之を自治する習慣が備はり、それが第二の天性となれば、此等の兒童が成長して補習敎育を受ける靑年時代に達し、社會の組織や政治上の制度を知らうとする欲求に燃ゐて居る時、補習學校等に於て彼等の自治精神を養ふことに都合好きは勿論で、斯くして國民の自治心が堅まれば、隨つて地方自治の發達が期せらるゝことゝ信ずる。

敎育に依て自治の精神を養ふことは、根本的方法であるけれども、同時に又遠大の計であつて、現在國政に携つて居る我輩から見れば、少しく廻り遠い感あるを免れない。そこで更に手近にして直接なる方法を考へなければならぬが、卑見を以てすれば、それは市町村民を訓練することが第一であらうと思ふ。市町村自治の訓練は各地に於て大分行はれて居るれども然し未だ徹底して居るものとは認め難い。又その訓練の方法に付ても大いに研究しなければならぬ事がある。比較的行はれ易く、且相當に有效なりと思はれるのは、世人も始終言ふて居ることであるが、市町村民をして其の市町村事務を始め、財政なり、敎育なり、其他各種事業の實況を知らしめて、之に依て自治の精神を養はしむることである。此事は相當效果あることゝ思はれる。曾てホーエと云ふ米國人が英國の自治を視察した時、グラスゴーへ行つて馬車を傭ひ、其の馬丁と對話を試みた所が、馬丁がグラスゴー市の豫算や、稅金や、水道や、瓦斯事業や、其他何から何まで市の事を仔細に話して聽かせた。そこでホーエは驚いて、君は大層市の事に詳しいが、何うして斯の如く熟知して居るかと問ふと、馬丁は平然として、私は市民であるから知つて居ります、市民は誰でも私位の事は知つて居り

ますと答へたさうで、此事はホーエの英國視察紀行中に書いてある。グラスゴーでは實際一週間に一回位市の事に付ての講演會が開かれ、其時には專門家が水道とか電氣とかの事を話して聽かせるから、市民は槪略市の事情を知り得るのである。英國の自治の發達して居ることは、沿革や他の種々の事由もあらうけれども一つは斯の如く自治に付ての訓練が行屆いて居る結果と言はなければならぬ。飜つて我國は如何と顧みるに市町村の事務に付て市町村民の知る所が甚だ少ない。それも無教育者と限らず、相當程度の敎育ある市町村民であつても、當該市町村のことに關して甚だ暗く、知る所の尠ないのが普通であるから驚かざるを得ない斯樣な事では自治の發達も前途尙ほ遼遠と言はなければならぬ。斯る事實からしても市町村の事務を市町村民へ明かに周知せしめることが今日市町村自治發達の有力なる手段であらうと信ずる。それは又一方に於て市町村事務の監督にもならうと思ふ。側面からの監督と言はうか、下からの監督と言はうか、兎に角市町村の事務が市町村民に明かに知られて居れば、市役所、町村役場に於て不正事件など起らぬ樣になるに違ひない。近頃地方の或町村では町村報を發行して町村に配布して居るさうだが頗る好計畫と思はれる。可及的種種な方法を以て市町村民に市町村の事情を詳知せしめることは手近にして相當效力ある自治訓練の一方策なりと考へる。其他靑年會や、在鄕軍人會や、隨時各種の會合を利用して市町村の實況を話して聽かせることは、現に各地に於て實行されて居ることゝ思ふけれど、將來益々斯樣な事に努力して貰ひたいものだ。市町村自治の實況が鏡に映るが如く市町村民に知られるならば、自然市町村民も自治に對し趣味を有することゝなるべく、從つて自治の精神も養成され、自治行政の發達進步を見ることであらう。要するに自治の發達は自治の訓練と相待つべきものであつて、それには出來るだけ種々の方法を講じて市町村民に自治訓練をなすことが何よりも必要である。習ふよりも慣れるであつて、慣らすことが一番大切である。

犯罪人と免囚保護事業

在旅順 池内勝里

出獄人の保護

即ち免囚保護事業といふことは特に近代の國家や社會として寸刻も等閑に付し得られない最も重要視すべき極めて大切な問題である。

現今この事業は可なり進捗して內地各府縣では殆んど施設されて居る。今大正九年度の調査に依ると其數が六百五十一、保護會資產百七萬二千七百八十九圓、この保護人員六萬一千五百十一人と云ふ尨大な數字を示して居る。蓋し免囚保護事業は、我邦に於ける社會事業の中での最古のもので、而して其の間口や奥行も可なり廣いのである。社會事業協會の名鑑に付いて見ると、現在社會事業の總數は一千四百五十六であるが其中の約半は免囚保護事業で、之れが最初の記錄は明治十三年に創設され同二十一年に保護所を設けた靜岡縣の勸善會で、其後明治三十年の英照皇太后崩御の砌大赦のあつたのを機會に大分出來たやうである。然し其の大部分は行刑官の指揮を受けて政府や免囚保護財團輔成會から若干宛の補助金を仰いで經營して居る一種の半官半民の事業で、官憲の補助も奬勵も受けず、指揮もされず、眞に個人の事業として獨力經營して居るものはないと言つてもよい位である。即ち自治的に個人の篤志で行はれて居る免囚保護事業は殆んど無いそれで先づ順序として免囚とは一體どんなものであるかを說明したい。

免囚の意義

免囚と云へば廣義に於て監獄から出て來た總てのものを包含するのである。であるから、一定の刑期を終へて出て來たものもあるし、また被告人として一時拘禁されて居たものが無罪なり不起訴なりになつて出て來るものもある。從つて其の種類も複雜で、强窃盜殺人もあれば、放火や瀆職罪もある

と云ふ風に千差萬別であるけれども、普通の場合は、刑の執行を完全に終つたもののみに對して云ふのである。即ち一年なり二年なりの懲役や禁錮に處せられ、監獄内で其の期間を經過したものであつて、免囚保護事業は是等の出獄者を保護するのが一般の原則となつて居る。刑事被告人として一時身柄を監獄に拘禁され事件が終結して出監する樣なものに對しては保護せないのである。

免囚保護の要

免囚保護事業なるものゝ根本を理解せうとするには、先づ免囚を何故に國家や社會が保護するか、又た保護してやらなければならないかと云ふ事から知る必要がある。

元來、免囚は國法を犯し、社會共同の生活に背き、安寧秩序を破壞したもので、國家をして多大の費用と手數と更に犧牲とを拂はしめた前科者である。個人としても、自己に對して危害を加へたものを憎惡し、場合によつては報復的觀念が起るのも當然である。之れと同樣に國家としても夫等の前科者を社會的に排斥することは風敎上善い事に違ひない。然るに却つて之を保護するといふ事は、勸善懲惡、因果應報の理法と矛盾せないかといふ疑念が起つてくる。そこが本論の主要な眼目となるのである。

一體國家が犯罪者のあつたとき、それを搜査逮捕し、そして監獄に送り、一定の期間苦役に服せしむるといふ根本の精神はどこにあるかと云ふと、それは犯罪者に其の受けた刑罰の苦痛によつて飜然悔悟し再び罪を犯さしめまいと云ふところにある。例へば小供が何か惡戲をした場合、親が叱責して其の不心得を矯正するのと同一である。そこで出獄した人間は、再び社會へ出て善良な人間として處世して行くかと云ふと、それは頗る疑はしい。中には改悛の情がなく出獄早々犯罪するものがあり、又た何かの動機によつて再犯しやうとするものもあり、それから自分では犯罪の意は毫もないが、社會が冷酷にも免囚であるからと云つて排斥して職を與へないから、活路に窮して止むなく再び犯罪するに至るものとあつて、大體三種に區別されて

居る樣である。例へば、一人の商店の小僧があつて、自轉車に乘つて街路を疾走中、偶々通行人に衝突し其の人を負傷せしめ、遂に死に至らしめた、そして過失傷害致死の罪名のもとに入監したと云ふやうなものは再犯の虞れがないが、之に反して賭博や竊盗掏摸の如き常習的犯人は、幾度入監しても改まらず、累犯する場合が多い。今一つは、入監中に充分心を改めて出監したが、世間で對手にして呉れぬ、對手にして呉れぬため、蓄財のない身には其日から直ちに生活の脅威を受ける、座して死を俟つといふ事は人間の生存的本能が許さぬから、そこで又詐欺をしたり竊盗をする樣な事になるのである。

私が曾て警視廳に居たときの事である、葉山正一(假名)と云ふ年齢三十一才の出獄人があつた。彼は二年の刑を終つて出獄したのであるが、親も兄弟もない孤獨のもので、僅かばかりの賞與工金を懷中して、其日から就職を探しに廻つた、知人や朋友を訪ねたが對手にして呉れず、どこの店へ行つても門前拂ひを食はされて、廣い東京市にも一人の彼に好意を寄するものがなかつた。その筈だ、柳原で間に合はせに買つた垢染みた袷一枚を二月と云ふ寒空に着て居るのみで、シャツも何もない、そして二年の間、日光の當らない獨房に閉ぢ込められて居たのであるから、顏色蒼白、誰人の眼にも監獄歸りとしか見られない。體軀も隨分大きかつたので、寧ろ薄氣味惡るい風采であつた。しかも一人の保證人もない彼を金まで出して使つてやらうと云ふ殊勝な人はない。けれども彼はパンを嚙り乍ら專念に職を求めて歩いた、歩いたが矢張雇主はなかつた夜更けてから日比谷公園のベンチにぐつたりと腰を下した時、懷中には一厘の蓄へもなかつた。腹は空いて非常に饑じくなつて居た。彼は暫らく身の不運を歎いた上、一層死を斷行せうと考へて、ヨロヨロと起ち上つた彼の眼の前を一臺の自動車が疾走した。彼は其の瞬間頭の中に簇々と社會を呪ふ反抗の念が新たに湧いて來た。其夜彼は竊盗をする意志でウロウロして居る所を本廳の刑事に捕はれ、浮浪者として拘留されたが

釋放と同時に輔成會へ送られた。彼は今では某工場に組長を勤め可なりの生活をして居る。

罪を犯すと云ふは勿論惡い事であるが、折角善良な精神に立ち返つたものが、窮困の餘り、或る動機から止むなく自暴自棄に陷り、遂に邪路に踏込むと云ふことは、當人のためには勿論社會のためにも悲しむべき事で、社會としても確かに其の一部の責を負はねばならぬのである。

保護の範圍

然らばどんな者を保護してやるか、出獄人の總てを保護してやるかと云ふと、それは出獄したもので、歸るに家なく、或は寄るべき親戚や知人もなく、歸るべき家があつても衣類や旅費がなかつたり、又は一定の職に就くことが出來得ないものを保護し、そして職を與へ、勞働に堪へられない病弱者に對しては施療し、以て將來是等の出獄者が善良な社會の一員として立つて行かれるやうにする。であるから、それ等に該當せないものは保護會として保護する必要はない。そこに保護の範圍が限定される。換言すれば、社會の良民として存立したいにも拘らず、社會が之を良民として遇せず、其の結果、社會を呪ひそして反抗心を起さんとするものを未然に防ぐのを目的として保護するのである。

保護の方法

免囚保護の方法は大別すると直接保護と間接保護とに區分される。前者は主として一定の保護場に收容し、規律的監督の下に金品其他の方法をもつて直接に保護し、後者は身柄が保護場に居らなくして、保護場の監督保護の下に他に就職し、或は書信を以て親戚や知人と調和を計るか、或は何かの機會に慰安を與へるとかと云ふ風に、本人以外の者を通じて間接に保護するのである。何れにしても、此の事業は社會一般の充分な諒解を得なければ眞に事業の發展と目的の貫徹とは期し得られない。

人類の幸福から云へば、同胞の總てが善良な人間であつて欲しい、從つて國法を犯したり、同胞に迷惑をかけたりするやうな人間を出したくない。然るに若し不幸にして刑罰を恐れず、社會の人を對手として犯罪

するものがあつたならば、國家として犯罪者に相當の制裁を加ふべきは勿論であるが、之れと同時に、再犯させぬやうに彼等をその改善に誘導することを等閑に附してはならぬ。

お互が生存を全くする爲めに、各自が衣食住の上に種んな考慮を施して、其の生活を脅かされないやうな措置を採ると同様、國家としても、出獄人を放置する事によつて生ずる社會的危險を除去する爲めに、また一面には道義的觀念に基いて之れ等の人間を保護してやる事は當然である。

滿洲では未だ此種の事業は盛んでない、僅に大正十年六月邊見勇彦外四氏によつて財團法人爲仁會といふのが創設されて居るのみである。これは滿洲唯一の免囚保護機關である。同會は同年七月事業開始以來、昨年十月に至る間に日支鮮人七十五名を收容し、物質的にも精神的にも之を保護感化し、堅實な成績を擧げて居ると云ふことだが、私は切に同會の健全を祈るものである。努むべしと說くと共に、司獄官、警察官、宗教家諸君の後援を望むは勿論、寧ろ此上に社會全般の協力と理解を冀ふ次第である。

滿洲經濟調査會と社會政策

大内大城

滿洲經濟調査會を設置して欲しいといふ事は數年來滿洲の識者に依つて唱へられた論議であつた。朝鮮總督府では、大正十年と記憶するが、朝鮮經濟調査會を設置し、其の調査會委員には、朝鮮に於ける官民側より委員を任命囑託した外、内地側からも官民の委員を擧げ、而して第一回の經濟調査會を開いたのは、世人

の承知せる事と信ずる。朝鮮經濟調査會の主旨目的とする處が、朝鮮の經濟並に産業の全般に亙りて、其の大方針を確立し、依て以て其の向上進展を期するにあつたは、玆に細説する迄もない事である。當時余輩は朝鮮經濟調査會の審議並に其の會議の經過成績に關して深大な興味を以て之を觀察したのである。勿論余輩は、經濟調査會が官廳の經濟政策に資せんとする一種の諮問機關たるに過ぎざる意味に於て、該調査會の決議や答申等が直ちに實行化さるべき性質のものとして多大の期待を懸ぐるものではないが、其の研究審議が一般の注意を惹き、夫れに依つて經濟政策の大綱を捕捉し、實行を促進し、而して其の嚮ふべき所以の方針を確立し得ることは、經濟調査會の基調たるべきものと認めたのである。

敢て此の朝鮮經濟調査會の顰に倣ふ譯ではないが、當時余輩は滿洲にも同樣の經濟調査會を起すの必要を認め、余輩の從事せる大連新聞紙上に其の設置の必要を記述した事がある。調査會設置の必要は獨り余輩の説述のみでなく、大連商工業者の公的團體たる大連商業會議所は其の役員會に於て滿洲經濟調査會設立の決議をなし、關東長官に對して之が設置建議書を提出するに至り、斯くして其の氣運は漸く促進さるゝ事となつた。次で大正十一年五月、全滿洲に於ける商業會議所並に實業會の聯合大會が開催された時、滿洲經濟調査會設置案が附議可決され、再び關東長官に對して設置建議書を提出し、其の發表實現を要望した。關東廳にても夙に經濟調査會設置の必要を認めたのは事實で、官憲當局者も其の設置の實現を言明した程であつた殊に最近滿洲經濟界に於て幾多重大問題の續發さるゝに至り一層其の設置の氣運を促せるは推知するに難くなかつた。此くの如くにして昨十一年十一月中、伊集院長官に依りて滿洲經濟調査會は設置せられ、委員の任命並に囑託を見ることゝなり、數年來の懸案であつた滿洲經濟調査會は玆に始めて設置實現するに至つたのである。朝鮮經濟調査會が其の委員中に內地側委員を含み居れるに對し、滿洲經濟調査會委員の總てが單

に滿洲に在住する官民に限られたのは、兩者相違の存ずる所であるが、其の孰れが可なるかは立入つて深く論究する程の必要もなかるべく、玆には暫らく之れを不問に附する事とした い。

滿洲經濟調査會の規程に就て忌憚なく論ずると、夫れは尋常有觸れた規程で、假令ば外交調査會とか財政經濟調査會とか敎育調査會とかの規程をその儘に寫し來つたもので、所詮一個の諮問機關として之を存置せるに過ぎない。諮問機關としての價値を認め得べしとするも決して實行機關としての權威を兼備しては居らない。此點に關して余輩は甚だ物足らぬ感あるも、然し夫れは必ずしも失望するを要せぬ事で調査會の審議決定した事項が常に實現さるれば足れりとすべく、夫れには調査會の審議決定が殆ど絕對的權威を有すべきものたるは勿論である。或場合に於て調査會が諮問事項外に就て意見を提示し若くば諮問事項の提示を要求するは必ずしも不可能の事でないからである。余輩は卽ち此意味に於て經濟調査會に對し先づ徒らに其の規程の末に拘泥するの愚に陷るなきを切望したい。經濟調査會設置の發表と共に、任命又は囑託された官民委員の顏觸に就ては、其の適不適に關して早くも種々の批評が加へられ、滿洲關係代議士の殆ど全部を委員に囑託せるを經濟調査會の主旨から見て無意義なりと非難せるもの、單に內地大會社の支店長などを拔けるの失當なるを論ずるもの、其の他種々なる論評はあつたが、其の委員に滿鐵から經濟財政通を拔いたこと、物產、製造工業、貿易業、金融業、株式、其他主要經濟方面の人士を集め得たことは、大體に於て宜しきを得たものと認めねばなるまい。有體に言へば、多年滿洲に在住し、眞個に土着永住の決心を有し然かも一般經濟事情に精通せる人士を物色して欲しかつたのであるが、最初から完きを得むは寧ろ之を望むの無理なるを知るが故に、余輩は餘りに委員人選に就いての棚卸しを爲すを欲せず、唯委員諸君の努力黽勉に依りて調査會の前途を有意義のものたらしめたいと希ふのみである。

さて以上は滿洲經濟調査會の置設さるゝに至つた前後の事情や經過を述べ然して其の設置を祝福した次第であるが、余輩が特に茲に述べて見たいのは、社會政策から觀た滿洲經濟調査會の意義如何である。更に之を言換へると、社會政策の見地からして、滿洲經濟調査會は怎ういふ社會政策上の問題を捉へ來つて之を諮問に附し又審議決定すべきかといふ事である。蓋し滿洲經濟調査會に附議せらるべき經濟財政に關する問題は、之を現在當面の滿洲における經濟事情から見ても、更に一歩を進めて將來の滿洲經濟政策を決定すべき點から云ふても、幾多の大小問題を含み居るべきは論ずる迄もない事で、其の緩急輕重に應じて審議決定を誤まらざる樣にするは、調査會の機能及び職分を發揮する所以の最善の途でなくてはならないが、社會政策から見て、如何なる經濟問題、如何なる財政問題、乃至吾人の生活に觸るゝ最も重要緊切なる問題が滿洲經濟調査會に依て先づ審議調査されねばならぬ乎と云ふことは、余輩の茲に論述したい主要の點である。夫れには一應滿洲に於ける主たる經濟問題を詮議して見るのが必要である。

滿洲に於ける一般經濟界は、大正九年春季の財界反動以來、引續き今日に及ぶも不況を蟬脫する事が出來ない計りでなく、爾來一層惡化の傾向を辿りつゝある樣に見ゆる。之は何人も認めて憂慮に堪へずとする點である。滿洲經濟界の事は日支人の經濟關係を離れては論究する事が出來ないと共に、其の日支の經濟關係が經濟界の消長に重大なる結果を及ぼす點と、更に滿洲に於ける邦人の經濟的實力が內地の如くに基礎の鞏固でない點とは、大いに考慮を要するところであつて、此の滿洲に於ける特殊の經濟事情が世界的不景氣に加へて一層滿洲の經濟界を不振に導いたのは否むことが出來ない。最近兩三年間に現はれた滿洲の經濟問題は多種多樣であつて而も餘りに世上に明らかであるから、爰に之を改めて說明するの要はないが、單に其の題目を列記する丈でも次の如く多數の事項を擧示する事が出來るのである。

一、大正七年より八年に亘る事業會社の濫設
二、大正九年財界反動以後に於ける事業會社の窮狀に陷りし事。其の多數は事業の縮少若くは解散等の整理を斷行し得ずして未整理のまゝ今日に及べる事。
三、大連特產取引所の建値問題に依て誘發された日支經濟關係の惡化
四、商業取引に對する信用制度の全然破壞
五、資金の不動產に固定した事
六、同上に依る銀行の運用資金缺乏並に極度に近い金融の引締
七、政府に對する低利資金の要望運動
八、滿蒙中央銀行若くば不動產銀行の設立計畫
九、滿鐵消費組合及び關東廳購買組合の設立
十、同上に對する全滿洲實業聯盟會の撤廢要求運動
十一、法人所得稅と煙酒稅の新設並に既設營業稅其他諸稅の增徵に依る市民負擔の增加
十二、同上諸稅の輕減を目的とする市民の運動
十三、教育銀行及び平和銀行等の仕拂停止事件
十四、銀行合同說の唱道
十五、物價調節並に消費節約の唱道
十六、市場問題、公設質屋設立問題、都市金融組合設立問題
以上擧示した各問題は悉く過去兩三年間に續發した大小經濟問題として認むべきもので、或は新聞紙に依

て幾度か報道論議され、或は當該關係者の直接請願若くは運動となりて現はれ、或は現實の破綻暴露となり或は窮苦を訴ふる悲哀の叫びとなつたのである。而して此等の經濟問題の殆ど大部分が今尚ほ適切の解決を告げて居らぬのは、余輩の言を待たずして何人も知る通りの事實に屬し、其の多くが世界的不景氣の結果に誘發されたは否定する能はざる所であるが、同時に又滿洲特殊の經濟事情に基因するものあるを認めねばならぬ。此等の經濟問題を研究調査し而して之れを解決する爲には、兩三年以前に經濟調査會を設置するのが當然であつたので、夫れが漸く今頃設置されたのは寧ろ遲蒔きの憾があると斷じてよからう。それ丈け問題が多くなつて居る。是れ余輩が一應過去兩三年間に於ける主たる滿洲の經濟問題の綱目を擧示して滿洲經濟調査會の今後爲すべき仕事が大小とも非常に繁多であるを告ぐる所以である。

事情已に此くの如くであるから、是まで滿洲に發生した幾多の經濟問題や、將來發生する事あるべき經濟問題に關し、滿洲經濟調査會が研究調査の中心機關とならねばならぬは、固より當然の事であつて、隨つて調査會の責任は隨分重大であるを知らねばならぬ。假令ば建値問題に對する終局の解決、滿洲中樞金融機關の新設若くば改善、其他調査會の諮問審議を經べき問題が二三にして止らぬは勿論、特に我國の滿蒙經濟政策の根本義を樹立するが如き其の最大なる使命でなくてはなるまい。然し乍ら此等の事は玆に述べんとする主旨でないから、余輩の所謂社會政策から觀た滿洲經濟調査會の使命如何を論ずると、余輩は經濟調査會に對して大凡次の如き各問題の解決を要望したいのである。

(一) 滿鐵消費組合並に關東廳購買組合と滿洲經濟界との一般關係

(二) 關東州内における營業稅の輕減乃至借地料等の輕減は果して社會政策上必要なりや其他諸稅の改廢が社會政策上如何なる重大關係を有するや

(三)　物質調節策如何

(四)　市場問題、公設質屋問題並に都市金融組合問題等の研究調査

滿洲經濟調査會に諮問さるべく又會自ら提示すべき社會政策上の問題として、以上の經濟財政問題が當面並に將來の研究審議事項であるのは、恐らく何人にも異論はあるまい。是は過去兩三年間に起つた經濟問題の内から社會政策に重大關係を有する事項を擧示したもので、此等の問題が單なる經濟問題でなく、社會政策から觀て何うしても解決せねばならない經濟調査會の主要議題たるは、特に細論する迄もあるまいと思ふ其他社會政策から觀て經濟調査會の審議決定に附せらるべき經濟問題は隨時に發生すべく、日支人勞働問題の如き、或は失業者問題の如き、何れも又調査會の議題に供すべき社會政策上の經濟的問題でなくてはならない。世人動もすれば經濟調査會を目して、早速にも低利資金を借出し來つて滿洲財界を景氣付ける機關であるとか、中樞金融機關の設置を叫び而して滿蒙經濟の大勢を指導すべき爲の機關であると信ずる向もあるさういふ事の研究審議を爲すも、無論調査會の使命及び目的の一つに相違ないが、斯る大綱に關した經濟政策の外、實際的に經濟上の實力を涵養し、而して共存共榮の主旨に則る經濟施設を實現する爲には、社會政策上の見地に依て特に審議對策するの必要ある筈で、寧ろ此方が經濟調査會の最も樞要なる任務であるを知らねばならない。余輩は此意味に於て滿洲經濟調査會の將來に注目したいのである。經濟問題と社會問題又は經濟政策と社會政策とは或點に於て不可分離の密接な關係を有つて居る。經濟問題の性質及び其の種類に依つては、寧ろ之を社會問題若くは社會政策上の問題として研究せねばならぬ事がある。社會的智識を缺いて經濟問題を審議決定し能はぬ場合もある。以上に掲げた余輩の綱目は僅に其の一端を示したものに過ぎないが、純乎たる經濟問題の内にも社會政策上考慮を要するものが有るのである。

尾見博士の臺灣物語

◆大連醫院長の尾見博士は去年の暮の臘月八日に開いた滿洲社會事業研究會第四回評議員會で興味津々たる臺灣談をされた◆博士は嘗て臺灣に居られたのだが昨年臺北市に開かれた醫學大會に出席し其の序に臺灣全島を一巡したのである◆臺灣は領有以來二十七八年の歲月を閲したので總てが能く統一され社會の組織が整ひ隨つて人情美に富んで居る◆滿洲のやうに色んな面倒な問題や物議や悶着や紛擾が起らず土人は勿論內地人も落付いて眞面目に働いて居るさうだ◆其の臺灣の人が尾見博士に向つて『滿洲は寒い處なので人情も冷たからう』と言はれ鳥渡返答に困つたと云ふことだ◆氣候の寒暖に依つて人情にも冷熱があるといふ理屈もあるまいが臺灣の人の人情に溫かいのに較べて滿洲の人は概して人情に冷たいと思はれる節が多い◆自己本位で他人の事など心配して居られるもの乎と益々盛んに利己心を募らせ何等の思ひやりもなく銘々勝手な事をする調子では社會心も自治心も決して發達する道理はない◆尾見博士は臺灣における人情美表現の一例として某會社長と警察署長と醫院長とが競ひ合つて不見不識のものを助けたと云ふ美譚を物語つた◆臺灣で肺病に感染し不幸にも除隊された某といふ一下士が陸軍の無人情なる仕打に憤慨し一面識もない某會社の社長に宛てゝ一封の手紙を出した◆その手紙を受取つた社長某は氣の毒に思ひ早速その人に面會し逐一事情を聽き先づ當座の凌ぎにとて拾圓を與へた◆すると其人から又『お蔭で滯りの下宿代を拂つた最早此世に思ひ遺すことはない感謝します』と云ふ手紙を寄越した◆某會社長は此の手紙を見て『死ぬ決心と見ゐる之りや斯うしちや居られぬ』と態々その下宿先を尋ねると居ない◆驚いて直さま警察署に搜索願ひを出し引返して又下宿屋に來て見ると其男が歸つて居たので懇々說き諭して自殺を思ひ止まらせた◆之を聞いた警察署長は俺も一肌拔ぐと云つて某

會社長と共に病苦と貧苦に痩れた男を或病院に入院させた◆すると其の病院長も君達の仲間に入れて呉れと云つて某の無料治療を引受け三人して到頭此男を助けたのである◆と斯う語り來つて尾見博士の眼底には一滴の露が宿つて居た何と麗はしい話ではないか滿洲に斯樣な美譚があるか知ら◆尾見博士の臺灣物語りは更に益々佳境に入り民衆浴場、寒天浴場、結核療養所、不良少年感化院、盲啞院その他の社會的施設が行屆いて居ることを述べ◆臺灣の製糖事業は既に行詰まり樟腦事業も楠の壽命が向後二十年位に過ぎぬので其の增殖調査のため蕃地の奥深く入つて働いて居る内地人がある◆マラリヤに罹つたり毒蛇に螫されたり崖から落ちて死んだりする者もあるが撓まず屈せず熱心に健闘を續けて居る◆毒蛇の研究に六七年も專念して居る者がある此人は今伯林に留學中だが此外にも靜かに落付いて研究したり創作したりして居るものが尠からずある◆其の一ツに斯んな物があると云つて博士は携ねて來た蛇ステッキを出して一同に見せた靑大將で作つた蛇ステッキだ◆此奴はすてきだ。。。抔と洒落れて捻くり廻す者があり無慾の金子翁も之れは珍物だ尾見君一本宜しく賴む抔といつて居た◆博士の話はそれから蕃地蕃人の事に及んだが盛裝して出迎ねた蕃女が能く滿洲の地理を知り大連には大山通り山縣通り兒玉町といふ町があると語つたのには流石の博士も驚いたさうな◆東宮殿下が追つて臺灣に行啓遊ばすと聞いて蕃人等は山の上に楠で作つた大きな御殿を建てたとは皇化邊陬に及ぶの證とし洵に感激に堪ねない◆蕃人でも南蕃は蘭領時代から敎化を受けたので進んで居るが夫れでも未だ何處かに拔けた所があると見ね◆電燈を珍らしがり室内にぶら下つてる奴を切離して其儘持つて行つても電燈が點るものと思つて居るとの博士の話に一同ごつとばかり笑ひ崩れた◆猶ほ色々と面白い話もあつたが先づ此位にして置く滿洲の社會も早く落付きと餘裕と親しみのある樣にしたいもので御座る。

研究資料

近代支那の勞働運動（上）

各地に於ける罷業の狀態

支那に於ける勞働運動は昨年に入り殊に目覺ましく各地に勞働團體の簇出を見また可なりに多數の同盟罷業も行はれたが其の多くは勞働者の勝利に歸した昨年八月國會の開催せらるゝや勞働立法運動卽ち勞働法を憲法に規定せよとの運動が熾になり中國勞働書記部なるものが其の中心となり各地の勞働團體も之に響應して盛んに氣勢を揚げ議員童啓秀等は勞働法案を議會に提出した此等の運動は果して勞働者多數の自覺に基くものであるか夫れとも二三者の煽動に因るものであるかは臆斷の限りでないが其力は輕視し得ないものがある樣に看取せらるゝ玆には單に昨年に入つてからの重なる同盟罷工の實例と其の勞働立法運動の狀況を述べて見ようと思ふ。

各地の罷業

（一）香港海員の罷業　香港廣東方面は支那の中でも殊に勞働運動の盛んな地方であつて一昨年五月から昨年一月末まで廣東に於ける罷工總數は二十八（海員の罷業を除く）その人員五萬六千と稱せられて居る斯く此等の地方で勞働運動の盛んな所以の一としては謝英伯陳公伯一派の勞働黨の宣傳を擧ぐることが出來よう今玆に述べんとする海員罷工に就ても右の勞働黨は是に對し有力なる後援を與へて居た。

香港に在る支那人の海員公會は一昨年十一月頃から船主側に對し賃銀の增加を要求して居つたが船主側が之を顧みないに因り同年一月十二日から同盟罷工を開始して續々下船し同十五日迄には其數八千を算するに至つた彼等の要求は月給三十弗以下は三割、三十弗以上は四割を增給せよと云ふのであ

る此要求に對し一月十六日船主側は七分五厘乃至二割引五分迄の増給承諾を發表したが海員側は之に應せず彼等のうち四千名は廣東に引揚げ廣東海員罷工辦事處なるものを設けて謝英伯を總理とし飽迄對峙の氣勢を示し次で二月一日には香港に於ける石炭積込荷揚人足帆船組合、小蒸汽乘組員等十數組の勞働團體も船員側に左袒して同盟罷工を決行し廣東に引揚げた斯く事態は日に惡化して來たので二月三日香港政廳は海員公會に對し安寧を害するものとして關係者數名を監禁し之が爲め事件は單なる賃銀問題を離れ香港政廳對廣東勞働者の持久戰たらんとするに至つた併し一般商人は罷工の繼續に依る苦痛に堪へず海員側に熟考を促す所あり是に於て罷工海員も稍その態度を改め二月七日大會を開き賃銀問題に對しては多少の讓歩を示したが一方海員公會の復活を要求した然るところ此の海員公會の復活に就ては香港政廳側は政廳の威信に關するとて初めは之を承諾しなかつたが二月十五日に至り支那商人及び各團體の要求に應じ海員側が必ず復業するに於ては復活を許可すべしと宣言し茲に漸く解決に關する一致點を見出だした然るに賃金問題に入るや又復た紛糾して容易に妥協點に到達せず事態は更らに逆轉し二月二十八日より三月一日に亘り西洋人使用のコックボーイ、保姆、英字新聞及び外人經營印刷所の植字工、印刷工、外人旅館及び西洋料理店使用の料理人、麵麭燒職人まで一齊に同盟罷業を開始し而も範圍は之に止まらず各洋行の使用支那人並に海底電信局及び電話局の支那人も四日より罷業を開始すべき旨を宣言した是に於て香港政廳は武裝兵士をして各所を警戒せしめ又非常條例を發布して電信を檢閲し勞働者の服役を强制し更に罷業者の廣東行を防ぐが爲め廣九鐵道の運轉を中止する等種々の非常手段を決行した此際に於て香港に繋留せる船舶は百七十隻に上つたとの事だ。

　惡化せる形勢は遂に三月四日に至り流血の慘事を見るに至つたが這は罷業の最高調に達したもので同日雙方の間に漸く折合付き香港市政廳に於て各代表相會し午前十一時より會議に入り種々討議した結果午後四時過ぎ漸く妥協成立した解決條件は歐米濠洲航路一割半沿海航路二割、内地河川航路支那人經營のもの三割、同外人經營のもの二割の增給を認め一月一日に遡りて支給することゝなり海員側

の要求は殆ど希望通りに容れられたのである猶ほ海員公會解散命令取消に就ては三月六日香港政廳より其旨を布告し斯くして五十餘日に亘る大規模の罷業もこゝに漸く一段落を告ぐるに至つた。

（二）上海日華紡績の罷業　四月六日上海浦東の日華紡績の職工は同工場に對し生活の困難と同工場職工の賃銀が他の工場のそれに比し三割方少いとの理由の下に第一第二工場職工全體の名を以て賃銀二割の増加を要求した工場では其理由なきことを指摘して要求を拒絕したるに因り四月十六日第一第二工場職工三千餘名は全部罷工を開始した併し其後浦東第三區警察署長の個人的調停の結果（一）職工の工賃を一割二分増加すること（二）罷工中の工賃は三日分を支給すること（三）毎年一回宛増給すること（四）理由なくして職工を解雇せざること等の條件を以て妥協成立し同二十六日より復業したが其後女工の出來高計算問題を動機に端なく五月二十日より再び職工全部の罷工を見るに至つた。

其理由とする所は該工場では女工中の熟練者に對しては賃銀出來高拂制を取つて居るが故に彼等は一日七八十仙の收入があるが不熟練女工は日給制であるが爲め其收入は遙に之に及ばないと云ふのである是を以て不熟練女工中多少の自信を有するものは工會（日華紡績工會）の代表張益章を通じ全部の女工に出來高制を採用せられたいと要求したが工場側では之を容れず之れを動機として再び此罷工を見たので職工側では出來高制の外左の諸項を要求した。

（一）工會を認むること（二）職工監督及包裝係の日本人は理由なくして職工を毆打するが故に之を更迭すること（三）罷業の爲め職工の受くる損害は工場に於て之を賠償すること（四）工場規則を制定し職工の出入は支那人の職工長之を整理し規則に違反するものは規則に依つて之を處分すべし日本人は濫りに之に毆打を加へざること而して以上の各項は必ず嚴正に履行する事。

此の爭議も前記浦東第三區警察署長の調停に依り種々交涉の結果（一）前同取極めの四ヶ條の契約は之れを承認すること（二）日本人の職工監督は職工側の要求に對し之れを容れることはしないが自ら進んで辭職すること（三）滿一ヶ年以上勤續して技術に熟練せりと認むる女工に對しては賃銀出來高拂制を取ること（四）各職工に對し二日分の賃銀を支給すること（五）職工代表なる工會會長郁文英及副會長

張益章は辭職し工場より三ヶ月分の給料を支給すること以上の協定成り此の協定の下に六月四日より全部復業するに至つた。

(三)上海支那郵便局配達夫の罷業

上海支那郵便局配達夫約四百名は昨年四月二十四日より罷業を開始し郵務長に向つて(一)八時間制の實行(二)月給五元の增加(三)身元保證金廢止の三項を要求したが此運動には局内勤務の者も參加し二十六日には其の數八百に及んだ結局折衝の結果二十六日夜(一)月給二元五十仙の增加(二)勞働時間の短縮(三)身元保證金は六十元までとし辭職の際利息を附して返還することにし雙方の間に之が妥協成立を見るに至つた。

支那の社會と階級

有姓者と無姓者との別

世人は支那を指して無階級だと云ふが併しこは表面的觀察の結果であるそは民國の書籍を讀んだと稱しても未だ一切の典籍に目を徹さぬが爲めであると云ふのは世間で多く讀まるゝのは大抵政治方面にのみ偏した治者の記錄であつてそれを以て一般人民に關するものと卽斷するからである。

卽ち儒敎では平等を力說し其平等の世ばかり說いて居たので今日でも皆それに謬られて居る佛敎は最も平等の敎へには相違ないが佛敎の母國の印度には非常に嚴しい數段の階級がある儒敎と支那の家族主義とは關係が深く而して其の家族主義では孝を以て百行の基と決めて居る祭葬を重んずる喪期三年は古來からの大禮で上は天子より下庶人に至るまで其規を亂す事は出來なかつた這は儒家の通說である然るに唐の文君の言は三年の喪は自分の本國の魯の君も實行した事はないと云ふて居るから儒說のみを信ずる譯には行かぬ。

然るに日本の服部宇之吉博士も此の誤謬に陷つた一人でその選定になる「儒敎と現代思潮」に支那の無階級を斯う說いて居る曰く「成人禮を云ふ刑夫に上らず禮庶人に下らずと十刑夫、庶人とは卽ち階級の別に屬す階級移動性なきを知らず十刑夫と庶人と果して階級を爲さば卽ち士大夫は絕對に降りて庶と爲らず而して庶人も亦絕對に士大夫と爲るに涉らず今や然らず大丈夫の子孫不善なれば降りて庶

人となり庶人の子孫善なれば渉りて士大夫と爲る兩者の間絶大の移動性あり階級の區別何ぞ能く成立せん」と余輩は博士の此見解には重大の誤解がある思ふ何故かと云へば士大夫と庶人とは官級の別であつて決して階級ではないのである支那の階級は右以外にある博士は又曰く「苗畝の間に立ち廟堂の上に登る」と支那政治界に常に生ずる現象を指して一々例を擧げて階級の無い事を明かにし尙堯が遂に讓位した事實を引例してこれを裏書して居る。併し歷史を査べて見ると帝舜は決して庶人ではない其祖先は帝室である此説は汪究甫が已に百年以前に之を指摘して居る其父の瞽叟の子なるものは古の史官である其家も決して零落して居たのではない斯んな有樣であるから上古の社會組織を明かにする爲めには先づ儒家の一切の宣傳を取り去つてからすべきで左うしてこそ眞を摑み得るのである。

支那の社會階級は余の知る處では有姓者と無姓者の別がある姓の原始的意義は許愼が著はした五經異議によると「古の聖人には皆父が無い母が天の靈感を受けて生んだものだそれで天子と稱しそれから姓が出來たものである」として居る而して此姓なる者は母系氏族の產物であつて治者階級の專有物であつた詩に「天玄鳥に命じ雨を降らして商を生む」とある之れもまた治者階級成生説の一證である其時分の天子は皆自己が天帝の血統である事を力説したものだ天帝と同族のものは民である而して百姓と民とは古代には極めて嚴重な區別があつたのである。

依鄭玄の解釋では刑は天帝が三苗を征伐したとき苗を治むる爲めに用ひた法である苗族は不逞の民族であつて天帝は之れを民と云ふ名を與へた「民」は「冥」であり王道を知らないと云ふ意味である。書の「堯典」にも亦黎民と百姓とを區別してある鄭氏の解釋は古書經を遺補する者と謂ふべしである之によつて見ると中國古代の社會階級は少くとも二つあつた一は有姓者で黃帝の子孫だ戰國時代の世本は其記錄である彼等は既に姓があり從つて又氏を有する樣になつた氏は爵の事であるそして『民』は如何ほど優秀な者でも其地位は常に百姓の下にあつた孔子の春秋では世襲の上流者のみ嚴重に責めて居るが右は地位關係の事である。

周末に野蠻人が攻め込んで來たので國都を西安から洛陽にと東遷したそこで世襲的階級制度は破壞

せられざるを得なかつた次で又戰亂が數百年繼續し社會組織の根本は益々動搖して來た寧戚とか百里奚とか弦高とか云ふ人たちは皆微賤から出身して高位高官に登つたが之に反して亡國の諸侯や大臣宰相等は遙に下位に下つて奴隸の樣な境涯に零落した者もある余は式微の歌や黎離の詠を讀む毎に彼等の悲境に對し同情の涙を流さずには居られない周末社會現象の內最も注目に値するものは商人階級の擡頭である元來商人なる者は四民の內で士農工商と云はれる通り最低階級である農と比肩し得られないのは勿論士太夫とは比較が問題にならなかつた階級である然るに社會の經濟が發達してから貨幣の價値が增大し商人の勢力漸次擴大し遂には王侯さへも其前に頭を下げねばならぬ樣になつた。

魏の文侯が段干木を訪問したのは其の好適例である文侯が段干木を訪ねた事は一般に人君謙德の美談と稱讚して皐甫謐して高士傳には段干木を隱君子と稱して居るが實際は違つて居る淮南子で見ると右段干木は晉國の大祖である祖先は馬喰の事で賤商である社會の大多數は仲介商の一種で決して隱君子ではないのだ文侯は馬喰の前に頭を下げた譯で卽ち商人の社會上の地位が向上し富商の前には君子でも頭を下げねばならぬ樣になつたのである夫れから後に陽翟の商人呂不韋の如きは察の公子を奇貨として商品に對すると同樣に投資し大宰相の爵位を儲けるに至つた其後賤しむ習慣は追々除かれて來たのである。（某支那通談）

時代の變化と僕婢の減少

米國に現はれたる最近現象

我國に於ては近來僕婢となりて生計を求むるもの漸次減少し何れの家庭に在りても其拂底に惱み居るは事實なり這は大戰以來事業勃興の結果男女とも職を得るの途容易となれる結果にして反動期に入りても此事情には著しき變化を認めず一般產業狀態が更に沈衰するに至らば果して如何なる狀態となるかは豫斷し難きも是等の職業に甘んずる者の數が恐らく戰前の昔に復することなきは略ぼ信じ得べきに似たりと言ふ者あり。

今米國に於ける最近の國勢調查

の結果に現はれたる所に據れば前調査期と相隔る十年間にして僕婢の數は著しく減少せり蓋し其の多くは器械力の之に代はれるが爲にして電流の低廉に供給さるゝ結果家事の殆んど凡てが電力を以て行はれ朝食は電氣炙りのトーストにて濟まし中食、夕飯は外に出てゝ辨ずるもの增加したりと覺しく料理屋、カフエーの數は約四割五分の增加を示し一年一度は歐洲に旅行し家にはグランドピアノを備ふる家庭にして一人の僕婢を使用せざるもの頗る多しと云ふ。

從來米國の統計に依れば富力の增進は必らず僕婢の增加と相伴ひたるが最近十年間に於て米國の富は著しく膨大し人口亦一割五分の增加を見たるに拘らず僕婢の數は之に伴ひて增加せざるのみならず事實上減少せり而して之に反し增加せるは器械工にして殊に工具及び染料製造人は某市の如き九千二百六十三人より五萬五千九十二人に增加し其率約五十割に達す右十年間に增減せる注意すべき職業の種類を表示すれば左の如し。

小間使	二割六減
家從、侍女	二・七同
乳母、洗濯人（男女）	二・五同
李針（男女）	四・七同
裁縫徒弟	六・三同
一般僕婢	二・〇同

土木技師	五・三增
器械技師	一六・〇同
小學校敎師	二・六同
大學校長及敎師	一・三同
意匠家、製圖工	五・二同
瓦斯工	三・九同
電氣工	七・七同
器械工	八・三同
看護婦	八・一同
齒科醫	四・一同
眼鏡商	一〇・一同
銀行、取引業	五・三同
小賣人（男女）	二・六同

各職業人の生計調査

筋肉勞働者の進歩が分る

協調會では先に東北地方、東京地方、名古屋地方、大阪地方、中國地方、九州地方に大別して官公吏、敎員、會社員等の精神勞働者と職工等の筋肉勞働者千六百世帶に對し一年間の生計簿記入方を依囑したが右のうち八百世帶が昨年の五月までの一箇年間の家計狀態を完全に記入して日本に唯一の生計調査統計を提供するに至つた現在世界に最も完全した生計調査統計として呼稱されてるのは一九一

七年の獨逸に於けるそれであるが同統計の記入引受者と完成者の率が僅二十三パーセントに過ぎなかつたに比し協調會のそれは半數といふ好成績を示し且獨逸のそれが收入の點に缺陷のあつたを遺憾なく補ふなど世界的の價値あるものと云へる尤もこれが一冊子として世に現れるのは本年三月中で完成と同時に各方面に頒布されるのは勿論他の諸外國に向つても發表さる筈である右統計作成の衝は當つた同會の梛原平八氏は其の統計に準じて左の如く語つた。

職工も官公吏、敎員、會社員も月收五十圓から三百圓までの家庭について調べたのであるが米麥の主要食糧では吏員が支出の九・五三パーセントであるに對し職員工一一・七七パーセントで之を見ると筋肉勞働者と精神勞働者の食比が直ぐわかる被服費は吏員一一・九三パーセント職工が九・九九パーセントで所謂智識階級に屬する人が社會的體面上苦しても着飾らなければならぬ心理がわかる修養費卽ち書籍其他にかける費用が吏員は一九二パーセントであるのに職工一・〇七パーセントへといふ意外比率を示しているが之は新興階級として勞働者が近時の思想問題に目醒めて高踏的な雜誌書籍類に目を向けて來た割合に所謂智識階級がそれ程でもないことを語る證據である貯蓄心はその日暮しと云はれる勞働者の事だから尠からうものを吏員の一八三八に對して一七・一を示してゐるから面白い家賃は吏員の一二・九八に對して職工一一・七二だ猶ほ生計簿を仔細に見ると「ケに五圓」としてあつてケは自分の愛人だと附記してあるなど本統計が如何に眞面目なものであるかを思はせると。

無料で結婚媒介

結婚の出發點が惡い爲めにいろ〳〵な家庭悲劇が起るにも拘はらずそれが營利主義の媒介所の手に委せられてゐるのは同性の爲めに忍ぶべらざる事だと感じて一つには無爲でブラ〳〵遊んでゐる今までの生活にあきたらず極めて家庭的に自宅を開放して男女の結婚媒介を一切無料でやつて見ようと云ふ婦人が現はれた此の婦人は東京市府下の資産家齋藤色齋氏の夫人千代子さんで第一回の目白女子大學の家政科出身である夫人の理想は飽まで理解し合つた男女の緣を結ぶにある卽ち後悔のない結婚生活を聞きたいと云ふのが主眼である方法としては求婚希望の男女から寫眞を貰つて置いてその寫眞を見て見合ひをしたいといふ場合には兩の仲に立つて其の勞を取り話が纏まれば別に媒酌人を立てゝ婚約をしソレから結婚まで三四ケ月監督しつゝ出來るだけ自由に交際せしめんとするのである。

本會第四回評議員會

留岡氏の農村談と尾見氏の臺灣談

滿洲社會事業研究會第四回評議員會は十二月八日午後七時より大連市役所委員室に開會し前回懸案の借家爭議調停問題、市場改善案、西公園改造案に就て協議したが借家爭議調停問題は村田評議員が事故缺席のため次回に延期し市場改善案に就ては大內幹事より說明のうへ更に調査を遂ぐる事とし調査委員に伊佐、川上兩評議員及び大內幹事を選定し西公園改修案に就ては大連市より關東廳に對し該公園の市移管建議を爲す筈であるから夫れと前後して建議する事にし猶ほ山田幹事長より新鄕土倶樂部設置に關する提議あり其要旨を說明したが之も次回に審議する事となし當夜の協議事項は之にて終つた。

新鄕土倶樂部設立案

關東州及び滿洲の社會は之を新領土たる朝鮮又は臺灣の社會に比すれば根抵の事情全く異なるが爲とは申せ概して落付きと餘裕と親しみを缺ぎ猶甚だ未成的なるを免れず殊に此の二三年來は財界の急激なる變動と各方面に於ける人員の頻繁なる異動に依りて一層落付きと餘裕と親しみを失ひ其の結果常に動搖多くして好ましからざる種々の事件問題を生じ之が爲め延いて人心に不安を與ふること決して鮮少ならざるものあり

歐米諸國の都市には近來ロータリー倶樂部なるもの盛んに設立せられ各階級各職業の人物が其の階級及び職業より蟬脫して單なる人又は單なる市民として此の倶樂部に會合し交情を溫め修養を積み智識を磨き社會上の重要問題に關しては特に意見を交換し間接又は直接に社會奉仕に努めつゝあり我國にも東京及び大阪にロータリー倶樂部の設置を見るに至れり關東州及び滿洲の首都たる大連にも此種の倶樂部を設くることは如上の大勢に鑑み極めて必要事たるのみならず關東州及び滿洲の社會は故國を去りて此地に移住せる我々日本人殊に此地を墳墓の地とせる土着的人物に依りて其の根基を堅め而して其の文化と產業を進め一面先住民族と親和融合し互に長を採りて短を補ひ寧ろ故

國に優れる新郷土新社會を建設せざる可らざるを以て吾人は各階級各職業の上に於て應分の努力をなすと共に一面單なる人又は單なる市民として社會全體のために和衷協同するの要あり

現在に於ける關東州及び滿洲の社會狀態は固より變態的のものなるも之を今日の儘に放任するは決して健全なる新郷土新社會を築成する所以にあらず仍てロータリー倶樂部の趣旨精神に則り爰に新郷土倶樂部なるものを設け各階級各職業の重なる人物を集め和衷協同して互に相親しみ相修め相勵まんと欲す此種の機關は智見を擴め人格を高め情味を深むるに至大の力あり

第一條　新郷土倶樂部は各階級各職業の人物殊に永住土着の人物を中堅として組織す

第二條　新郷土倶樂部は一種の社交機關にして交情を温め修養を積み智識を磨き相互扶助に努め社會上の重要問題に關しては特に意見を交換し社會全體のために和衷協同するを以て目的とす猶ほ土地の重大問題に就ては特に會合を催し審議討究して之が目的貫徹に努むべし

第三條　新郷土倶樂部は本部を大連に置き大連市役所樓上を以て會場とし臨時會合の必要生じたる時は別に其の會場を定む

第四條　定期會合は毎月一回とし質素なる茶話會を開くものとす

第五條　新郷土倶樂部には役員を置かず但庶務を掌理するため常任委員一名、輪番委員二名を置き而して輪番委員は一年を三期に立ち一期毎に互選に依つて之れを定む

第六條　本倶樂部員は庶務に要する經費として毎期(四箇月)毎に金五十錢を醵出し隨時必要の費用は等分に之を負擔するものとす

第七條　庶務及び會計等は毎期毎に委員より全部員に向けて之れを報告す

第八條　本倶樂部員は萬己むを得ざる事故の外脫退するを得ず

夫れより當夜牧野評議員と共に臨席された東京巢鴨家庭學校長留岡幸助氏（奉天の滿鐵醫院に入院中の令息の病氣見舞に來滿されし序を以て大連に來られたのである）は評議員牧野虎次氏と共に臨席され左記の如き有益なる講演を爲し次いで評議員尾見博士も又別項記載の如き極めて興味ある臺灣談を試みられ各員茶菓を喫し胸襟を披きて相談笑し午後十一時散會した當夜の參會者は左の諸氏である

金子、今正副會長、相生、村井兩相談役、尾見、牧野、伊佐、柴田、香山、郭學純(代理)各評議員邊見爲仁會長、菊地同會理事、片平氏(旅順)及び山田幹事長、大內幹事、永田、白木兩書記

内地に於ける現在の重大なる社會問題

東京家庭學校長　留岡幸助氏談

内地に於ける現在の重大なりと信ぜらるゝ社會問題に就いて申上げたいが腹案があつて申上ぐる次第でないから前後を混ずることもあるべく纒まつたお話が出來ないのは諒とされたい。

私は現今に於ける内地の重大な社會問題の一として都市と農村との關係如何、都市及び農村の文化施設如何、農村の疲弊及び農村の騷擾等を主として述べたい。都市と農村との關係に於て人口が都市に集中して農村が益々閑却さるゝ傾向は近來殊に著るしいものがある。都市は人口の集中と共に諸種の文化的施設が行はれ一國の文明は都市に於て其の光彩の陸離たるものを認め得るも之に反し農村は人口の減退と共に漸次寂寞を加ふるに至り荒廢に次ぐに疲弊を以てするもの比々皆然りの狀がある。文化施設の如き農村には殆ど期待し難き狀態である。私は都市と農村との關係は少くとも總ての方面に於てバラレルでありたいと希望するものである。

本年（大正十一年）は日本全國を通じて米作豐收を傳へ農村の好況を來すべしと信ぜられて居たが夫れは皮相の觀察に過ぎない。米價の低落するに伴ひ農村に不安と恐慌を生じ聽てそれが失望となり騷擾となり大日本農會の如き全國農民を代表して米價の低落は卽ち農村の破滅であるとまで絶叫するに至つた是れ卽ち豐作は凶作との諺を生ずる所以で米價問題は農村に對する死活問題といふべき程に重大の關係を有するから隨つて米價調節は現時の重大問題といふべく而して其調節が農村の生產費を償ひ得べき以上に於て行はるべきものたるは自明の理であつて之れは何人と雖も否認出來まいと思ふ。

夫から全國農村に於ての現時の重大問題は敎育費國庫支辨問題で是れは御承知の如く本年（大正十一年）全國町村長會議に依て敎育費四千萬圓の國庫支辨を政府に要求する事となつて現はれた。現在の町村敎育費が町村費の半額以上を占め尙益々其の額を增加するは町村民の負擔に堪へない主たる事由で之が爲め農村の地主若くは資本家は其負擔の加重を恐れ相率ゐて都市に去るの傾向を馴致して居る。斯く

して農村に殘るのは中以下の農民であるから其負擔の加重は尙更ら堪ゆる處でない。政府は來年度豫算に敎育費國庫補助三千萬圓を計上する事となつたと報ぜられて居るが兎に角町村敎育費の負擔增加が農村の實力を殺き隨つて之を疲弊に導く一大原因たることは爭ふべからざる事實である。

　都市營業稅の撤廢運動は本年(大正十一年)に於て熾烈を極めたが政府は遂に其輕減を行ふ事となつたらしい。已に都市の營業稅を輕減したら之と相待つて均しく農村地租の輕減を實行すべきは當然で全國農村が所謂農民黨ともいふべき團體の名に依つて地租運動を開始するに至つたのは寧ろ當然の成行と言はねばならぬ。從來農村に對して政府と政黨が能く理解力を有つて居たかと云ふと政府も何等の理解を有せず政黨に在りても眞劍味に農村問題を硏究しない又言論社會の如きも其の多くは都市に在りて都市を本位として論議するので自然と農村問題を閑却し易い政府や政黨や言論社會が斯の如き狀態であるから總ての問題は都市關係に於て重きを置かれても農村關係に付ては毫も考慮されない。我國の總人口中約三千五百萬人の農民を有する農村が政府からも政黨からも又言論社會からも重視されないといふ事は極めて重大なる社會問題として取扱はねばなるまいと思ふ。私は農民黨ではないが都市と農村の關係並に農村の疲弊等から觀て農村のため此重大なる社會問題を解決せねばならぬものと信ずる。

　次に內地の社會問題の重大なる他の一つは小作爭議である。是れは勿論今日に始まつた問題ではないが小作爭議は近來益々惡化し從つて夫れが更に一層農村の荒廢破滅を誘致しつゝあるのは由々しき事態と謂はねばならぬ。其の結果として今日に於ては小作料は支拂ふべきものでないとの極端な思想が瀰漫して居る。又小作人が五町歩なり十町歩なりの小作地を地主に返還する場合その小作地の半分以上が委棄されて居るを見る事が珍らしくない。一方地主は其の土地を賣却せんとするも容易に賣却し得ざるの實況にあるため益々荒廢に委棄される。此等は小作爭議が頻發して解決されざると都市の人口集中の爲めで要するに農村は益々其の荒廢を加ふると共に其の疲弊を助長するに終るのみである。

　農村問題は此位にして次に我々の日常生活問題に就ていふと先づ住宅問題から見て十三萬軒の住宅が

不足して居るのに對し政府は今日まで三千萬圓の低資を供給して漸く一萬軒の住宅を造り得たに過ぎない。居住の脅威は何れの時に果して緩和さるべき乎更に我々の被服原料たる棉花及び羊毛の如き未だ自給自足の域に至らず。食料品に付ても第一の米ですら尙ほ外國米を輸入して本國米の補充を要する始末である。此の如き次第であつて我々の日常生活問題は何等根本的に解決されたものがない。

之を要するに都市問題といひ農村問題といひ將た吾人の生活問題といひ未だ根本的に其の對策の確立したものはない。政府は此等國家の大本たる社會問題に對して其の根本解決策を樹立するを欲しない否出來ないのかも知れない。政黨者流も亦然りである斯くして現在の日本の社會は混沌たる狀態に置かれて居る。更に之を他の幾多の社會問題に見ても都市に於ける文化施設が却つて不良少年少女の增加を誘發するが如き其他保健及び衞生施設の如き救濟事業の如き階甚だしく遺憾を感ぜざるを得ないのである私の如きは小さい社會事業に鞅掌して居るに過ぎないが政府や政黨若くは國民は須らく大きな社會問題に觸れ而して根本的に之を處理解決して行へといふ風に眞劍味になつて貰ひたいのである。

情味と落付きのある
臺灣社會の近狀

醫學博士、本會評議員　尾見薰氏談

過般臺灣に出掛けて還つて來てから臺灣で見た事を褒めたらさう褒めるのは詰り夫れと較べて滿洲を惡口する樣なものだと不平を言はれて恐縮したが然し褒める事實があつたから褒めた迄の事に過ぎない滿洲でも褒める樣の事があつて欲しい。

人情美　十數年振で臺灣に出掛けたのだが基隆上陸前に船の中で無線電信で歡迎の言葉を受取つたソシて船が基隆に着くと何々旅宿からと言つて其の旅宿の番頭らしい人がサッサと自分の荷物を取纒めて運び去つた。賴みもせぬに不思議な譯だと呆氣に取られて居ると知人が出迎ひにやつて來て是非僕の家に來いと强ひられたが宿屋の番頭が已に荷物等を持つて行つた後なので知人には好意を謝して其宿屋に腰を落付けた。其宿屋の主人といふは十五年前に自分のために助けられた男だとかで何うしても自分

を泊めねばならぬと云ふて船が基隆に着くと眞先に番頭に荷物を運ばせたのであると分つた。主人は基隆に居る間は決して私を離さないといつて非常に歡待して呉れたが其の麗はしい人情美は私の旅愁を大いに慰めたのである。臺北滯在中にも知人が毎日訪ねて來て親切に諸處に案内して呉れた。夫れから臺南に滯在した時も其處の病院長や其他の知人が付切りで世話もし案内もして呉れた。臺灣の人々は概して人情美に富んで居る。臺灣は滿洲のやうな大陸でなく其の範圍が狹く且此地を何れも永住地として居るので人々の間に相互扶助の觀念が強くなり隨つて人情美が養はれた爲であらうと思ふ。

學者の研究態度　東洋試驗場を視たが是は主として砂糖黍の研究所で此處にゐる學者の研究は極めて徹底的である。臺灣には一種恐るべき白い甲虫が居り其の蔓延は極めて迅速で一日若くは數日の間に到る處の全植物を蠶食枯死せしむる程の害を與ねる。夫れで害虫を以て害虫を殺すといふ風に敵虫撲滅の研究を遂げ直ちに米國から敵虫を取寄せソシて之を放つたところ瞬時にして甲虫を全滅し得たといふ事で今日では其の害虫の敵虫を生存せしむる事が困難となつたといふ程にキビ〳〵した害虫撲滅の方法を取つて居る。獸疫研究所もあるが此の研究所でも研究の結果獸疫を撲滅し盡したので今日では其處の技師が研究すべき仕事がないと言ふて困つて居る程である。夫れから蛔虫研究に沒頭せる篤實なる學者も居るが更に臺灣の恐るべき毒蛇の研究に就き七八年も引續き研究をなせる某學者の如きは誤つて毒蛇のため指頭を咬まれ直ちに切取つたが及ばずして一時絶息した程の危險を踏み漸く蘇生し今は獨逸留學中との話を聞いた。斯樣に學者及び技師等が非常の熱心を以て多年研究に沒頭して倦まず而して其結果が前に述べたやうに害虫の驅除。獸疫の撲滅、其他の成績となつて現はれて居るのは私の最も驚いた點で且つ學界の爲め實に慶賀すべく又大いに崇敬すべきことであると深く信じたのである。

大規模の事業　臺灣在住者は官民協力して臺灣を最も立派な土地に仕上げ最善の生活地となすに其の全努力を傾注して居る。其の全努力の一つは全道に亙る水電利用計畫で他の一は灌漑貯水池事業計畫である。其の計畫は遠大且つ徹底的で兩者とも其規模の洪大なるは實に驚嘆すべきものがある。夫れ

から臺灣の樟腦は全世界産額の約四分の一を占め居り尙ほ二十年間は之を供給し得るといふ事であるが總督府では目下非常の危險を犯して立木を調査すると同時に樟樹の植林中で之が爲には瘴煙蠻雨と戰はねばならず又毒蛇に咬まれて殪るゝ者があるなど具さに艱難を嘗めて居る。而も其植林事業は飽まで完成する筈に聞いた。滿洲の植林事業が遲々として進まず而かも松毛虫の發生などに周章狼狽するに比し臺灣の仕事振は氣持のよい程キビ／＼して居り又眞劍味に富んで居り且何れも大規模である。

蕃人教育　蕃界に案內されて其一部を視察した、武力を以て彼等を征服する時代は已に去り今日は恩威竝行の下に敎化を以て彼等を心服せしむるの時代となつたので彼等蕃族も大に心服しつゝあるとの事である。蕃人の少年少女小學校に於て其の敎育の狀況を視その進歩に驚いた。特に生徒の一人なる少女が敎師の命に依り自分のために大連の地勢、人口、其他の狀況を說き其詳細を盡くしたのには非常に驚かされたのである。敎師と少年少女との親みが軈て敎化の上から蠻人を悅服せしめ蕃地を開拓するに至るべきは自分の堅く信ずる所である。

社會施設　全島に於ける社會的施設に就ては其の全部を見聞するの遑はなかつたが臺北の結核療養所を見た以外、不良少年收容所、鰥寡孤獨收容所盲啞院等も視察した。温泉場で聞ねた北投には民衆浴場が設けられてある。是は所謂保健浴場で入浴料は一日僅に二十錢ソシて何人も自由に出入し得られ幾多の娯樂的設備も整ひ其の規模も中々大きい。此等社會的施設は其一部に就て視察したに過ぎないが滿洲に於ける社會施設に比すれば之れも遙に眞劍的のものであり規模も大きく總てが整つて居り隨つて內容も充實し居るのは事實である。

◆**滿鐵の圖書館**　滿鐵文化事業の一たる圖書館は今や殆ど沿線主要地に置かれ數に於ては增設の必要を見ざる程度に達したるも其實質に於ては尙ほ充實を圖るの要あり滿鐵地方部にては此の意味にて今年先づ奉天圖書館を獨立せしめ十二年度までに略普通圖書館としての面目を備へしめることゝなつた滿鐵の方針としては本社圖書館を純然たる參考圖書館となし北公園通俗圖書館を大連の中心圖書館たらしむると共に地勢上奉天圖書館を沿線に於ける中央圖書館たらしめんとするにある奉天圖書館を右の如く十一二兩年度に亘つて獨立擴張しつゝあるも此目的の爲めであるが滿鐵では奉天圖書館の第一次完備を俟つて更に長春圖書館の獨立充實に着手する計畫だといふ

滿鐵社員の消費組合

大正八年の創設で種々の紆餘曲折を經た

滿鐵社員が各自その日常生活の安定を保持せんがために之が自衞策を講ずるに至つたのは、今より數年前の大正二三年頃からで、其の結果、大小幾多の購買乃至消費團體が簇生し、大正七年には米鹽及び薪炭など季節物の共同購買を行ふことになつた。之等の各種團體は言ふ迄もなく小賣商人より享くる種種の不利益と脅威とを免れやうとしたものであるが最初は其の組織と運用が不充分で所期の希望を達成する事が困難であつた爲め、更に之を組織化して消費經濟の自給自足策を講じなければならぬことに一致し、社員間の有識者が相倚つて審議の上、會社側に消費組合急設の要あるを訴へ、會社側も快くその要求を容れ、斯くして大正八年十月に至り現在の如き消費組合の創立を見たのである。

この消費組合は滿鐵社員のため日常生活に必需なる物品を購入し配給するを目的としたもので、會社として同組合に對し(一)無利子資金の融通、(二)家屋、倉庫及び什器類の無償貸與、(三)關稅及び運賃料金等の補助といふ特典を與へ、組合は此の背景力と相待つてこゝに始めて滿鐵社員の日常生活が或程度まで安全を保ち得ることになつた。

然るに消費組合經營の任に當れる人々が當初商業上の智識と經驗に乏しかつた爲め、創立當初の八年度に於ては組合の損失金十二萬圓に及び、九年度に入りて漸次慣熟し、十年度に至りて八萬圓の利益金を擧ぐるに至つた。斯くて內容の充實と共に着々改善の步を進めて來たのであるが、其の中間の大正九年一月下旬鞍山に於ける邦商から消費組合撤廢運動が起り、次いで二月二十四日大連日商組合を始め在滿邦商五十餘團の聯合せる消費組合反對運動が猛烈となり、滿鐵本社の幹部に肉迫するといふ騷ぎを演じた結果、會社側より與へられてあつた前記三つの特典は削除された。商人側は撤廢を叫んだのだが此の種機關の撤廢し得べきものでないのは當然だ。特典削除の結果として、組合では無利息資金の融通に對する十年度の金利九萬五千圓を支辨せねばならぬ

事になり、目下之れが償還に努めて居るが、同時に組合の改善及び擴張にも努めて居る。

満鐵社員組合の物品は總て製造元より直接購入して居るが、大正八九年の好況時代に高價で購入した物品が其後次第に低落しつゝあるので、組合の經營も昨今は容易でないと云ふ事である。隨つて物品に依つては市中のものよりも却つて高價な物もないではないが併し一般市價と比較對照して見ると大體において左の如うな表が現はれる。

品名	種類	單位	大正十年一月 市價	大正十年一月 組合	大正十一年十一月 市價	大正十一年十一月 組合
白米	朝鮮一等米	一斗	三・三〇〇	二・八〇〇	四・四〇〇	三・六〇〇
醬油	キッコー萬	同	八・八〇〇	七・七〇〇	九・九〇〇	八・五〇〇
酢		一升	・七〇〇	・四〇〇	・六〇〇	・四〇〇
味噌		一貫	一・五〇〇	一・〇〇〇	一・四〇〇	一・二〇〇
石油	美孚	一鑵	五・五〇〇	四・二〇〇	三・八〇〇	三・七〇〇
木炭	並	一貫	・三五〇	・一八〇	・三二〇	・一八〇
砂糖	白	一斤	・三〇〇	・二六〇	・二一〇	・一六〇
同	赤		・二九〇	・二四〇	・二〇〇	・一五〇
澤庵	内地モノ	百目	・三二〇	・一五〇	・一八〇	・一一〇
梅干	同	同	・三〇〇	・二五〇	・三〇〇	・二五〇
淺草海苔	東京上モノ	一帖	・四五〇	・三二〇	・六〇〇	・四五〇
高野豆腐	内地モノ		・〇三三	・〇二一	・〇二四	・〇二一
茶	上喜撰	一斤	・三〇〇	・〇九〇	・一二〇	・〇八九
酒	白鹿	一升	一・八〇〇	一・四五〇	二・二〇〇	一・八〇〇
麥酒	サッポロ アサヒ	一本	・四八〇	・四六〇	・四五〇	・三八〇
牛肉	ロース	百目	・七〇〇	・六五〇	・七六〇	・五五〇

此等物品の購買は社員以外のものには出來ないやうに總て傳票を以て受渡することに規定されてゐる。而して其の代金は俸給より差引かれるので、組合員の爲めには便利と經濟を兼ね備ゐたものと云へやう。

組合は其の本部を満鐵本社所在地に置き、各方面に支部を設けて居るが、大連の支部ばかりでも兒玉町濱町、近江町、日の出町、南山麓、伏見臺、満鐵本社内、埠頭、譚家屯、聖德街、大劉家屯、臭水子の十二個所に分設されて居る。尙ほ沙河口及び各沿線の分を列記して見ると瓦房店、熊岳城、大石橋、營口、鞍山、遼陽、蘇家屯、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、長春、本溪湖、鷄冠山、安東、撫順等に夫々支部が設置されて居る。組合に從事する社員は職員四八名、雇員七八名、傭員が日本人二百七名支那人百七名、合計四四〇名である。之等の從業者は經驗と訓練を經て今日は餘程巧者になり、又親切を旨とするやうになり、隨つて組合員は組合を理解

して不平を言はず、隨つて組合を利用するもの多く益々好結果を齎して居るやうである。

組合では旬刊の定價表を發行して一般社員の家庭に配付してゐるが、其の誌上には毎號家庭に於ける主婦達よりの寄書を募つて、消費組合の取扱上どういふ點に御滿足と御不滿とがありますか、などの問ひを掲げ、其の聲によつて改善もし努力もすると云ふ具合にして居る。また春秋二回に發車する滿鐵の慰問車に販賣列車を聯結せしめて種々の品物を沿線地方の社員に販賣することにして居る。物價調節の聲と共に消費組合の必要は各方面に認められて來たが、滿鐵社員が鞏固なる組織立つた消費組合を有することは、自衞策としても、生活安定策としても極めて心強いと言はねばなるまい。猶ほ終りに臨んで一言したいのは市民一般の消費組合を設けたい事である。滿鐵社員の消費組合が此くの如き好成績を擧げて居るのを見るにつけても一般的消費組合の必要が痛感せらるゝ譯である。關東廳吏員の購買組合もある以上、市民は市民として又それ相當の消費組合を有つて居てもいゝ筈である。併し消費組合の販賣品は日常生活の必需品に限る。（冬洋）

開放する南山スケート

大連市南山貯水池に設けられる南山スケート會は從來滿鐵運動會が主宰して來たので滿鐵社員學生等からは金五十錢一般會員からは金一圓宛の會費を徴してゐたが滿洲に於ては冬の體育運動たる唯一の競技であるスケート場が開放されないため學生その他一般の不便は尠くなかつた殊に滿鐵社員と一般會員との間に差別待遇をなすが如き觀があるのも頗る遺憾な點であつたが南山スケート會でも此點を考慮し本年からは何とか一般的のものにしたいとあつて研究の結果之を大連市へ引繼くことにしたらとの議起り昨年中關係者打揃つて市役所を訪問し市理事者と協議を遂げたが市理事者も南山スケート會の主張に贊成し愈々之を市に引受けてスケート會場を一般に公開する事に決定した設備に要する費用のうち滿鐵から約半額程補助する事とし市では略從來の通り夜間の電燈、仕度場、湯呑場、ベンチ等の設備をなす外貸スケートの設備等も設くる筈である唯初心者などが泥靴を穿つたまゝまたはスケートを付けずに場内に入るので競技者の迷惑となる事が少くないから之等は特に注意して貰ひたいとの事であるが初心者のために場の西方に一定の區劃を付けて練習場も設けるさうである本年は全滿洲競技聯合より諏訪のスケート大會に選手を送ることになつてゐるし其の豫選大會を奉天の全滿洲スケート大會に開催する事になつてゐるから南山スケート場も之等出場選手の練習で非常な緊張を見せることだらう何にしても斯うなつたのは喜ばしい事である。

消費組合の使命と生計費

法學博士　高野岩三郎

元來消費組合の使命は、唯廉い物を買はして臺所を樂にさせると云ふだけではなく、此の卑近な臺所の改造に始まつて、社會の經濟組織を變へて仕舞ふ所にある。今迄の世の中は、品物を作る人の見込みで、どんどん製造して儲けること許りに腐心してゐた。之れは卽ち營利本位の經濟であるが、之からは使ふ方が欲しいから製産させると云ふやうに成らなくては可けない。卽ち消費者本位の經濟である。消費組合が發達するとさう云ふ事になる。

私は十年前歐洲に遊學の時、世界中一番消費組合の發達した英吉利のエヂンバラ市に近いロッチデール市の組合を視察した事があつた。これは今から八十年前の一八四四年に二十八人の新思想を抱いた勞働者が始めたものだ。始めは裏通りの借家でパン粉や砂糖やバタ等を並べたもので、町の人達は殆んどせゝら笑つて居たが、併し二十八人の同志は同時に書記であり、運搬人であり、また購買者となつて『現金賣買、小賣値段と同格にして市價より高く賣らぬ主義、それから得る利益を組合員に纒めて配當する』と云ふ三大主義を翳して奮闘した。丁度八十年前の英國は、政治運動も日本の今日の樣な有樣で、普選に相應すべきチャテストには失敗し、又オーエン氏の試みた日本の武者小路實篤氏の『新しい村』のやうな共同の理想社會の建設にも失敗したので、人心は何うしても足下の經濟に立つて社會改造に進まざるを得なかつたのである。ロッチデール市の組合は町の半分以上を組合員で網羅し、四階の大建築を共同卸業組合事務所とし、又ジャムや靴など日用品の工場を市内に有し、組合員の使ふものをどしどし製造した。此の機運はスコットランドよりイングランドに移り、個々の組合が共同卸業協會を組織して、銀行もやる、保險業もやる、また貿易船をも有し、印度には茶園をも經營すると云ふ大規模のものに成つた。一九一七年の調べによると英國全體で三百八十萬人

の組合加入者を算へる程になつた。

英國に次で盛況なのは白耳義及び瑞西である。而して是等の組合運動の思想は段々進化して來た。英國の有名な消費組合の閨秀學者ウェヴ夫人は、其の著「消費組合運動」に於て「社會改造の源は、生産を進歩せる勞働組合が管理し、消費を消費組合が管理し、政府と自治團體が時たま强制的消費組合として働けば、資本家は自然消滅し、自ら社會は革まる」と論じてゐる位に重大視してゐる。斯うした英國の組合の發達の原因も、實はホームを尊ぶ英國人氣質卽ち婦人の活動より生まれたのであるが、日本の婦人も、參政權によつて男子の威壓から脱せんとするよりも、此の人類全體の生活の惱みを解決する勇士となる方がどんなに價値があるか判らない。

家庭經濟を立て直して行くには、先づ生計の根本原則をしつかり摑んでから進まねばならぬ。生計費の研究と云へばすぐ引合ひに出る學者は、獨逸の經濟學者エンゲル氏である。彼は千八百五十七年に稍上等の勞働者と中産階級と上流階級の三階級に亘つて家計調査を試みた。其の結果によると

	勞働者	中産者	上流
食物費	六・二	五・五	五・〇
衣服費	一・六	一・八	一・八
住居費	一・二	一・二	一・二
薪炭燈火費	〇・五	〇・五	〇・五
（其の他省く）			
合計	九・五	九・〇	八・五
生計費以外の分は	〇・五	一・〇	一・五

となる。如何にも現代の文明生活が必然的な生計費に其の收入の殆ど全部を費して寸分の餘裕のないことが一目瞭然だ。文化費として殘されるものは、勞働者は俸給の五分、高い俸給者でも僅かに一割五分二百圓の月給取りで二十圓しかない譯だ。乃でエンゲル氏は「貧しければ貧しい程生計費特に食糧費に多くを投ず」と云ふ法則を生み出した。更に獨逸が千九百〇七年に全國に亘る基本家庭九百許りの家計費を調査した結果に依つても、上流で必然的の生計費が八二・二で、文化費として一・七七、次ぎに中流は生計費に八・五を費して、殘る文化費は一・五、下流は生計費八・六一で、文化費を餘すこと僅かに一・三九である。エンゲルの調査した昔時よりは餘裕費

の文化費が多少多く浮んでゐるが、エンゲルの打立てた法則は依然として變りが無い。私は大正五年に於ける東京月島の職工の二十家族の生計の調査をしたが其の結果に依ると(單位を百にして)

飲食物	米代	衣服	住宅	薪炭
四一・四二	一一・八七	七・五〇	一七・五六	六・一四

合　計…………………七二・六二

かう出て來た。獨逸の實例によるのとは全然趣を異にしてゐるが、生計費に七十二割六分二厘、即ち四分の三の費用を投じ、其の中の約大半が飲食費であることが判る。是れエンゲルの家計費に對する原則が依然事實であることを證するに足るものだ。乃で家庭經濟を變へんとするには、先つ日用品の消費中にも食糧の消費に就て周到な婦人の注意と研究に俟たなければ本當に解決することは出來ない。この意味から婦人が團結して日用品を廉く確實に得る爲めに消費組合の進歩を圖ることが急務であると云へる。而して現在の日本の事情では、この現金制度を常とする消費組合發達の爲めに、月給を週給に變更することが重要であると私は思つて居る。

滿洲に於ける實際社會の研究

滿鐵地方部長、本會評議員　田邊敏行

社會問題の研究調査又は社會事業の施設實行と云ふことは、極めて必要な事柄で、滿洲に於ても、大連市の事業は社會事業を中心とする樣になり、又吾吾の社會事業研究會があつて、實行と研究と相俟つて進むやうになつた。然るに滿洲は氣候及び風土と社會の環境が日本內地とは大分異つて居り、隨つて其の生活狀態も同樣でないから、其の異なれる點を明らかにし、滿洲には如何なる生活方法が適する乎といふことを一般に示し、之れに依つて在滿人士の生活改革を計ることにしたい。研究會で發行するところの我々の機關雜誌にしても、議論好し、報道好し、外國又は日本內地の社會問題及び社會事業を紹

介するのも無論必要なことに相違ないが、更に進んで滿洲に於ける實際的社會の各方面に付いて其の生活狀態に洞察の眼を向け、微細の注意を拂ひ、そして之を研究し、批判し、分解して會員及び一般讀者に報道するやうにしたいものである。

換言すれば、吾人の現に住む滿洲の環境に於て特殊の缺陷が何處にあるか、又其の原因はどんなものであるか、是等のことを研究し、又如何なる方法を以て改善矯正すべき乎をも究めたい。併し前に言つた通り之れはなかなかの大事業で、第一に人を要し第二に費用を要することであるから、固より一朝一夕の間に望まるべき事でない。随つて之れには一般の熱心なる協同努力と財的援助とが先決問題となる譯で、各方面から相當の費用を寄與して扶けなければなら無いのであるが、之れが效果を生むに至らば公私の事業に從事する個人も、團體も、必ずや相當の精神的並びに物質的利益を享受する事になるから其の費用を分擔寄與する位の事は躊躇すべきものでない。若し之を兎や角言ふ樣では社會事業の研究も畢竟大人の玩具に過ぎないのである。(談)

免囚保護事業と社會

財團法人爲人會々長　邊見勇彦

思想界の進歩したと云ふ今日でさへも、滿洲あたりに於ては、社會事業と云へば今尚ほ老人か閑人の爲すべき仕事でもあるかの如うに思つて居るものがある。問題が地味であるから誤解者のあるのも致方の無いことゝは云へ無理解者の多いのも困つたものである。戰後に於ける我國の社會は益々貧富の間隔を甚だしからしめ、それが極端から極端へ走らうとする傾向が著しくなつて來たやうだが、世人は此の傾向を何んと見る乎。富者はもつと天井から引下げ、同時に貧者の地位をも少し引上げ、そして双方の調和を保たねば社會の前途は益々不安なる情態に陥るであらうと思ふ。社會問題の研究、社會事業の實行

ほど急務なものはないのである。

勞資の衝突、貧富の軋轢、思想の混亂等甚だしく加ふるに經濟界の動搖ありて、それが生活難の叫びとなり、思想界は之がために一層惡化し、道義心は衰へ公德心は消磨して、實に前途憂慮に堪へざるものがある。今日の社會問題及び社會事業の範圍は極めて廣汎であるが、現在の社會情態に鑑みて、其の研究實行は一刻も等閑に附すべきものでない。然るに日本に於ける今日の社會事業は、一から十まで歐米の夫れを摸倣してゐる有樣で、實際上適切な焦眉な問題には未だ之れと云ふ進捗を見ないやうに思はれる。滿洲の社會は或意味に於て內地と總べての點に於て異なり、不況の當今に於てさへも、一般の生活狀態は內地より割合に氣樂なやうに見受けられる隨つて人心も非常に緊張味を缺き、研究とか實行とか云ふことにも甚だ冷淡で、概して萬事が不徹底であるやうに思はれる。隨つて社會問題に對しても一般が最も冷淡であると認められる點がある

一口に社會事業といつても、自から二種の方面があつて、直接社會から注意されるものと、殆んど問題視されないやうな陰の仕事とがある。孤兒院や貧民の救濟は直ぐに他の同情と注意を惹き易いが、吾々のやつてゐる免囚保護事業などは至つて世人から注意されて居ない。內地に於ける免囚保護事業は六百五十餘あるが、社會事業のうちでも一番割の惡い一般人の理解の薄い、同情の乏しい困難な事業と云はねばならぬ。內地では輔成會といふのが主となつて全國の同事業と聯絡を取り、之れを統一して力あるものとなし、免囚保護の決して等閑にすべきものでないことを宣傳して廣く社會の理解を促し、そして着々仕事を進めてゐるが、實に此の事は國家的見地からしても人道上から云つても積極的に施設すべき社會事業中の最も緊要な一つである。

犯罪の多くは後天的のものであるが、一面から見ると、個人の對人的關係よりのみ發生するものではなく、社會的原因卽ち社會的缺陷から起るところの犯罪も少くないのである。卽ち社會の周圍の事情や環境に支配され若くは諸種の社會的誘惑が背後にあつて不知不識の間に犯罪をなすものが多いのであるであるから犯罪は其人一人の罪として論ずることは出來ない。元より犯罪した人間は惡いけれど社會的原因に依る點も看過してはならぬのである。して見

れば、社會は共同生活を以て本義とすべきものであるから、互ひに相扶け合つて敗者や弱者を救ひ又は之を善導良化するに努むべき筈で、犯罪人だから刑餘の人だからと云つて之を冷遇するのは、社會人としての生存上の義務を忘れたものと謂はねばならぬ犯罪を以て其の犯罪人たるその人一人に歸せしむるは餘りに酷ではあるまい乎。犯罪に對しては社會もまた其一半の責を負ふべきであると思ふ。

斯う考へ來つて見ると、免囚保護事業の大切なる事、それが社會事業の一として大に注意せらるべきものであるは明瞭だ、現在の日本に於ける在監者四萬有餘のうち其の三分の二が累犯者であると云ふ點から見ても出獄者を善導良化して再び罪を犯さしめぬ様に努むることの如何に大切であるかゞ分るのである。歐米に於ける此種の事業は餘程進んで居るが我日本の狀態を見ると、無理解者の多いため、その施設が滿足に行かない。甚だしきは吾々の免囚保護事業を目するに刑餘の人を集め之を優待して罪惡を再敎唆するが如き得體の知れぬ機關であるなど誤解してゐる者もあるやうだ。無理解も茲に至つては沙汰の限りと云はねばならぬ。文化的事業が漸次歩を進めつゝあるにも拘らず、種々の事業が思はしく進まず、殊に免囚保護事業の如き最も緊要なる事業が社會の諒解を得ず注意を受けずして遲々として進捗しないのは實に遺憾千萬である。(談)

失業者の内容と其の考察點

中央職業紹介所主任　上木嘉雄

英國前宰相ロイド●ジョーヂ氏の言葉にかう云ふのがある、樫の木は一樵夫のために切られつゝあるその途に切り倒されるときに人々は眼をみはり、耳を聳てゝ居るであらう乎、そこに起るさゝやかな囁きを聞く者は極めて稀であらう、それは樫の實の滾れる音である、淺薄な頭の持ち主にはこの音は到底

解らない」と、これは眞に感銘すべき名言で、大いに味ふべきであると共に、此の名言は失業者問題の上に當箝めて考ふべき事であると思ふ。

現在、職業紹介所に押寄せて來る失業者の群れは日増しに增加し、本紹介所だけでも、本年度の統計に據ると、自由勞働者を合せて三萬人を超過してゐて、その數だけでも充分世人を驚かすに足るものである。然るに吾人が現在の失業者問題の最も憂慮すべき點と云ふのは、寧ろその驚くべき數の激增と云ふよりも、その數の內容たるべきものに關してである。然らばその憂慮すべき內容とは如何なるものであるかと云へば、それは知識階級失業者の增加である。假りに中等敎育の終了者以上を目して知識階級と見做すとして、全失業即ち求職者の三十パーセントは之れに屬してゐると云ふのが現在の狀態であつて、かう云ふ率を示した例は未だ嘗て無かつたのである。大正九年三月の經濟界の變動は社會に大なる波動を與へ、之を收拾せんとして金融の縮小を始めとし種々なる景氣挽回策が企圖されたが、それらの方法は悉く失敗に歸し遂に消極的挽回策として業務の縮少、生産の制限、使用人の淘汰が頻々として實行され、その結果、必然的に失業者の大群を社會へ送り出すこととなつた。大正九年八九月頃から漸次その數は增加する一方となり昨大正十一年九月以降に至つてその絕頂に達したのである。

一體、知識階級は一國家から見るとき、産業に關しても、社會文化に關しても、それの指導的原動力であつて、之が堅實なる發達は國家社會の安定を保障する上において最も大切なものである。かう云ふ位置にある知識階級が今日の如く動搖して居る事に對しては、深くその根本に溯つて究明する所がなくてはならぬ。知識階級のうちにも辯護士、醫師、藥劑師などのやうな自由職業に從事してゐる者と、一般の俸給生活者との二つの種類があるが、その何れも實生活の上から云へば多く無産者である。たゞ時に資本家と結合し、時に勞働者の顧問となつて活動し、而して行政機關に關しては大切なる役割を演ずべき位置を占め、實に勞資の中間にあるものと見做さるべきものである。而もその實生活に於て生活の保障を與へらるゝ點は勞働者のそれと全く同じであると云ふことは爭はれぬ事實である。

ロシアの內情に關しては、その眞實に就いて知る

こと困難であるが、吾人の知る範圍內で云へば、勞働者の團體と知識階級との結合は、その實生活及び社會環境の性質から見て、寧ろ當然の成行で、つまり勞働者と知識階級との團結によつて天下を掌握し政權を收手し、そして資本家に對立するに至つたのである。斯うした傾向は何處の國にもある。唯此の場合、吾人の疑問とするところは、知識階級の團結がどの程度にまで實現され得るかと云ふことで、サラリーメンの結合は由來勞働者の團結の如く簡單には實現されないのであつた。之を案外に手輕く實現したのは今のところ露西亞のみである。

然るに現在甚だしい增加率を示しつゝある知識階級失業者の群は、その生活の必要上、團結して外部と戰はなければならない狀態になつてゐる。外國に於ける例に見るに、一週間、二週間に亘つて暗黑社會を現出した電燈會社の同盟罷工を始め、非買同盟ボイコット、自動車會社休業など、すべて此の知識階級の團體と勞働者との二つの結合によつて居ないものはない。何と云つても現在の場合、勞働者の力となり根柢となり原動力となるべきものは知識階級で、此の指道原動力を失つた場合の勞働者は暗夜に光明をなくしたと同一である。而して此の兩者の結合は社會的に恐るべき力を示すことゝなるは明かな事であるから、失業者續出の今日、殊に智識階級の失業者が增加しつゝある今日、我國としても此點は大いに注意すべきことで、社會全體の人が眞劍になつて考究すべき問題であると信ずる。

◉學者連の實際社會運動

書齋にばかり籠るのは學者の能ではないと帝大法學、經濟及び文學等の各部の學者連が愈よ書齋より街頭への意氣込み凄じく實社會の生活に觸れて緊急な無產階級の問題や施設を研究して見たいとユニヴーシテイエキステンション運動に乘出すべく先づ差當り東京市の方面委員事業に參加し「方面デー」を開催する事となつて昨年末帝大法科研究室に市社會局の本間保護課長及び大學からは文科の姉崎博士法科の戸田小野兩助教授等集合し種々協議の結果決定したプログラムに據ると神田橋の中央職業紹介所で協議會を開き市社會局囑託草間八十雄氏の實際談を聽取し夫より「方面デー」として方面委員等と共に學者連自ら出馬して細民街を隈なく視察し細民の訪問や救濟に盡力する筈である尚ほ大學自身の運動として講演會を開催したり或は勞働紹介所を通じて實際勞働に從事したり又は公衆食堂に於ける勞働奉仕等の勞働實地見學や更にドン底生活者を實地に知るため浮浪者の訪問や殘飯屋の調査、細民娯樂機關の訪問や勞働合宿所に於ける宿泊の狀況調査等をなし一方社會事業の實地見學として職業紹介所で失業者に接近したり施療病院や養育院を初め託兒所や感化院等を見學すると云ふが此の大學自身の運動には大學生で參加するもの勞働實地見學に一日六名宛、ドン底生活訪問者が十名、社會事業實地見學十五名に上つて居て大學としては之が實地見學諸君の結果を取纏めて報告し絶好の參考資料とする筈であるさうだが洵にいゝ思ひつきである。

謂ゆる特殊婦人

日本の社會にはまだ色々と妙なものが殘つて居る昔の穢多村、今の特殊部落、飛彈山中の原人阿、北海道の監獄部屋、貧民窟、乞食などがそれである▲何處の社會にも斯うした暗黒面がある支那の如きは其の最も甚だしい處で乞食の多いのは言ふ迄もなく到るところに山賊、馬賊、土匪、海賊が巣を作つて別社會を組織し又穴居生活をして居る者もある▲勞働問題ばかり騷いだつて斯樣な社會の暗黒面を其儘にして置いては社會の進歩も國家の發達も望まれない▲以上は社會の癌とも謂ふべきものだが日本には此外に特殊婦人なるものが存在する謂ゆる特殊婦人とは申す迄もなく藝娼妓酌夫等を指しての名稱である▲藝娼妓は日本ばかりで無く支那にもある而して藝妓は中流以上乃至上流者の玩弄物、娼妓は中流以下乃至下流者の性慾放散器となつて居るのが大體の相場である▲そこで藝妓は社交界の妙な慰藉的娛樂物となつて騷ぐと踊るの外において娼妓同樣に持て囃される樣になつたが憐れなのは娼妓で社會から最も特殊的に取扱はれて居る▲實際から云ふと或點において藝妓と娼妓とは五十步百步の差に過ぎない然るに一方は紳士階級の對象物なので社會的に相當持囃され他の一方は社會並の待遇を受けないと云ふは甚だ變なものだ▲之を民衆主義の上から考察して見たら何んなものになるだらう此處にも妙な因襲的階級思想が漲つて居て今尚ほその支配を受けて居るといふ事に氣付くだらう▲特殊婦人の中には親のため又は一家のために犧牲となつた實に氣の毒なものもある然るに身を苦海に沈めると共に社會からも冷酷なる待遇を受けるとあつては此世を咀ひ果敢なむ樣になるのも當然だ▲彼等は一週一回或點の檢査を受け健康不良と認められた時は直ちに入院を強ひられ籠の鳥が一段と不自由な籠の鳥になつて青息吐息のうちに苦吟する▲然るに彼等を收容する病院別して大連の婦人病院が非常な不潔陋穢のまゝに委棄せられ疊一枚に二人の病婦を鮓詰めにするの窮狀を呈して居るとは亂暴だ▲憐れなる特殊婦人の病氣は多くその憐れなる職務から起るのである即ち職務に努めた結果である而して此の職務は社會の公認して居るところで有るにも拘らず其の病苦を救ふ機關がまだ此の有樣とは何事だ▲斯くまでも彼女たちを冷酷に取扱つて好いものか彼女たちを社會外の特殊婦人と認むるが故に斯る待遇をするので有るか

それは果して社會的良心に愧ぢて疚しい所が無いと言へるか社會問題の一として眞面目に考究する價値がないと認めるか▲今や日本内地の特殊部落も開放せねばならぬ時代となつた穢多非人と賤められた者も國民平等の本義から社會的に人並の待遇をせねばならぬ時代となつた▲北海道の監獄部屋も人道上の喧ましい問題となつて警察の手でそれを取締ることになり一方社會的に之が改善に努力せねば成らぬ世の中となつた▲では一層のこと特殊婦人なるものを全廢し遊廓を撤廢すべき乎といふに夫れは根本問題として一考の要あるも實際社會の上から看て輕々に肯定し難い所がある▲救世軍などが宗教的人道主義から彼等の開放を叫ぶは當然であるが之を取除ければ公娼廢れて私娼盛るといふ結果を生じ同時に性の問題上更に別箇の社會的考慮を要する事になるだらうと思ふ▲米國の禁酒は勞働者の能率を高めたとか何とか種々の好い結果を齎らしたが他の半面に酒精の密賣と阿片やモヒの嗜好者を增加したではないか▲社會の癌を取除けなければ社會の健康は保たれないが特殊婦人問題は最も特殊的に考ふべきもので理屈一方では通らない夫よりも彼等を成るべく自由に且救護する樣にすべきであらう。

家庭の副業と內職

古閑　亮

歐洲戰亂は現代人の生活に大きな動搖を生じ、社會問題の解決によつて經濟生活の安定を得なければならない樣になつて來て、現代の產業組織に於ける分配制度にも幾多改善を要するものが多くなつた。それには先づ家庭經濟の改善を計ることが焦眉の急で、各自が精神的に目醒めて勞働の神聖なることを知り、遊惰安逸は個人と社會を墮落せしむる所以なりと悟り眞面目な勞働生活を續けることが人間最高の道德的第一義であることを思はねばならぬ。此の精神的作興は風紀の刷新にも亦多大の貢献をなすに至るであらう。

家庭經濟改善の第一着手として必要なるは副業乃至內職の奬勵である。日本でも養蠶地方では養蠶が主業、米產地方ではそれが副業となり、其の副業としての範圍分類も頗る廣汎に涉り、農家の副業商工業家の副業、官吏及び會社員其の他俸給生活者の副業等に分れ種類凡そ三百有餘種を擧げ得べく而して日本に於ける內職の重なる地方分布は愛知（團扇、扇子、刺繡、紋、トルレウオーク）、富山（レース編物類、刺繡）、京都（刺繡紋）、岡山（フイレーレース、レース編物、麥稈眞田、花莚）、石川（刺繡）、神奈川（バテレレース、ドルシウウオーク、タツチレグレーフ）埼玉（レース編物）、靜岡（麥稈眞田、バテレレース、トルレウオーク）、岐阜（團扇、扇子、提灯）等であつて種々になつて居るが、其の孰れにもせよ、兎に角副業乃至內職は家庭經濟の改善向上に缺くべからざる事業である。

副業の定義に至りても、經濟學者の稱ふるところ一ならず、種々論議が戰はされたが、然らば其の概念は何であるかと云ふと、本業の外に家庭生活の餘暇及び勤勞を利用し、副收入を得んが爲めに務むる仕事である。勤勞なくしては收入がない、また收入のない勤勞は家庭經濟の破滅で、勤勞と收益とは正に正比例を爲すものである內職も副業の一部であるが、內職

と副業とは其の意味幾分か異なるが如く、副業は主として之を產業政策から見、內職は寧ろこれを社會政策の立場から見るべきものと思ふ。今日の經濟生活は獨り男子のみが職業に從事するのみでは足らなくなつて、更に婦女子をも驅つて或種の職業に從事せしめ、以て一家の經濟を補はせねばならぬ樣になり、職業婦人の問題なども漸次喧ましく論ぜられる樣になつて來た。米國に於ける我が大正七年の婦人職業の種類が三百種を超過したと云ふを以てしても、如何に現今の家庭生活が女子を過去に於ける樣な安逸と不生產的生活に放任することを許さなくなつたかを窺ひ知るべく、之れもまた時代潮流の然らしむる所である。此くの如く婦人が家事に鞅掌するの傍ら時を利用して家庭經濟の補足を爲すことが家庭副業、卽ち普通に內職と稱するもので、戰爭當初歐洲各國が此の手工業で得たところの金額は白耳義一億九千六百五十七萬圓、英吉利一二五六八圓、佛蘭一〇六七二圓、日本三百萬圓といふのに見ても、收入の決して尠少のものでないことが分る。

婦人の職業問題は婦人問題の各方面に觸れ、今日に於ては婦人の解放又は獨立といふ方面にも論及されてゐるが、中には婦人職業を否認する論者もある。家計上何等の顧慮なき家庭では婦人職業否認も然るべき議論であるが、窮乏がちの家庭に於ては一家の生計問題を男子一人の手にのみ委ね難いから、何うしても婦人の職業を必要とする。良人をして內顧の憂なからしめ、そして家庭經濟の運用を圓滑にするは、これ良妻賢母としての婦人の責任であるとも云へやう。日本人の生活には眞個の生活がなく、ただ牛馬の樣に生存するのみだと言はるゝは、男子たる良人のみを働かせ、婦人が家庭經濟の一半の責を負はぬからだ。

副業は更に國民經濟の自然的發展を遂げしめ、國民生活の程度を向上するに大なる補助となり、地方の生產を高め、收得を增し、一家としても萬一路頭に迷ふの際その生計を立て得る自信を起さしめ且閑暇なきため惡習に感染する機會なからしめ、勤勉の精神を養ひ經濟に關する智識を高め、猶ほ勞働時間と金錢の眞價を知らしむる效果がある。されど隨時收入の增加する結果、浮華虛榮に流れ、堅實の風を缺ぎ、副業の根本精神を沒却する虞もあるから、此點は最も注意すべき事である。副業を非

とするもの丶最も強き論據となるところは製作品の不統一であるが之れは今後大いに工風改善の必要あること勿論とし、前記弊害の外、今一つは衞生上より見た過度勞働の弊で、之がため身體の健康を損じ、延いて一家團欒の美風を損ずる場合が少くない。副業從業者の家庭のうちには、往々設備が不完全で、狹隘の場所で作業するため塵埃若くは黴菌の傳播を容易にし家人の健康を破ることもある。併し是等は指導と方法の如何に依りて改善し得るから之を以て全然副業を非とするの理由とすることは能きない。そこで副業の奬勵及び指導方法としては練習場、模範場を設備し、或は講習會を開き、或は産業組合を組織して製品の販路を思考し、材料購入の勞をも取り製品に關する資金の融通などせねばならぬ。市場の狀態は日進月歩して已まないから、常に活眼を開いて奬勵すべき副業の種類範圍等を研究し、時好、風尙等の推移にも多大の注意を拂ひ、また從業者の零細なる工賃を大小の問屋等に壟斷せらるゝことのない樣にせねばならぬ。地方の補習學校に實際に適用し得る勞働の習慣を涵養せしむるも一つの方法であらう。滿洲の如き國民發展の地に在りては此種の研究は最も興味ある問題で之が系統的組織を立て、滿洲の氣候、風土、習慣等を顧慮し、材料の選擇、需要と供給の關係、利益の大小、各人の副業に對する好惡の念及び技倆の優劣等を調査することが極めて必要である。

從來滿洲に於ける副業の發達と研究が滿足でなかつたのは、一は經濟狀態に餘裕があつて家庭に壓迫を感じなかつたことゝ、一は婦人勞働の觀念が薄かつたためである。併し滿鐵では早くから社員の家庭に編物を副業的に奬勵し、三年間に於ける製品買取高約一萬圓內工賃四千圓にも達し、又折々ミシン又は造花の奬勵指導をも爲して來た。今日では滿洲に於ても生活や家庭の問題が婦人の腦裡に深刻せられ、勤勞の必要と價値が認められ、職業婦人も增加し、隨つて家庭內職又は副業も進んで來た滿洲のやうな新らしいセットルメントに在りては、どうしても傳統的な生活から逃れて、ほんとうに人間價値の觀念に目醒めねばならぬ。これは男子の問題としてよりも寧ろ婦人の覺醒努力に待つべきもので、私共滿洲に在るものは互ひに勤勞の氣風を養ふべく先づ手近な家庭手藝の方面に研究と實

行を進め、餘暇ある婦人のために副業の普及增進を計らねばならぬ斯くしたならば、經濟生活安定の一助となるは勿論、手工藝そのものが文化修養ともなり、家庭內職そのものが人間の價値を高める事にもなり、之れより生ずる間接の利も亦尠からぬのである。

滿鐵では大正九年二月に副業を組織的に始めて社員家族に奬勵したが、當初は原料問題、從業者の訓練、沿線各地に擴張すべき副業の種類等講究すべき問題が少なくなかつた。常に希望者が多くして之れに十分授產をなすことが能きず、而も製作過多に陷り、それに製品の不統一といへる結果を生じ之を改むるがためにも相當の苦心を要した。創業以來今日までの從業者は大連のみにて五百以上を超過すべく、是等は當初殆んど皆無經驗者であつたが、今はそれぐ\相應の技能を有して居る。就職希望者も漸次增加の傾向を示して居る。滿洲に於ける大正十年の副業成績は左の通りである。

（一）ミシン　兒童服の漸次改良せられたる今日その需要と收益は最も良好なり。
學童服其他　三、八四一點　工賃　五八、五圓九四

（二）袋貼、雜巾刺　製作簡易にして技術を要せず材料も豐富なるを以て最も副業に適す、從業者二二六

紙袋	二、〇〇〇、〇〇〇	工賃千枚一五錢以上
卷紙	三二、九三九	工賃一本一錢
雜巾	二四、一九〇	一枚刺賃一錢

以上にて工賃一、四九七圓七四

（三）派遣婦　九年九月開始したが常に申込多數にして十分その申込に應ずる能はず此事業は家庭改善の上に大いに考究を要すべき問題なり。
從業者一五　派遣婦一、三五六　給金一、八一五圓（一日八十錢以上）

此外女子の內職として利得の大なるは裁縫と編物である編物は零細の時間を利用し家事の傍ら又は人と談話中でも電車の中でも出來る極めて上品な仕事であるので相當の註文と製作をなした。

大連に於て見るべき副業としては、市營職業紹介所で始めた袋貼りであるが、其後更に開始したミシン部及び自動メリヤス靴下製造も有望である。滿鐵沿線に於ては撫順に於て大正十年八月ミシン副業を開始し、三十有餘の社員家族に依りて生產せられた數量二千八百二十點、工賃二千五百三圓に上つた。鞍山においては大正九年東洋パナマ帽の製作を爲し、一時支那婦人の間にも手廣く奬勵したが販路意の如くならずして中絕した斯くの如く滿洲に於ける內職又は副業は猶ほ極めて幼稚の狀態であるが、之れが調査をなし、奬勵指導を加へたならば、必らず發達することであらうと思ふ。

子供に對する理解

文學士　青木誠四郎

◇子供を尊重しなくてはならぬ子供は大切に育てなくてはならぬと云ふ樣な考へが、一般にゆきわたる樣になつて來たことは、子供の爲には勿論、一般の世の中の進歩のためにも喜ばしい現象と云はなければなりません。

◇併し乍ら、子供を大切にするとさへ云へば、何でも箱に物をしまつて置くやうなことを考へる人もあります。美しい着物をきせたり、寒いところへ出さないで置いたり、おいしいものを喰べさせたりしさへすれば、それでもう大切にしたと思ふてゐる人達がそれです。家では子供を大切にしてかたいものなど着せたこともないなどと云はれる人もありますが、かう云ふ人達もその仲間です。だが斯んな人々に限つてほんとうに子供を大切にすることのできない人であります。即ちたゞやたらに大切大切と云ふことばかりに氣を取られる人は反つて子供の意志に反したことを仕向けてゐることに成つてゐることが多いのです。

◇勿論、大切にすると云ふ心持は結構でありますが、かくの如くでは、大切にする人の心持は通じない。そればかりではなく、この間違つた子供の要求もしてゐないことをするために、子供の正當な發育が妨けられることも珍らしくはありません。あまりに厚着ばかりさせて、皮膚の抵抗性をなくしてしまつて、身體が薄弱になると云ふことなどは、今ではすべての人たちが知つてゐますが、昔はこんなことさへ間違へられてゐたのです。そこで、今の人達がよいと思つてやつてゐるやうなことでもよく考へると、間違つてゐることが多いと云ふことは考へ得られることではありませんか。

◇では、どうすればほんとうに子供を大切にすることになるかと云へば、どうしても子供の身體や子供の精神の本來の立場と云ふものに歸らなくてはなりません。その事がなければ、いくら大切々々と云つても、無駄になることが多いと考へなくてはなりません。かくの如くに考へて來ますと、子供の身體及び精神に對する了解を高めることが、まづ第一に現今の家

庭にとつては大切であると云はなくてはなりません。これまでの様に無知な人々に育てられてゐるのであつてはその子供は全く不幸と云はなくてはなりません。

◇子供の身體については、私の專門以外のことでありますけれども、こゝにその一例として、子供の精神的方面について、子供の性質を知ることがいかに大切であるかを御話しいたしませう。

◇「學校の成績がわるい」と云ふ單純なことでも子供にはいろいろの原因があります。身體の惡いため、學校の敎授の下手なためなど擧げて來れば數へられないのでありますが、これなどは「できないできない」などと云ふと反つて暗示を授けてほんとうに出來なくなるためしが少くありません。まづその原因を確め、子供の了解を高めてから、その方法を講じなくては、折角の骨折が何にもならなくなります。「子供を了解する」と云ふ事は何と云つても親たるわれわれの第一の任務です。

先づ家庭の自治より

東京市社會敎育課長　大迫元繁

婦人に限らず、日本人は一體に自治心が乏しい、これは原因のない事ではない。過去の日本は臣が君に對する忠、子が親に對する孝弟子が師に對する敬、從僕が主人に對する忠と云つたやうな縱の道德で世の中が固まつてゐた。ソコには命令と服從と壓制とがあつた敬と云ふ他人相手の道德に生きてゐた人には自治は無かつた。所が横に愛の生活が說かれ始めて、萬人が平等になつてから、各自の獨立自覺が生れて、こゝに自治の生活が始まつた。夫婦の關係も昔は横の愛よりも縱の敬を以て結ばれそして男に隷屬してゐた。日本の婦人には獨立が無く、從つて自覺せず、自治はなかつた。亞米利加の婦人は、例へば政治的意見に於て、夫が共和黨であつても、夫人は民主黨であると云ふやうな事が珍らしくない。之は婦人に自治心があるからた。日本の夫婦間ではこれが遺憾ながら無い。

ソコでこゝに問題なのは、此頃社會の改善が叫ばれても、その源

は家庭の改善にあるから、家庭の改善を婦人の力に依つて行はねばならないのだが、却々それが出來ない。これは妻は良人に貞操、子供は親に孝と云ふ縱の道德のみに囚へられて、ソコに銘々の獨立自治が無いからだ。よく生活改善の出來ぬのは金が無いからだと聞くが、金の問題以外に、生活の樣式の改善と云ふものは、主婦が獨立自治の精神で家庭に臨めば出來ることが多々ある。元氣盛りの良人が妻に靴を磨かしたり、洋服やカラーを運ばしてゐる事からして間違ふてゐる。これが引ひては子供に及んで、母は常に子供の側を離れずにゐるため、子供は大きくなるまで親に賴つて、獨立自治の心が却々起らない。かう觀察すると日本の主婦は夫の命令と我儘な子供の中に挿まつて、全く獨立も自治も無い生活に惱んでゐる。これを教育に及ぼしても同じ事だ。注入の發育を止めて成る可く自治自修の子供を作る事が必要だ。我々の社會に今最も必要なことはこの横の愛の道德だ。私は先づ自治を家族に始めて而して之れを社會に及ぼしたいと考へて居る。

家庭での兒童劇

子供の爲の子供自身の劇

兩三年來ペーヂエント、即ち廣く民衆の間に民衆自身の劇を創始する事を望んで居られる坪内博士は、今回更に各家庭に向つて子供の爲めの子供自身の劇を創始する事の必要を說き、所謂『家庭用兒童劇』を發表されました。今その演出に就いて在來の童話劇と違つた事を擧げますと、言葉や話術や臺本等に創意があり、また假面を用ひることも新しい試みです。左に詳說して見ませう。

言葉　劇其物から無邪氣に純に無技巧にするので、言葉使ひも自ら其通りの注文であります。然し無作法な下卑た言葉使ひはいけません。不自然な、形式的な、例へば新華族や新富豪の家庭などで新參の保母、下婢が使ふ樣な下手な敬語も困るといふのでありますが、地方の粗末な方言や東京の裏店や場末の言葉、變な造語、譯語、古風な言葉、文章語、おの字澤山の子守言葉、おんばどん言葉等も皆

いけない。要するに標準語を以て句調良く文章は冗漫を避けて簡潔にならねばなりません。

話術　家庭に奬勵すべき話術は餘り技巧的であつたり智慧を加工したりしては可けません。兒童自身の工夫が第一で、成人が指圖し口移し的に敎へるのは可けない成人の指圖は大綱の上にのみ止め題財の指導、臺本の解釋は懇切を要し、之れを口演する上の工夫や表情、科介、口吻等は一切子供に委せ切つた方が啓發的、趣味的に有利であり正當であります。

臺本　話術が右の通りでありますから、臺本はトガキなどを餘まり仰山に書いたのは向きません最初は極簡單なのを與ね、當事者が七八歳位迄であつたならば、一度讀み聞かせねばならぬが、成るべく假聲めいた聲を使はず、輕く素直によく解るやうに讀み聞かせトガキの意味をよく呑込ませ、衣裳、小道具、其他の工夫一切は當人にやらせるが良いのであります元來當事者は劇に對し中途半端な智識、經驗、技術を持つて居らぬ方がいゝので、持つて居つては却つて天眞をそこなひ自然の美を殺します。臺本の如きゆく／＼は成るべく子供に作らせそして適宜に添削させるがよいのてす。

假面　この兒童劇の特に面白味を添へるのは色々意匠された假面を用ふることです。男の役は男女の役は女が演じますが、鳥、蟲魚類、獸物、老人、神樣なぞ大方假面を被ります。普通の劇の樣に紅や白粉を塗るのでなく、假面に付ては博士多年の苦辛を以て（博多仁和加の半面なぞも參考にして）作り方をも新案（圖示）してあります。さうして當事者の年齢は四五歳の幼少時を主位に置き、十二三歳の青春初期の男女を限りとし、若しそれ以上の少年が加はるならば、それは指導者又は舞臺監督とするか、若しくは何か特殊の巨大な人物又は超自然の人物に扮して手傳ふ場合に限られて居ます在來の童話劇の多くが大抵十三四歳以上の者にしか理解されなかつたのに比すれば之れは餘程範圍が廣くなつたわけです。

臺舞　場所は都合に依つて庭園でも座敷でも良い。舞臺裝置は能狂言、お神樂芝居、支那劇等の樣に寫實的でなく暗示的とし、裝置扮裝は追々成るべく子供等自身の工夫に委せ、種々の點で創造力を誘發させるのであります。されば道具背景は思ひ切つて簡單にし家は枠木で家の恰好を形り、木は

ボール紙で幹や枝の形を切出すのであります。舞臺に使ふ室の正面には三種の幕を垂れる、即ち青色の幕は戸外又は海の中に用ゐ、緑色の幕は野山に使ひ、黑色の幕は夜の時、白地の幕は室内を暗示し模樣などを描き、小道具（手で持運ぶ位のもの）はボール紙で切出し、立體のものも大體は平面の紙に立體的に插き、それから衣服は成るべく羽織を裏返す位の程度で間に合せるのであります。

演出法　兒童劇で一番嫌忌する事はセリフ廻しや科介が舊劇新派、新劇風の似而非寫實になることで、之を避けるため寫生は子供自身の工夫になる物眞似程度に止め、傍らから強て教ゑたり、眞に迫らせたりせず、及ぶたけ初心がよく、外から客を招いて見せる場合は役割番附を作り、又貼出しなぞしては困るのである。觀せるのが目的でなく、子供自らが樂しむ事を主とするのであります。此目的を貫くため兒童劇は劇智識に寧ろ白紙に等しい家庭で始める事が相應はしい。然し舞臺藝術といふ事に全く準備智識のない子供では、聲の出し方、足の踏出し方が判らぬから、之れを指導する方法として能、狂言を豫め筋を話して置いて、觀覽中に終始說明を加ゑ三四五度續いて見せれば子供等には能、狂言のイキが直覺的に入つて非常に有益であります。

■■■■■■

髮と顏の調和

髮容と昔の人が申しましたが、實際髮の形が婦人美と關係することは太したものなのです。それだのに多くの御婦人達はあまり此の點に注意なさらぬやうです。いや注意はなさるのでせうが、唯髮の恰好その物に注意して御自分の顏と髮の恰好との調和、御自分の體と髮との調和に注意が足らぬやうに思はれます。前を分けた束髮が流行すると、誰も彼もさうなさるやうですが、面長な方には此の恰好は似つきますけれど、圓顏の人だと一層お顏が圓く見ゑます。圓顏の人はどうしても前髮を高く結はねば調和が取れません。之れと反對で面長の人は髮を横に廣く結ぶがよう御座います。さうするとお顏がふつくりと見ゑてまゐります子供のかけるリボンなども、面長の人が頭の上にかけると、益々頭も顏も長く見ゑますから、頸根のところへかけるとよく似合ひます圓顏の人は頭の上にかけると顏が、長く見ゑて調和がよく取れます。

異動を見た研究會の顧問、相談役、評議員

滿洲社會事業研究會の顧問、相談役及び評議員には其後多少の異動がありましたから玆に掲げて報告致します一般會員諸君の名簿は追つて調製のうへ誌上で發表するか又は別に報告致します。

顧問

伊集院彥吉　川村竹治

相談役（イロハ順）

石本鏆太郎　西片朝三
土岐嘉平　大來修治
田中喜介　立川運平
中川健藏　村井啓太郎
松岡洋右　相生由太郎

評議員（イロハ順）

岩藤與十郎　伊佐壽
伊藤董　原田光次郎
服部精四郎　値賀連
張君度　尾見薰
脇谷撝謙　貝瀬謹吾
河邊勝　神成季吉
川上賢三　香山長一
郭學純　横井實郎
寄藤好實　立花正樹
高尾亨　田邊敏行
田原禎次郎　塚本貞次郎
土田忠二　蔦井新助
難波勝治　中村敏雄
村田懿麿　向井忠晴
梅野實　上田恭輔
野津孝次郎　大藏公望
倉塚良夫　黑崎眞也
栗木榮太郎　矢野久三郎

安川和三郎　山川吉雄
山崎正矩　牧野虎次
松井鐵夫　古澤丈作
傅立魚　古財治八
小西春雄　小林和介
永瀧久吉　赤羽克己
有賀定吉　佐藤至誠
佐藤四郎　齋藤鷲太郎
島安次郎　柴田一郎
柴田博陽　平塚半治郎
平高寅太郎　門田新松
杉野耕三郎

因みに申述べて置きますが本研究會は創立以來まだ僅かに六箇月位にしかならないので諸事意の如く運び兼ねて居りますがソレでも一時便宜的に利用した『大陸』をやめて新たに純機關雜誌『滿洲之社會』を九月より發行し内外各地より出來るだけ研究資料を蒐集し幹事及び書記の外に囑託員を置いて分擔調査に當らしめ講演會は其の第一回を昨年九月十五日開催しました講演會は今後年に四回位開催したい希望を有つて居ります講演會以外の種々の會合も隨時開催したいと存じて居ります夫れから評議員會は此の六箇月の間に四回開催し種々の社會問題を審議しましたが其の主なるものを擧示しますれば(一)借家爭議調停の件、(二)市場の改善擴張に關する件、(三)大連西公園改造計畫の件、(四)新鄉土俱樂部設立の件などでありまして舊臘十二月八日に開催しました第四回評議員會には別掲の通り社會事業家として有名な留岡幸助氏の來連を機とし牧野評議員の紹介で同氏に一席の講演をして戴き猶ほ尾見醫學博士の臺灣談もあつて非常に有益な趣味ある會合でありました猶ほ本會の今後試むべき研究事項は多種多樣でありますが殊に社會敎育方面に重きを措き日支人混合の新社會館を建てること公益質屋を設けること其他に就いても現に夫々研究して居ります。

本會は間接機關でありますから研究を旨とすべきことは勿論ですが本會成立以來各方面に對し社會問題と社會事業に關する注意を深め智識を進めたことは掩ふべからざる事實で間接に實行を促進したことも亦明かであらうと存じます。(一書記)

社會問題彙報

□撫順借家人連の陳情

撫順市街買收問題に就いては舊臘中滿鐵に於て大體の評價を決定した模樣だが竹中參事は其後撫順に赴き最後の決定を爲す段取となつた然るに一難問題として殘つて居るのは借家人に對し滿鐵が如何なる措置を採るかである撫順買收問題の起つた當初に於ては餘り問題とならず又滿鐵としても不動産だけ買收すれば借家人問題は至極無難に解決されるものと思つてゐたのであるが買收計畫が進捗すると共に借家人問題は一段の紛糾を見るに至り借家人側は吉田雄次郎、吉田千城兩氏を代表者とし滿鐵本社に派して運動を開始せしめた而して其の主張は左の如くである。

撫順新市街の買收さるべき家屋は四百戸にして其内六十戸が家主自身の家にして其他三百四十戸は借家である故に不動産の買收に際して賃價以外に各商店の暖簾の價値を認めるならば其の暖簾の價値を作つた借家人を如何にして呉れるか撫順問題は單に不動産を買收せるのみで解決したと云ふは早計である家主を除いた大多數の撫順市民(借家人)に對しては如何なる措置を取るか滿鐵は借家人に對しても相當の善後策を實行して貰ひ度いと斯うした理由で右代表二名は舊臘中滿洲館に川村滿鐵社長を訪問し陳情する處があつたが社長は之に對し借家人の希望は充分諒解した評價委員とも打合せの上何等かの方法を講じやう充分考慮して置くと語つた爲め代表委員も滿足して撫順市民に此旨を打電報告したさうであるが解決迄には時日を要するだらう。

□安田家が社會事業へ

不景氣から生ずる失業者の救濟は今や國家を擧げての大問題であつて職業紹介所の如きも畢竟その爲めに設けられた施設であるが元來我國の統計は非常に幼稚であつて諸般の施設の基礎として信頼するに足るものが殆ど皆無であつた爲め凡て統計に基礎を置く事業は何時も所期の效果を擧げ得る事が出來なく常に無能呼ばはりをされて來たものである殊に失業問題の解決には最も此基礎となるべき失業調査が全國的に嚴密に行はれて完全な統計を得た後でなければ甚だ其效果が薄いものとなるので東京府の職業紹介所でも早くから此點に着眼してせめて東京府管内だけでも嚴密な調査をやつて完全な統計を得たいとて過般來から九及び十兩年度の失業人員、失業原因失業期間其他を精密に調査を重ね漸く此程出來上つたが之も全國的に調査が行はれなければ十分な效果を擧げる事が出來ないので何とかして之を全國的に行ひたい希望を持つて居たが之には相當な費用を要する事なので社會事業協會とも協議を重ねて來た。

然るに最近に至つて同協會に向つて富豪安田善次郎氏(二代目)から社會事業のために百萬圓を寄付したいといふ申込があつたので同協會は大いに喜び早速此旨を紹介所に話したところ同所も意外な財源に之も非常な喜びで失業調査を一手に引受けやうと言ひ出したので同協會は其旨を安田家に通知して安田家の美擧に酬ゆる事としたが府の紹介所では早いがいゝとして本年早々之に着手する事として目下その準備に忙殺されてゐると。

□多忙な滿洲の救濟事業

滿洲は寒氣に向ふと救護を申出づる者が多くなる有につき大連市の救恤部では語る。

滿洲は寒氣になると病氣の爲めに身體の自由を喪ひ生活に窮した貧困者や不時の出來事のため糊口にも困ると云ふ哀れな人々が救護を申出て來るが此の冬も多數に上る見込みである十年の統計に依ると救護してゐるもの又慈惠病院に收容してゐるものは二十一名に上つてゐるが其中退院したもの死亡したもの

も多少あり行路病者を加ふれば大正七年以來三十名に近く尙旅費を給して內地に歸國せしめたものゝ數は四十二名と云ふ多數に及んでゐる是等の窮民は奥地から來る者が大部分を占め內地から來る者は殆ど無いと云つていゝ位である市で救助する以外に婦人ホームで取扱ふものを加へると一箇年を通じて救助者の數は却々多數に上り毎年增加する割合から云へば二三年前に比較すると十倍と云ふ恐ろしい殖ゑ方である隨つて內地と滿洲の關門たる大連として此種の救濟機關は益々必要となつて來るが單に行路病人や浮浪者のみならず孤兒の保護をする孤兒院や託兒所の施設の如きも焦眉の急務であり又た老後生活に迫はるゝ人々の爲めの養老院なども必要で滿洲に於ける救濟事業の前途は頗る多忙である。

□世の暗黑面と大連署

世の暗黑面を步む者の數の多さよと救世主が聞いたら慈悲の淚を垂るかも知れないが大連警務署の留置所に繫がれた者を昨年一月以來の延人員で見ると男千九百人、女百人、合計二千と云ふ數になる右の中には少數の取除があるが他は悉く犯罪で一番多いのが民國人の竊盜である次では詐欺、橫領傷害の順序であるが他の犯罪種類を調べて見ると阿片文書偽造、殺人盜賊、暴行、賭博、擧動不審、泥醉、偽造紙幣行使、掏摸、通貨偽造、浮浪者強姦未遂、印章盜用文書偽造、贓物故買、誘拐、脅迫強盜、強盜殺人、選擧違反、官名詐稱、屍體遺棄、在留禁止、有價證券偽造檢束などであつて何れを見ても慾から出たものであるから穴恐ろしき事である。

□母性權擴張の新運動

アメリカの最近の報道によると目下紐育市に新しい婦人運動が漸次頭を擡げ出して來たこの運動の指揮者とも云ふべき婦人は合衆國政府の化學研究所の所長ワイレー氏の夫人で十歲八歲の二人の子供を持つた母親である既に婦人の參政權を得て凡らゆる職業婦人の門戶は開放され殆ど日本の婦人から見れば不平はあるまいと思はれるアメリカ婦人の運動とは何かと云ふに「家庭の母親の仕事を一つの職業として見て夫妻同樣の權利を與へよ」と母親の權利擴張の運動である夫人は熱心な基督敎信者で世界中を基督敎主義化したいと云ふてゐるやうな信仰の固い婦人なので此の運動も單に男子に對する面白可笑しの挑戰ではなく眞面目にこの要求は人類の幸福家庭の向上の爲に必要だと述べてゐる夫人は最近紐育市において自己の說を公表した。

其の中には「人間の個性は誰にも犯すことの出來ない尊嚴性がある然るに此の國では婦人が一度結婚して家庭の主婦となり母親になるとあらゆる自由は奪はれて仕舞ふ假へば私達婦人が結婚しなければ職業婦人として收入を得られるが家庭の人となると一厘も報酬を貰はれない帽子一つ買ふにも夫の許可がなければならぬ併しこれは大いに間違つてゐる夫が外で働いて取つて來る月給は夫一人のものではない妻も亦分配をうける理由がある宜しく月給の何割かを夫は妻に支拂ふべし」と云ふ叫びである要するに妻も家庭に於ては夫と何等變りのない權利を得て同じ義務を盡したいと云ふのが此運動の精神であるらしい。

□愛國婦人の兒童保育所

愛國婦人會大阪支部では戰死者遺族救濟の爲めに三十年間續けて來たミシン事業を一時閉鎖して「子供の家」と名づける保育所のやうなものを兵庫縣武庫郡西ノ宮の海に近い空氣の淸淨な地に設けて滿三歲以上學齡に達する迄の子供で身體の虛弱なもの又は母性の愛から離れなければならぬ不幸なものを家庭的に保育し健康な發育をさせる事を計畫した之れは準備の都合等で本年の四月から開くことになつてゐるが最初は定員十人の極めて小い

規模の物として始めるが漸次擴張する豫定ださうで費用は一箇月二十圓である。

尙今回初める新しい仕事としては「婦人の家」といふのがある之れは支部の構内に設けて不幸の境遇にある婦人を收容救濟するのが目的で單に宿泊所の樣なものになつては詰らないが糊口に窮し居所が不定で幼兒を抱いたりした樣な不幸な婦人をも市內の方面委員や府市社會課及び警察署などゝ連絡を取つて收容しなければならないので行く行くは託兒所の樣なものをも設け收容期間の婦人の仕事等も授けてやうと幹部連は目下大車輪で計畫の步を進めて居る女醫連中も自分等の領分內なので大いに援助しようと云つてゐると。

□理解ある保護者會

東京大阪等內地都市小學校の施設狀況を視察して歸任した大連民政署用度課主任北村英三氏は大要次の如く感想を語つた。

僕は學校敎育にかけては全然無知不案內であるが學校の備品設備等の購入に關しては直接手許を經過するので此の方面は充分理解が無くてはならぬ次第である隨つて內地に於ける之等完備してゐる學校を見て置く必要があるので東京大阪二市の多數學校を視て來たその中で僕の最も感心したのは東京市では餘丁小學校と千櫻小學校大阪では愛日小學校の三校であつた以上は敎師の敎授に當つての參考書敎授用品兒童の自習又は運動に使用する器具器械等殆ど完備せざるなく愛日小學校の如きは兒童が自發的に學習する所謂兒童文庫に對してさへ一箇年六七百圓の費用を投じてゐる由である然し市としては之等に斯く多額の費用を投じるは到底不可能事であつてその大部分は保護者會の負擔になつてゐるが是等の點は實に事新らしく感じられた。

無論之等の學校は富豪の多い善良な家庭の數ある中に建てられてゐるのであるが保護者が子供の敎育に全力を盡し所謂子供の爲めには自分が犧牲になるといふ意見をもつてゐて學校では是非必要だが公費では買ふ事が出來ないといふ場合には保護者會が直に支辦してやつてゐる特に誰々の寄附だといふ巨費を投じた備品が澤山にあるのには驚かざるを得なかつた之等の學校を視て來て當大連の各小學校を備品豫備のうへから一瞥した時は何とも言へぬ淋しさを覺えた隨つて兒童直接敎育上不備の箇所が多い事に違ひあるまい尙ほ無駄事かも知れぬが大連市民は一步學校に親んで貰つて官廳側ばかりでは手の屆かない箇所を保護者が共同して補足する樣にやつて貰ひたいと。之れは誠に一理ある言で保護者たるものゝ須らく大に考ふべき事であらう。

□擡頭した劇場の改善案

劇場改善具體案を作るために東京の小村欣一侯と赤池警視總監とは昨年中總監官舍で簑井保安部長の他に國民文藝協會理事、劇作品協會の幹部及び東京劇場經營者に內務省側から後藤警保局長、大塚警務課長等も出席之に新聞記者をも加へて懇談會を開き具體案を決定した筈であるが小村侯と赤池總監との間に下相談が行はれた劇場改善意見なるものゝ大體を揭げてみると左の如くである。

(一)觀劇料の低下　日本一般の國民の現在生活程度に相當する樣に引下げる事

(二)觀劇時間の短縮　原則として五時間位とし勿論例外を認める事

(三)脚本檢閱制度の改善　藝術を尊重する立場から現在の檢閱制度を改善する事

(四)幼兒の入場制限若しくは之に關する設備の改善　普通入場を滿四歲位とし童話劇等子供本位の場合には滿三歲位とし或は幼兒依託所等の設備を作る事

若し此の相談の結果が纏れば此の結果として現在の劇場取締規則や脚本フイルム等の檢閱制度等が改正される事になるさうだ。

□市の花税年額三百萬圓

大連市役所財源の一つ藝酌婦の花税は年度一杯に四萬六千圓の徴收が出來る最初の豫算であつたけれども今日までの狀態から見ると四萬圓の調定に止まるだらうと市當事者は觀測してゐる市中不況の影響は藝酌婦の花代に減收を來し每月減る一方に進んで來て從つて花税も昨年九月二千八百圓餘であつたが十月は二千二百圓の調定をなして幾分景氣づいた感がある然し前年に比べると減少であつて昔入時の歲末年始即ち十二月一月には忘年會や新年宴會等で遊廓や檢番方面に流れ込む金も相當多いと思はれるが昨年の不況は殊に甚だしく物價調節も財界救濟も一つとして具體的に解決されたもの無く市民上下を通じて瀕死の域に迷はされてゐるので花やかな忘年會等の催しも少く藝酌婦揚高は大したことも無いやうに思はれたがそれでも市民の遊興費として市中逢坂町とそれから小崗子各方面に流れ入る金高は馬鹿に成らぬのである。

市の徴税から見て十年度一杯を總勘定すると藝妓揚高百二十萬圓合計二百六十萬圓見當で有つてこれは當業者から市役所に揚高を申告した所によるものと有るが實際の揚高はズツト多からうと思はれる當業者の申告は警務署と民政署と市役所の三箇所に提出され而して警務署は監督取締上の申告、民政署は營業税賦課上の申告、市役所は花税徴收上の申告をするのであるが直接税金を扱はぬ警務署に提出される申告が一番事實に近い樣に云はれて居る之れから想像すれば年三百萬圓は市民の遊興費として此方面に奉公するらしい三百萬圓と云へば小銀行の破產救濟が出來得る高であつて生活難を絕叫する市民にも一面には遊興に投ずる金が有ると見ゆる。

□精神薄弱兒童の教育

普通教育を社會化する重要事項の一つとして精神薄弱者及び低能兒不具兒に夫れ相當の教育を施す必要がある英國の兒童保護法にも著書にも精神薄弱兒の分類をして居るが併し白痴(一歲迄の知能)とか癡愚(七歲迄の知能)とか魯鈍(十二歲迄の知能)とか稱せらるゝ者の爲めに普通教育は施されて居らぬ我小學校令三十三條には瘋癲白痴は教育の外に置くとしてある而して僅かの志士仁人の中に獨力を以て之が教育を授ける者もあるが其は數へる程しかない彼の石井亮一氏の獻身的に經營せられてゐる東京府下瀧野川學園は明治二十四年以來今日まで繼續してやつて居るが其の外京都の脇田良吉氏の白川學院、岩崎佐一氏の大阪桃花塾、伊豆大島にある藤倉學院で之等の諸氏は全く獻身的に該瘋癲白痴兒の教育に盡して來たが何せよ個人獨力での仕事だから收容人員も少なく其の施設の點にも不充分の個所の多いのは已むを得ぬ次第である。

低能兒教育についても歐米では特別學級を設け外に補助學校を設けてゐるが我國では補助學校がない許りか特別學校すら極少數である之は低能兒の不幸と云ふべく彼等は何時迄も衆人嘲笑の的となり悲しい境遇に置かれてゐなければならぬのである盲啞教育について之を見れば小學校令では之を就學免除者として居る大正八年の古い調によれば盲者三千〇三十五人、聾啞者五千二百九十八人あり之を官立東京盲啞學校、東京盲學校を合計して大正八年末收容者三千三百二十五人に及んでゐるが今後は盲啞學校令を制定し之が設立を府縣の義務とする必要がある又身體上の缺陷及び薄弱兒についても普通教育は及んでゐない大正八年末調不就學者を見るに盲啞者以外の不具者三千二十四人、癈疾者五千七百二十一人、就學猶豫の病弱兒八千三百七十四人、發育不完全と稱せられる者四千二百七人、合計二萬一千餘人の不就學兒が見ゐる而して今や政府も諸外國の諸施設に鑑みて之が保護策と

して林間學校とか戸外學校とか云ふものの增設を計畫してゐると云ふ事だから之が實現は必ず近き將來にある事と思はれる。

□寄席等を無料で解放

寄席は昔から民衆娛樂の優秀なものとして長い歴史を有つて居るが今度謂ゆる會社派の寄席である東京演藝會社は此の民衆娛樂を一層有意義ならしめ且つ社會奉仕の一端たらしめん爲め毎週一定の日に其の所屬席を交る交る一般民衆の爲め無料開放しやうとするの議が起り目下その方法等に就て頻りに協議を凝らして居る併し演藝會社の寄席並に藝人連は夜毎の演藝を以て今日の活計とする者で他から別に何等の補助も受けて居らぬ以上之を各席で連夜催すことは到底爲し得ないことであるが左りとて徒らに聲を大にしてたまさか場末の席などに之れを催し二流三流の藝人ばかりを出演させてはそれこそ羊頭狗肉の譏を招く虞れがあるといふので結局毎月上下の替目毎に一回宛會社派所屬席の內市內一流の神田兩國の兩立花、本郷若竹、淺草並木の如く成べく多人數を收容し得べき席を開放し出演者は當代一流の小さん、圓右、貞山、橘之助を始め會社派所屬のもので其席に出演中の者は洩れなく出演することゝし當日は無料開放を表明して利益を度外視するものゝ入場者が全然無料では却つて極りが惡いとか來難いとかの遠慮があつてはとの懸念から特に蒲團代若くは開催日告知の廣告料として僅少の十錢位を申受けては如何との說もあつて落着のうへ昨年十二月に其第一回を開催したと。

□寒くなると犯罪人增加

寒さが加はるにつけ犯罪者の多くなるのは統計の示すところであるが奉天總領事館監獄でも昨年の九月末二十六人であつた未既決囚が十一月の末には三十七人に增加し年末になつて一層增加したさうである何故冬季は犯罪者が多いかと云ふと滿洲のやうに寒氣の酷しいところでは冬は生活費が嵩み石炭代に窮して犯罪を犯す者もあれば年若い者は無聊の餘り酒を飮み又は青樓に遊ぶ度數が多くなり從つてより多く間違ひが生ずるのである犯罪の種類を調べて見ると詐欺、橫領等の智識的犯罪が多く竊盜は極少數である犯罪人の生活狀態をいふと近來の寒氣では屋外の作業は出來ぬので手に職のある洋服屋とか柳行李やバスケツトの職人等はそれ〳〵仕事をして居るが他多くのものは何の爲す處もなく唯空しく監房内に立つたり座つたりして居る。

彼等の話によると仕事のないのは又格別の苦痛であるさうだ隨つて徒然のあまり色々の惡いことを考へ出獄直ちに再び縛せられるやうなことになり易いので當局では毎週二回囚人に教誨師の說教を聞かせる外にキリスト教雜誌「ときのこえ」を初め各種の宗教雜誌を讀ませる筈である尙係官の談に依ると奉天には免囚保護の機關がなく爲めに夏入監して冬季に出獄する者には浴衣がけであるために盜みせぬと生きられないと云ふやうな狀態だから是非此種の機關がほしいものであると。

□勞働者に大學門戸開放

東京芝三田の勞働者教育協會では勞働者に對して社會人としての知識を與へたいと云ふので日本勞働學校を經營し男女生徒百五十餘名を收容してゐるが最近各大學の門戸を開放して勞働者にも教育上の機會均等の實を擧げやうと先づ早大の北澤教授を介して同大學に交渉中であるが若し同校が承諾して吳れゝば直ぐ第一回特別講義を同大學講堂で開く豫定である其の學科目は政治、經濟、文學の外法律か理科の一科を加へる事に內定してゐるが勞働者と云つても教育上の程度が違つて居るので一律に出來ないから今回は日本勞働學校を始め其他の勞働學校の生徒卒業生並びに校外生と云ふことに限定するさうだ。

□來年開校する職業學校

南滿工業學校が專門學校に昇格した結果中等程度の工業學校が廢止されることゝなつた爲め從來工業學校を志望して來た家庭の子弟は當然他に目的を變へなければ成らない事となり工業學校設置を要求する者が尠くないが之に就ては當局者にも相當成算があるもの〻如く卽ち現在同校に附設してある職業敎育部を擴大して從來の工業學校と同じく工業の初等敎育を施すと共に今一步手廣く各方面に亘る職業敎育を施すことゝなるべく大正十三年度より必ず開校の運びに至るであらうと云ふ右に就て今南滿工業專門學校長は語る。

中等學校程度の工業學校は今後と雖も大連では必要で各方面から之が設置を要求されてゐる有樣で本年度から其要求に應ずべく現在の職業敎育部を擴張して米國式の所謂ヴオケーショナル、エヂユケーションを施す機關を設けるべき成算であつたが本年度は豫算其他の關係上實現を見ない併し十三年度には必ず實現される筈である從來の工業學校は高等小學卒業者を入學資格としたが今度のは義務敎育と聯絡を取り尋常小學校卒業生を收容する積りである以前の甲種工業と乙種工業の中間の程度のものが出來ることゝなるであらうが然し行方は全く異ふ卽ち社會が要求する各方面の職業敎育を施すべく先づ一般に一箇年或は一箇年半の期間で一般職業の根抵に成る敎育を授け其れから或は半箇年或は二箇年三箇年の期間で專門的な實地敎育を施す積りである露骨に職業學校と云へば一般父兄が何うも嫌ふ傾きがあつて困るがそれを防ぐ爲めに裝飾を附ける筈で隨つて其の校名でも職業學校なんて附ることは大禁物であると。

□兵隊さんの日給が上る

今度兵隊さんの日給が三錢宛增給される豫算案に就いて某聯隊の一中隊長は語る。

現在兵士の給與は充分でない一二等卒は日給十二錢、上等兵で十五錢、伍長が十七錢で之れが十日目每に支給されるが物價騰貴の今日到底やり切れない尤も隊の方で靴下とか襟卷とか石鹼などを支給するが委任經理の悲しさには金額が制限され物價の方は無制限に騰貴するので思ふやうに支給が出來ない爲め遂に兵士が私費で支辨しなければならぬので家庭から取寄せる金は平均四圓に達して居る我我中隊長は二三年までは壯丁が入營すると父兄なり附添人に對して隊の方で全部充分に支給するから金錢を送る必要がないと言明して居つたものだが最近では反對に支給が遺憾ながら經費の關係上充分に出來ないため三圓位は仕送りして貰ひたいと恥しいことを不本意ながらも云ふやうな始末である。

實際兵士は必要な郵便切手とか葉書とかタオルとか其他外出するとすれば偶には酒の一杯も呑まうから一箇月の給料では足らない如何に儉約しても一箇月九圓卽ち日給三十錢は要る尤も稀れには此の日給の半額又は全額を家庭へ送る者もあるが之れは問題にはならない苟くも國家の干城として御奉公して居るのに家庭から錢を取寄せなければ軍人の精神とも云ふべき銃の掃除さへ出來ないとは餘り負擔が重過ぎる此點は爲政者に於て充分考慮して貰ひたい例ひ三錢でも增されるは增されないよりは萬々であることは勿論であるが俸給を增すよりも此の支給をもつと充分にして貰ひたいと思ふとは尤千萬な事である。

□大阪の農村振興保險

大阪府社會課にては世界にも類例なき農村振興保險なるものを實施し農村の社會的救濟を行ふことに決せり右の保險は凶作救濟を目標とするものなるが大阪府下耕地面積は五萬三千町步にて既往十年間の災害額を調査するに平均十六萬五千圓に達し居り之を算定の基礎とし先づ耕地一反步より一年平均三十錢の

保険料を徴收し之に大阪府にて持合せの農村救濟基金の二十萬圓の外に國庫より六十五萬圓の低利資金の供給を受け總額百萬圓とし災害評定員を設け災害の實際を調査し平年作を標準として其れに達する迄の災害額を保險金として交附するものなるが同時に相互保險主義を採用し利益を均霑せしむることも考慮し保險法の規定により株式會社を創立すべく大阪府自ら經營の主體となりて定款其他の準備中なりと云へば近く實現するならむ。

□滿洲の勞働問題と滿鐵

滿洲に於ける勞働問題は從來殆ど等閑に附せられ關東廳及び滿鐵にても何等これが調査研究をなすところがなかつた然るに昨夏香港又は厦門方面に於て支那勞働者が罷業を惹起してより同盟罷業は漸次北方に波及するに至り滿洲に於ける勞働問題も漸く注目せらるゝ事となり滿鐵あたりでも漸次之が調査を始めたが其後開欒炭坑が一度罷業を起すや滿鐵では撫順炭を始め凡ゆる方面に嚴重な警戒線を張り一方數名の社員を現場に派遣して親しく調査せしめて罷業の滿洲侵入に備ふるに至つた撫順南昌洋行の炭坑苦力四百名の罷工も滿鐵を驚かしたものゝ一ツで撫順炭坑の警戒を一層嚴にすると共に撫順炭坑よりは苦力係員十餘名を沿線各地に派して苦力雇傭狀態を視察せしめ其の關係事項をも取調べ苦力對會社の關係に改善を加へんとして居る。

然るに滿洲に於ける苦力は南方の苦力と全然種類を異にして居るから同盟罷業等の出來べきものでなくヨシ罷業を惹起したりとも資本家に取り左まで恐るべきものでないのは最近の開欒炭坑に於ける罷業を見ても知ることが出來る然も滿鐵の雇傭條件宿舍等は開欒炭坑のそれとは問題にならぬ程に完備し會社對苦力の關係も親密にして滿鐵が心配して居る程のものではない只將來に於て恐るべきは智識階級に屬する支那鐵道從事員の共同動作である現在に於ける滿鐵全支那鐵道從業員は四千餘名で全部滿鐵從業員養成所出身である彼等は現在に於てはあらゆる方面に於て滿鐵の恩に感じ無事に働いて居る次第であるが何時如何なる思想煽動により事件を勃發するに至るやも測り知れぬから滿鐵はこれ等に對して豫め注意すると共に彼等の雇傭等に關しても大いに改善を加へればなるまい。

□市外電車の複線工事

大連市と沙河口、星ヶ浦間又は老虎灘に至る電車賃に對し均一制を採るべしとの議論が唱へ出されてから可なり時日を經過したが未だ解決を見ず電鐵當局者も之が調査研究に沒頭して來たが「電車線路の擴張その他の設備完成を後にしては到底實現し得ない」といふのが其根本問題であつた處が滿鐵の本年度豫算に於て電車線路の現在單線箇所である本社前、寺兒溝間の一哩、伏見臺、水源地間の約二哩、老虎灘線約二哩强、水源地、星ヶ浦間約二哩半强等は工費約四十萬圓を計上して一齊に複線に改められる事に決定した。

この工事が完成すれば始めて大に大連市の形態に對する電車交通網の完成を見る譯で之が完成と同時に愈々電車賃の均一制を實施する方針で現在の電車收入が一ヶ年百萬圓で均一制を實施するとすれば約二十萬圓の減收となる計算である全線複線となれば收入の增加すべきは勿論であるが何の程度の缺損を補塡し得るかは未だ豫想つかざるも諸設備完成の曉には收支計算等には餘り關係せず多少の犧牲を拂つても均一制を實施するさうである。

□結核豫防會の活動

滿洲結核豫防會大連支部では其後も引續き會員募集に力瘤を入れて居るが大正九年九月發會當時の會員千三百名を加へて現在では總勢約五千の會員が出來た然も何等事業を初めないのはそれ丈けの基金がないからだ相であ

ろが何時までも何一つとして手を着けずにゐては却つて資金の捻出も出來ない道理で一方結核患者の方は益々放つて置けない狀態なので委員長の大連警務署淵田衛生主任も躍氣となり「本會に大連の狀況を報告して諒解を求めたから遠からず理想を實現される時が來るであらう然れば之が手初めとして市民の健康相談所を設け次で療養所をも建ればならぬが先づそれを作れば當局でも必らず相當補助して吳れる筈である」と語つてゐる。

此くの如き機關は一日も早く實現を祈らればならぬが大連に於ける最近二三年の結核死亡者を調査すると大正九年に三千四百九十名中の結核患者中死んだ者六百三十九名、十年度に於て二千九百名中五百七十名死亡し十一年度に於て千八百八十三名のうち二百三十九名の死亡者があつたから慄然たらざるを得ないわけで大いに注意すべきことだ。

回寺兒溝に公學堂を新設

大連市に編入されて居ながら衛生その他何等の施設もせず從つて戶別割も賦課しないといふ譯で實際に於ては獨立した自治團體の如き觀ある寺兒溝支那部落は近來著しき發展を遂げ彼等はその兒童を敎育するため寺兒溝書院と稱する學校を建て現在百二十人からの生徒を收容してゐるが之が經費には部落内に設けた二十箇所ばかりの共同便所の糞便を賣却して得た千二百圓と兒童の授業料等を以て充當してゐるが斯の如き姑息な方法では到底間に合はぬは勿論で然も兒童を公學堂に入れしむるには伏見臺まで通學せしめねばならぬ事情もあつて支那人の敎育上遺憾此上もなかつたが關東廳では愈々寺兒溝方面支那兒童のために表忠碑廣場の北方に第三公學堂を建設する事に決し來學年より開校の豫定で聞くところに依れば既に工事に着手したと、

總建坪百七坪煉瓦造二階建總地下室付きとして校舍の階下は堂長室、職員室、敎室、宿直室、小使室、物置等で階上には敎室二倉庫等の外裁縫敎授等に充てるため特別敎室を設け工費四萬七千圓を要するが之だけでは生徒を僅に百八十人收容し得るのみだから次年度更に百坪以上を增築の見込で尙は運動場の周圍の塀、運動機具、暖房、電氣の設備も本年度に於て完成される豫定だ。支那人の下級者のために之が善導をなすは當局の士の最も注意を要するところで寺兒溝の支那人部落内に學堂が設けられる樣になつたのは甚だ喜ぶべきことゝ云ふべく更に進んで支那人子弟のため一段の考慮を要すと認められる。

回西公園内の保健浴場

豫てから大連市西公園内に設ける事になつて居た保健浴場は工費十七萬圓を以て一昨年十月始めて工事に着手し外廓だけは昨年中に竣成したが是に要した建築費は約十一萬圓である尙ほ内部の諸設備は本年秋迄には完了の豫定でこれに對する費用は殘金六萬圓を以て充當する筈であるが外廓に比較して内部の諸設備費が六萬圓では少し足りかねる模樣らしい併し今日これをどうするといふ譯にも行かないから六萬圓の經費で内部諸設備の完成を期することゝなるべきもそれでは外廓に比し見劣りがして不完全なものでなければ出來ないので當事者は大いに考慮をめぐらして居る結局他から資金を借入れて外廓に相應した諸設備を内部に施して遲くとも本年中には是非共完了して仕舞ひたいといつて居る。

而して之が管理方に就ては今のところ何ういふ方法にしようと云ふことは分つてゐないが他から資金を借入れて完成さすとすれば從つて金利も見なければならないのであるから湯錢の如きも比較的高く付く事と思はれる併し已に造り掛つた以上何處までも滿足なものに仕上げたいと努めて居るらしいから近く相當のものが出來上ることゝ思ふ。

長詩五篇

さだめ

白蝶生

さだめとは
二人を未知から知へ
知から友へ……
みちびきし神の傳手にや
されどそは喜びのさだめ
あはれわが胸の
奥深く祕められし
いたましさだめ
ルビーの冷やけき手ざはり
まこと輝く君のみ胸に
ソト抱かれて眠れかし。

ふみ送りて

のぶ子

山寺の鐘の音きゝつ
なつかし思ひの裡にひたれば
君のほゝゑみぞ浮ぶ
水に澄む月影の如く……。

×

あまりに冷たき
君のみこゝろ！
ことはりは知らねど
何故かさびし
きりの如く
身のほとりめぐる
……悲しさ……

（靜けき松山の夜に）

胸は痛む

花畠正位

シト！
シト！
軒端うつ
絹糸の夜半
つれなきがまゝに
文箱あされば
忘れ得ぬきみが

筆の走りもいと冴えて
赤き心の一片に
若人のみに許されし
血潮の波はいと荒れて
白蠟の胸は亂れ痛む。

月を見て

阿部白流

月みては故里おもひぬ
わが心
何故か泪出づる……

オヽ心よこゝろ
地下に眠れるＹＴ思ひてか？
心よ靜けく聞いて吳れ

彼の君二十年の別を告げてありなん
別れ告げしも其の愛はあり
悲しむなかれ……我が心

地下に眠れど彼の君は
平和であれと祈りつあり
オヽいとなつかしき愛の故里よ

故郷

山口白花

北風さむき山に
みだるゝ胸をいだき
一人淋しく眺むる夕景色
沈む夕陽はくれないに
やがてさびしき鐘の音は
山の彼方より聞ゆなり
またも東よりひゞき來る
鐘の音こそふるさとの
なれし音のその如く
淋しき耳に聞ゆなり
あゝなつかしき我が故鄉
如何におはす母や姉の
風さむきこの夕べに……。

詩壇

曉山雲

立川卓堂

鄕雲靉靆幾重重　河嶽春回淑氣濃
憶昔扶桑東海曉　仰看天半玉芙蓉
郁郁又紛紛　衆山天未曉
扶桑第一峯　獨聳慶雲表

壬戌歲晚所感

山田芙峰

貧生碌々五十年　玉碎所期奈瓦全
歲晚不免多少感　不尤人兮不怨天
回首檢來既往事　少壯水府蛟龍淵
縱談橫議熱政敎　雄志未休望雲煙
二十蹶然向臺灣　南支風雲急此間
乾坤一擲丈夫業　意氣軒昂欲拔山
壯擧蹉跌機一轉　爲家欲養嚴與慈
奉雙親向鷄林去　鷄林之事反豫期
貧性狷介不容世　況又聾疾遇彌奇
內子貞堅幸免饑　放浪之間不捨學
挈家來住黃海涯　生計僅托毛錐子
功名富貴何足論　我有赤心我有膽
文章報國寸心存　社會事業研究會
先輩厚庇足維持　晚年微衷惟斯業
嗚呼瓦礫之質終瓦礫　願將殘骨埋此地
北堂墓在王家屯　雖入老境身猶健
兩耳雖聾心不聾　有舌有手又有筆
擴張文軍樹殊功　瓶裡梅花將咲時
窓外風雪夜沈々

卓堂曰　一氣呵成得此雄篇、健筆可驚、世事日非不忍聞之、先生之聾於先生寧幸哉乎、僕却恨不聾、有舌有手又有筆之句、有古人所謂舌猶存之概、兩耳雖聾心不聾亦是雖盲目不盲心者、況先生耳疾輕微也、不可謂聾、若夫用電機話則不異通常人先生幸不賴人而使役雷電、其志不小可知耳。

支那怪奇小説

新旅順　渡會貞輔

上篇、幽靈の仇討

乾隆の末頃、浙口省陰縣に陶姓と呼ぶ當年十八になる青年があつた。親兄弟もなく、或る親戚の者と一緒に他境に出で、役人になる下準備をして居た。所が賴みに思ふ親戚の者もあはれ儚なく他境の空で死んでしまつたので、彼は止むを得ず一人そのまゝ漂浪の旅に上り、流れ〳〵て遂に淮安府までやつて來た。その後彼は幸にも或る知縣衙門の刑事係書記に任命されたので、取敢ねず家を借入れ、少女を一人買取つて下婢となし、それに炊事一切を委せて置いた。彼は此の少女をさながら自分の孫娘のやうに可愛がつて、傍の見る目も羨ましい位に二人は仲好く暮して居た。やがて數年經つてから相當の貯蓄も出來たので、彼は或女を妻に娶つた。丁度その時分此の下婢も年頃になつたので、彼の妻は多少嫉妬心を起したと見ね、少女を他人に賣つてしまつたら如何かといふことを切りに夫に勸めたが、陶性はさうした慘酷な眞似はどうしても出來得なかつた。けれど是がため却つて妻の疑惑を招き、その結果、夫婦の間が氣拙くなつても面白くないと考へて、下婢には嫁入道具などを用意してやつた上、自分が仲に入つて或る壯丁の處に緣付けてやり、そして其後も金品を仕送つて其の生計を助けて居た。夢の如く一年は流れて行つた。

當時縣衙門の境内に一人の占者があつて、人の吉凶禍福を占ふに甚だ妙を得、一として中らぬことは無いといふ評判が專らなので、陶姓も或日のこと役所を退けてから其の占者の許に行つて、自分の運命を占て貰つた。所が驚く可し、占者は彼に向つて『貴方は立冬當日には屹度死にますよ』言ふではないか。かくと聞いて彼はすつかり悲觀した、そして家に歸つてから、妻がいろ〳〵慰めて呉れる言葉も耳に入らず、さうかと言つて、體の何處が惡いといふ譯でも無いのに、心の悶ねはどうしても拭ひ取ることが出來なかつた。そこで妻の言ふには『ひよつとしたら何か想ひ懸けない災難でも來るといふのではありますまいか、兎も角お役所に願つて四五日間お暇を戴き、さうした上、日頃親しいお友達の方々でも招んで、一つ氣晴しをなすつて見たら如何ですか』とのことに、彼も成程と思ひ、妻の言つた通り、早速役所に願つて暇を貰ひ、それから日頃親しく往來して居る友達を數人自分の家に呼び寄せ、そして每日酒を飮んだり笑談を言ひ合つたりして氣を紛らして居た。斯くするうち恐しい立冬の日はとう〳〵遣つて來た。

此日彼は終日家にあつて怕しい死の徵を今か〳〵と待つて居た。けれど何等怪しい事もなく、平生通り日は暮れて、夜の幕が低く靜に下つて來た。夜がだん〳〵更けるに從ひ友達も大分酔が廻つて來た、まして彼は連日連夜のお接待で殆ど座に居堪ることが出來ず、友達等に向ひ『僕は失敬して先に寢むるから諸君等はどうぞ此處に居て十二分に過ごして呉れたまへ』と言ひながら、一人立つて寢床に入つた。と思ふ間も無く突然彼の寢間に當つて丁度雷の鳴るやうな消魂しい音がしたので、居合す人々は吃驚しながら、急いで彼の部屋に駈付けて見ると、陶某は頭と顏とが破れて全身血染れとなり、頭髮をばら〳〵にしながら急に室外に走り出した。人々は此の樣を見て早速追ひ駈けたが、その足の迅いことゝ言つたら、此方で走れば走るほど彼はなほ〳〵迅く走つて行くのであつた。そしてとう〳〵河の中に跳り込んで、其儘姿は見ねなくなつてし

まつた。其後數日に亘つて河の中を捜索したが如何したものか屍體は遂に上らなかつた。人々は種々に取沙汰した、或者は口を極めて占者の占ひが中つたと云ひ、又或者は之を陶姓が前世に犯せる罪業の報であると噂した。後に殘された彼の妻は寄邊なき己が身の振方に困つて其後間も無く同地某の處へ嫁入つた。陶姓の友達も仕方なしに彼女の意思に任せて別に何も言はなかつた。

話變つて此方は以前陶姓が世話をして壯丁の處へ嫁入した下婢であるが、丁度陶姓が世にも不思議な死方をした當日の事、夫は役所の御用で未だ歸つて來ないので、獨り淋しく留守をして居ると、何處となく幽靈の泣くやうな聲が微かに聞えて來る、そしてその泣聲が段々近くなつて來たので、ひよいと其の方を見ると夫れは紛れもない舊主の陶旦那樣であつた。吃驚して來意を尋ねると、陶旦那はさも怨めしげに彼女に向つて實に驚くべきことを言ひ出した。『自分は或る者の手に懸つて敢えなき最後を遂げたのである、どうぞ賴むから仇を打つて自分の妄念を晴して呉れ』こう言ひ訖つて、彼の姿は煙の如く消え失せてしまつた。夫の歸るを待つて、彼女は今自分が目のあたり見たその一伍一什を詳しく夫に話したが、夫は今頃そんな馬鹿な事があるものかと、てんで相手にしなかつた。それから二日許り經つた或晩、かの壯丁は偶然途中でその陶姓に出遇つたのであつた。見ると、全身血染れになつて、頻りに加害者の罪業を列べ立て、やはか此の怨み霽らさで置くべきかと云ふ、その形相の物凄さ。是を見た壯丁は餘りの怕しさに魂さへも身に添はず、一所懸命になつて家に逃げ込んだ。一度ならず二度までも怪しいことを見たので、流石の壯丁も今は棄て置けずと妻と相談して、二人が目擊した一切の模樣を詳しく具して知縣衙門に訴え出でた。時の知縣は進士出の人で年こそ若いが、仲々の器量人といふ評判高く、其のうへ慈悲深く、大變人民を可愛つて居た。そこで此の訴えがあると、實地檢査のため直ぐ陶姓のもと住んで居た家に出掛けて行つた。此時その家は未だに住む人も

なく其儘になつて居た。知縣は部屋の内に入つて一々仔細に取調べると、どうやら壁の下の方に丁度血でも拭ひ取つたやうな跡があるので、愈々不審に思ひ、更に彼方此方と隈なく取調べて見ると、家の後に聊か土にゆるみのあるやうな處を發見した。知縣は取敢へず小使に命じてそれを鍬で掘らせて見ると、驚くではないか、中から見るも無慘な陶姓の屍骸が現れたのであつた。そこで知縣は其儘役所に引上げ、早速陶姓の妻を召喚し嚴重に取調べて見ると、爰に戰慄すべき重大なる犯罪事實が現はれた。

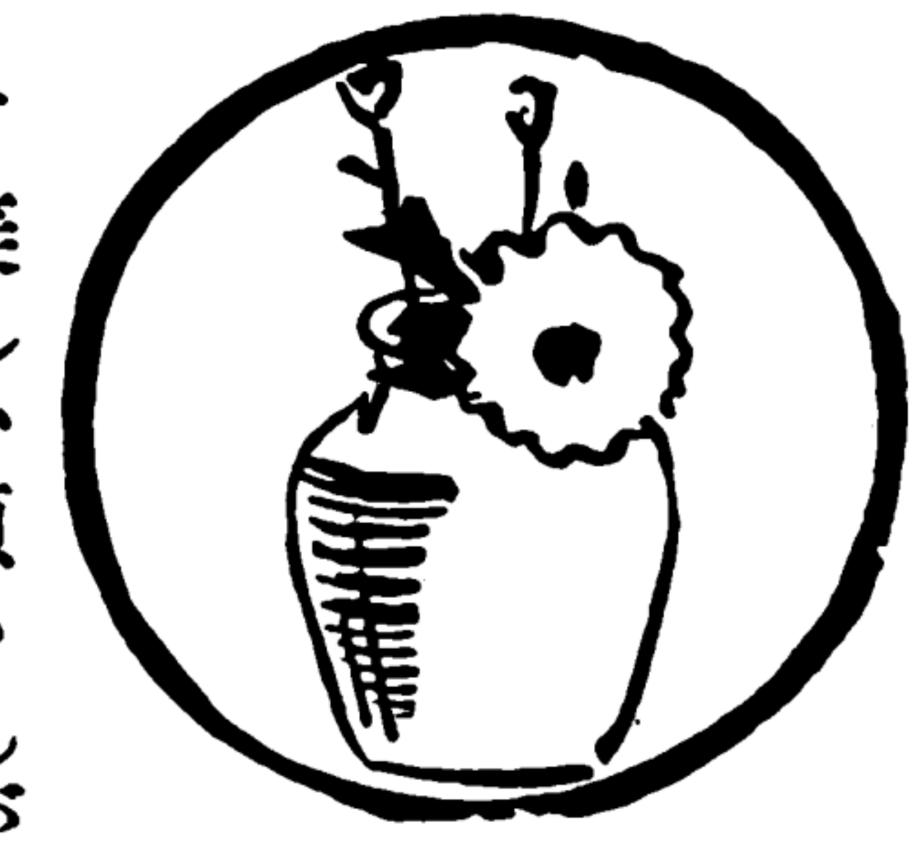
それは斯うだ。元陶姓の妻であつた此女が二度目の夫某甲といふのは非常に水練に猛けた男で、實は此女がまだ嫁入せぬ前から此の某甲と怪しい關係を結んで居たのであるが、嫁入り後も度々夫の目を偸んでは人知れず媾曳を重ねて居たのであつた。或日二人は相談して、彼の占者に若干の金を握らせて味方に引き入れ上述のやうな占事を陶姓に言はせたのである。かくて立冬の夜、某甲は早くから陶姓の寢間に忍び込んで隱れて居り、陶姓が醉疲れて寢間に入るを待つて是れを殺してしまつた。そして自分はすぐ幽靈の裝束をなし血で顏を塗り、頭髮をばら〳〵にして突然室外に駈け出し、河に跳り込んで死んだ風に見せ懸け、水底を潛り拔けて陸に上り、其後何喰はぬ顏をして居たのである。陶姓の妻が先に夫に勸めて友達を數名自分の家に呼んで相伴させたのは、要するに陶姓が河に跳り込んだといふことを實際に目擊させ、そして人に疑ひを起させまい爲めの魂膽であつたのだ。女の白狀によつて某甲も直ちに捕縛された、そして取調べの結果、何も彼も白狀した。女の言分と寸分違はなかつた。無論此の男女二人は死刑の宣告を受けたが、由來姦夫姦婦が實夫を謀殺した事件は少くないが、こうした巧妙な手段、細密な方法によつて行はれた事件は支那においても實際稀有と言はねばならぬ。併しいかに巧みに企んだ事でも恢々たる天網は疎にして漏らさず決して何時までも之を見逃すものでないと云ふことを此の終りに書き添へて置きたい。

下篇、執念の怨靈

爰に譚姓といふ人があつた、當時浙口地方で縣令を勤めて居たが、如何いふ譯か、妻君との間柄が兎角圓滿を缺いで居た。或日の事、二人は不圖した事から又ぞろ爭論を始め、そして譚姓がつひ妻君の頰を捻つたといふのが原因で、妻君は口惜しさの餘りとう／＼首を吊つて死んでしまつた。然るに三日ばかり經つてから彼女の亡靈は屢々その怪しき姿を現して彼を惱ますやうになつた。殊に彼が妾と同衾した晩などには屹度その姿を顯はし、帳を掲げて中を窺き、さうしてひや／＼する息を彼等の上に吹掛けるのである。彼は亡妻の執念深き此の有樣を見て非常に立腹し、進士に賴み、咒文を以て靈を東側の下屋の內に封じ込んでしまつた、そして咒符を其門に貼り付け、其のうへ官用の封印までも施した。流石の怨靈もこうした咒文には迚も敵はないと見ね、それ以來ふつつり其の姿を見せなくなつた。其後數年經つて彼は他縣に轉任を命ぜられた所が後任の縣令は着任後何も知らないから彼の東側の下屋を開けてしまつた。すると彼女の亡靈は封が解けたので、又出て來たが、何を勘違ひしたか、後任の縣令が伴れて來た下婢の體に乘移つて盛んに荒狂ふので後任の縣令は其の亡靈に向ひ浮ばれない理由を質ねると、以上の事情がすつかり分明した。そこで後任の縣令はきつと容姿を改めて亡靈に向ひ『御身の仇は要するに譚縣令で私の下婢とは全く關係が無いではないかそれに何の罪科もない私の下婢に祟るといふのは一體何ういふ理由であるか』と尋ねると、亡靈は『實はお女中の體を拜借して貴方にお目に懸りお賴みしたい事があるのです』と答へた。そこで『その賴みとは一體ごんな事ですか』と訊くと『外でもありません、何うぞ私を譚縣令の任地まで護送して下さい』と言ふ、『可笑しいぢやありませんか、それなら貴方が勝手にお出でになつたらいゝでせう』といふと、『お言葉ですが、私は

自殺者ですから途中で河神が私の通過を差止めます、どうしても貴方の印文がなければ彼地まで參ることは出來ませぬ、それから序に從者を二人附けて送らして下さいませんか』と云ふので『二人の從者とは一體誰誰を指すのですか』と尋ねると『陳貴と滕盛の二人を附けてお送り下さらば結構です』と言つた。附けて呉れろといふ此の二人の役人は遠うの昔に死んで居る人達である。此に於てか縣令は亡靈の申入れを承知して一枚の公文を書き記してからそれを直ちに之を燒き棄てゝしまつた。

話變つて此方は譚姓であるが、後任の縣令と亡靈との間に這麼な問答が取交された其當日の事、丁度寢室で夕飯を認めて居ると、突然その妾が地上に寢そべり返つて大きな聲で『貴方はほんにひどい方ね、私をさん〴〵虐めて殺して置いてさ、おまけに東側の下屋に押込めて置くなんて、妾ひもじくつて堪らなかつたわ唯今やう〳〵の事で歸つて參りましたが、併し貴方に取つては餘り好くも歸つて來たとは申されませんわネ』と叫び出した。是から後の役所内は晝と言はず夜と言はず此の亡靈の祟りに惱まされ、いつも〳〵厭な日ばかり續いて居た。そこで縣令は又彼の道士を呼び寄せ、呪文を以て今度は亡靈を牢獄の中に封じ込み、型の如く呪符を貼り付け、官の封印まで施してしまつた。今や牢獄の中に封じ込まれようとするとき、彼の亡靈はいとゞ怨めしげに『ほんに貴方は何處まで惡い方でせうね、前には妾をあの東側の下屋の内に封じ込むし今度は牢獄のうちに封じ込まうとは全く極惡非道のなされ方です、家屋なら辛抱出來ますが、牢獄では絶體絶命です、一體妾は何の罪で牢獄に入れられるのですか、覺ていらつしやい、此の怨みは屹度晴して見せますから』と言ふ聲の物凄さ。其後一箇月經つてから一人の重罪犯人が牢獄の中で縊死した。これが爲め譚姓はとう〳〵免職されてしまつた。彼は怨靈の執念深きに恐れをなし、頭を剃つて佛門に歸依し、亡妻の菩提を弔はんと思つて、未だ出發せぬ前に急病で死んだといふことである。



創作

家庭の破壞

永田新郷

若くて美しい貞さんが親の意見も聞かずに無我夢中でS生といふ豫てから想ひ合つた男と遂に内縁を結んだ、そしてS生が勤めて居る製絲工場から少し離れた町に小さな家を借りて住むことになつた。昨日結ふた許りの丸髷に早や襷掛けして、ホンノリと上氣した豐艶な双頰に血色を漲らせ、いそ〳〵として立働らく無邪氣さよ。昨日まで處女の誇りを保つて來た貞さんの黑い二つの瞳は、新らしい希望に輝き、展開して行く新らしい生活と、新嫁にふさはしい恥しい喜悦の光で滿ちて居た。彼女の微笑の晴れやかさ、快活な二人の笑ひ聲、少なくとも貞さんは此の場合慥かに人生の幸福を感じたに違ひない。

新妻の貞さんが御飯を炊いたり副食物(おかず)を拵らへたりすれば、新郎のS生は火をおこしたり水を汲んだりして、仲好くそして如何にも夫婦らしく共々に働らく。御飯の用意が出來ると、夫婦差向ひで食卓に着く、其時の嬉しさ樂しさは又格別である。貞さんが朝早く起るのも夫への心づくしと思へば氣苦勞にならう筈なく先づ朝の食事の用意を整へ、餘り廣くもない部屋の中を一わたり掃除し、それから夫が出勤するまでの身廻りの世話をする、それが又とない樂しいものであつた。

かくして二人は蜜の如き新婚の樂しさを味ひつゝ十日と過ぎ、二十日と去り、約一年も經つてから、貞さんは早くも七箇月の身重となり、やがて女の子を分娩した。偖て子供が出來てみると、夢のやうに唯だ戀の

甘味をのみ舐つた過去のことが忽ち幻影となつて、彼等はどうしても一家の生計の將來を考へずには居られなかつた。一つの小さな魂が乳を求めて泣く現實の問題に觸れると、性の衝動に驅られて、盲目的に戀の一路に突進したツイ一年前の昔の無理性と無思慮とが偲ばれて、何とはなしに儚ないやうな氣もする。夫婦になれば子供が出來るといふ理屈は知つてゐても斯様に早く子供が出來やうとは思はなかつたのだ。隨つて一つの新らしい生命が生れ出たと云ふ事は彼等二人に取つて寧ろ迷惑であつた。

生活の脅威は明日をも待たずして彼等の家庭を襲擊して來た。妻が乳呑兒を抱いて寢て居るので、夫は一人で妻子の世話と臺所の用意に眼を廻はし、工場に出て行く餘裕もなかつた。S生は勞働者である、製絲工場へ通ふ筋肉勞働者である。工場を休めばそれ丈け收入が減る、收入が減れば生計が苦しくなる。現實の苦しみは斯うして忽ち若い夫婦の間に突進したのである。

併し子供が出來て見ると、又その子供が何よりも可愛くなるもので、そこに尊い親心が生れ、二人は苦しみながらも子供を抱へて一家の支持に努めた。貞さんは自分の襦袢の袖とか帶の端切れなどを取りはづして夫れを子供の着物に仕立てたりなどした。やがて夫婦相談のうへ子供を他人に預けて貞さんも夫のS生と共に工場に出勤する事になつた。勞働者の共稼ぎといふ悲慘な社會的現實暴露である。家庭より母を奪ひ、母より乳兒を奪ひ、乳兒に母の愛を遠ざける、それが現代文明の一悲劇である。母親の乳房を口にしてスヤ〳〵と寢て居る愛兒を未だ夜も明け切れない内に他人の手に渡す、子供はまだ親に抱かれて居るのだと思つて寢て居るのであるが、お腹がすいて來て乳を求めて泣くと、親でない他人であるから、時間が來なければ乳は貰へない。子供は益々泣き叫ぶ、すると子守は容捨もなく叱つたり叩いたりする。斯くして勞働者の子供は生れ落ると直ぐ悲慘な迫害を受けそして精神までが歪んで了う。

何といふ惨じめな生活であらう。しかも彼等の生活の悶ねは眞劒であつて一寸の餘裕もない。彼等はいかに勞働しても一生現在の境遇から脱却し得ないであらう。然るに彼等の提供する眞實の勞働の價値といふものは資本家の何十倍にも當るのである。遊んで居ても生活の安定が保障される資本家と汗水垂らして働いても食ふに困る勞働者の悲哀とは餘りに隔たりがあり過ぎる。米一升の貨幣價値はウイスキー一升の數十分の一にも當らないが一升の米は人間生活に必要なる實際上の價値から云へばウイスキーの數十倍の價値を有して居る。貧乏して居る勞働者と金持の資本家とを比べると勞働者の價値は丁度一升の米と一升のウイスキーに於けると同じ意味合になる。現代文明の交換價値には多くの矛盾がある。此くの如き矛盾もまた其の一つである。勞働を多く提供するものがヨリ多く悲慘であると云ふのは勞働價値の轉倒である。現代文明の缺陷は其處にある。勞働して食ふに困ると云ふ事は果して己が罪であらうか。

人間が貧困に苦しめられ、毎日不愉快な雰圍氣の中にゐると、氣がくさ〳〵して、竟には家庭の平和を破る樣になる。貞さんとS生の夫婦の間にはモハヤ戀の甘味がなくなり、そして時々夫婦喧嘩が始まる。働いても働いても生計に不足の多い家庭には斯うして段々風波が多くなつて來る。夫婦喧嘩の道程はいつも同じやうなもので、共稼ぎの二人が工場から歸つて來て、預けて置いた子供を受取り、それを寢かしてしまつてそして貞さんが夕食の仕度にかゝると、S生は火鉢の傍で朝日煙草をふかしながら一人で何かぶつ〳〵言ふ貞さんも興奮して居るので決して默つて居ない、一口二口言ひ返すと、S生は雷のやうな聲を出してガミガミ罵る。夫婦喧嘩の幕はいつも〳〵斯うして展開されるのである。

『何をそんなに毎日〳〵小言を云ふのです、小言を云ひたければ私に不自由のないやうに物をあてがつてから云ひなさい、男の癖にゑらそうな事をいつて貴郎は私にどれだけの事をしました、連れそふてから二箇

年にもなるが襦袢一枚でも買ふて貰ふた事がありますか』と貞さんが云へば『なに！何をいふのだ、そんなことを云ふて俺が氣に入らんなら出て行け！もう貴樣のやうな女は入らんすぐ出て行け！』と或日の事、いつもの夫婦喧嘩が嵩じてS生は其處等にあつた品物を手當り次第取つて投げた、そのうへ棒切れで貞さんを打つやら足で蹴るやら、小さな家庭はひつくりかへる樣な騷ぎである。斯うして樂しかつた平和な家庭は僅か二年間の内に早くも破壞されてしまつた。

或る晩、貞さんは子供を連れたまゝ家を飛び出してそれつきり再び家には歸らなかつた。S生も貞さんの家出した後は狂亂の人のやうになつて放縱な日を送つて居る。

◎ボーイスカウト◎

諸外國で非常な好成績を示して居るボーイスカウトに關し從來我國では其の發達が極めて遲々たるものであつたが皇太子殿下御渡歐のみぎり彼の地の規律あるボーイスカウトに御注目あり御歸朝の際には橫濱に於ける英國少年團の奉迎に御目を止めさせられてボーイスカウトの必要な事を御力說されてより俄然我國に於けるボーイスカウトは非常な勢ひで勃興し現在では東京市の東京聯合少年團を初め各都市に此のボーイスカウトのない所とてなくなつたが然も尚まだ黎明時代で此の各都市のボーイスカウトの間に何等の聯絡統一がなく爲めにボーイスカウトの眞本領である少年の自治的訓練と云ふ事に就て遺憾な點が少くないので之に着目した後藤東京市長は是非とも我國に於けるボーイスカウトの大日本聯盟を組織する事の必要なるを認めて居たが最近ボーイスカウトの萬國聯合大會に出席のため渡歐した內田嘉吉氏よりの報告もあつたので愈々日本にも此のボーイスカウト大日本聯盟も遠からざる將來に於て其の呱々の聲をあげる事と觀測されて居る。



水源池を観る

官房子の黄昏

白木冬洋

旅の一日は小龍王塘に暮れて、秋の夕靄せまる山裾を臺車に押されて水源池の官房子へ急ぐ……夕陽は將に沈まうとして、藤色の靄を破つて紅の箭が縱橫に走つて見ゐる。寂しい秋の息吹に染められた山吹色の樹葉は、今ひと時の入陽を浴びて桃色に照り映ゐてゐたが、それもやがては音もなく、地より匍ひ上る黄昏の色に蔽はれて、急に黑ばんだ斑らになつて褪せて行く……。

絕ゐず臺車は二人を乘せて走つて行く。見渡す限り何處と云はず、野も、山も、丘も凡ゆるものが今別れを告げて去るかのやう、秋日の名殘を微かに印して寂しく宵闇の微動の中に相抱かれやうとしてゐる。際涯ない曠野の秋を彷徨ふ胸々には云ひ知れぬ揉情的な哀愁の心持が湧き溢れて來る。

やがて落つる夕の穩かさを除ろに待ち佗びるやうな官房子の部落に着いたのは五時頃であつた。暮れの西風は一しほ緊張味を加へ來る。臺車を捨て、薄明に蔽はれた道に誘はれて行くと二階建の水源池工事々務所が在る。二人は其處へ立寄る、間もなく案內されて、堰堤へ上る。この堰堤の高さは地上より百二十五尺であるが、また地下に喰ひ入る深さは四十五尺であると聞かされる。南に龍王塘の入海を眺めて直ぐ眼下の丘上には三十軒餘の灰ばんだ支那家屋が不規に律立竝んで居る。紫色の煙は夕空の彼方へゆるやかに消ゐて行

く。又北の方へは白々とした砂原が廣ごれて、斑らのやうになつた帯褐な丘上の此方に二三、彼方に五六と灰ばんだ平たい小家が點在して見られる。水源池の周圍は三里半であるが、斯うした多年住み馴れた彼等の家と地は遠からず水底に葬られるさうで、さうした部落の數が五箇に及ぶさうである。

左右の山から山を架通して、堰堤は築工されてゐるが、此の堰堤の全長は七百二十六尺であると。その幅の下部は九十九尺の廣幅で、上の方へ高伸して行くに隨つて狹幅になるが、それでも十四尺になつてゐると案内者は云ふ。堰堤上には二臺のケレイン(捲上機)を据置して絶えず工材を捲上げてゐる。千四百からの苦力はせつくと工事に働いてゐる。雜然とした響音はさすがに此の大工事であることを思はせる。貯水量は千六百萬噸であつて、雨のない日和が續いても、大連市民に供給する持久水力は千日以上であると豫測されてゐる。此池に貯水するまでは完成後二箇年を要するさうである。水は三臺の喞筒を以て海拔二百四十尺の太白山隧道に押上げられ、太白山の水槽に一旦入れられて、これからは自然流下によつて、南崗山や老坐山を越ゑて沙河口に貯水される計畫であると聞く。着工したのは大正九年の八月で竣工期は今年の秋の豫定である。堰堤は花崗石五萬才、コンクリート一萬三百坪、ブロック千坪を使用して築がれてゐるが、實に大規模であると思はるゝ。こゝ官房子水源池は現在の王家店水源池に比べて約三倍の大規模であるさうだ。昨年のやうに晴天が續くと、家庭の主婦達は、斷水など云つて脅やかされたものであるが、此の官房子水源池竣工の曉は、倉塚博士も、やつとこれで、一安堵と云ふものだらう――。

官房子は鐵路龍頭驛に降りて、山を紆り、丘を越ゑて行く道程は二里餘である。此邊は戰跡もあつて、朝鮮高勾麗時代の遺跡も所々に殘存してゐる。さすがに四圍は蒼茫と暮れて、紫色の帷は樹の根に落されて何處からともなく支那寺院の鐘の音が微かに餘韻をふるはせて、大陸の秋はゑも云へぬ程にさびしい。

再び事務所へ歸り、小綺麗な二階へ旅裝を解いて疲勞を休めた。騒々しかつた工事の音は絶ゐて、暮れ易い秋の日はとつぷり落ちた。褞袍に着換へた山下さんと私は明日の旅程の話などしながら樂しかつた一日を語るのであつた。ランプが點じられる。

『ランプは珍らしいですね』

『何だか、こう昔にかへるやうな氣がしますね』

山下さんはさも過ぎ來し方を願望するやうに云ふ。

『さうです、私が小さい時分は、よく夕方になるとランプの掃除をしてゐたですがね』

私も引入られるやうに田舍の少年時代を追想するのであつた。

こんな話をしてゐるうちに、『湯に入れ』と知らせてくれたので、二人はタオルを携ゐて階段を降りて浴場に行く。そこにも薄暗い豆ランプがしよんぼり淡い光を投げて何だが幽靈でも出さうだ。脱衣した私は、浴槽に近づくと、變に思つて、

『山下さん、蓋のやうなものが浮いてゐますね』と不審に訊ねると、山下さんは笑ひながら

『なアに、それや底板ですよ』

『へ――ゐ、どうしたんです？』と、私は逡巡ふ。

『底です、底です、兩足で押ゐて這入りなさい』

はじめて私は、それが五右衞門風呂であると知つた。二人は笑ひこけながら

『何だか、彌次喜多式ですね』と云つた。

湯から上ると、もう室の餉臺の上にはランプとは不釣合な馳走が列べてある。一日の疲勞を洗ひ落した後

の氣持は淸々して、森とした四邊の場面がなほ一層心を引緊めさせるのであつた。

窓越しにチラと赤い灯が點いた。間もなく桃色の燈火が點々と瞬いてゐる。暮秋の淡い淋しさが迫る。陽は永久に沈んで野も山も默想の眠に落ちやうとしてゐる。ひた押しに押寄する自然の見ゑざる神祕の力の前には、跪坐せなければならないやうな、不可思議な感じが起る、それが人間の弱々しさを包圍して消ゑ去るかのやうにも思はれる。やつと二人の夕餐が濟んでから、少時たつと、主任の山田さんが上つて來る。初對面の挨拶などが終ると、山田さんは少しつゞ口を切り出す。

『さぞ、お疲勞れでしたらう！』

『…………』

『什麽ですか、世の中は……』と山田さんは云ふ。

『何處も同じ秋の夕暮で……やつぱり、駄目ですねヱ』

『もう我々は、斯うして山の中に引籠つて、苦力たち相手にコツ〳〵其日の仕事をやつて行けば濟むぐらゐで、一向社會とは沒交渉ですけれども……』と山田さんの話は眞面目になりさう、『しかし今日の如うに經濟界が動搖して、ずうつと人心が萎縮してくるやうになると、什麽しても在滿人の將來が案じられますね』と、ひたすら憂慮するやうに役人離れのした山田さんの議論は止め度なくつゞく。

『吾々が、こんな邊鄙で叫んだつて、『何等社會に對つては反響を與へないでせうけども！』と云ひながら苦力の生活情態や、支那人が根氣强いことなどを一々事例を擧げて語つて聞かせて呉れる。

『まア、何と云つても吾々は本俸八十五圓のプロレタリアが行止りでせうね、しかし……』と議論は次第に熱烈味を加へ來つて、やがて今度は社會とか人生問題までに擴がつてしまつて、山田さん一人で痛快な氣

焔をあげるのであつた。山下さんと私は夜の更けて行くのも知らずして、耳を傾けてゐた。それにしても實に、氣燄萬丈當るべからざる猛辯だつた。

『この邊の人達は、もう夜中を作つてゐますよ、此樣に遲くまで起きてゐるのは私達三人ばかりでせう……どうも失敬しました、早くお休みなさい………』と云ひながら山田さんが階下へ降りて行つたのは十一時頃であつた。高等官の何等で年俸が幾何だなぞと梯子段に獅嚙み付いて、給料勘定ばかりしてゐる現在の役人の多い今日、官臭味の脱却した大氣焔家の山田氏に私は同感する所も多かつた。しかし聊か過ぎて何となく危い點もないではなかつた。

『隨分、卒直な人ですねヱ』

『ねゝあれでも先生、なか〳〵有名なんですから……』

『さうでせうとも、何しろ奇拔ですよ』

階下へ降りて行つた山田さんを、二人はこんな風に稱へながら見送つた、さうして旅の一夜は淡い一種の興味を喫りつゝ更けて行くのであつた。

それから何のくらゐ經つたか、『もう休まう』と云ひ乍ら、私は立つて扉を排した。戸外は靜かだ、部落の燈火も、いまは消されて天地自然の凡ゆる萬象は一樣に天の恩惠に浴して、睡眠の床に抱かれて限りない慰藉と榮光に充たされてゐるやに思はれるのであつた。汗たら〳〵の苦力の夜を思ふとき一層さうした感じが起つてくる。故鄕の野邊であればちろゝ鳴く蟲の聲も聞くが枯淡なこの土地では聞かれない。

中空に上つた月は冴ゑきつた光を投げて、堰堤は淡白く輝いて、丁度昔の廢墟の畔に佇むやうな淡い淋しさが湧いて來る………。（客秋旅大道路の秋色を探ねて水源池に宿る）

研究會の旨趣目的

滿洲社會事業研究會は其の名稱の如く研究を主とする間接機關でありますが研究と共にその研究の結果を發表し講演會その他の集會をも催ふし宣傳、鼓吹、報道、論評と相待つて實行促進に努力しますから直接に自ら實行しないでも漸次實行を促すことになります場合に依り又事業の性質によりては本會自ら實行するやうな事があるかも知れませんが本來の使命は間接的に助長、發達、進歩を計り社會問題に對する正しい理解力を一般に普及したいのであります夫れから本會は會員組織でありまして會員を別つて贊助員及び普通會員とし役員は會長一名、副會長二名、幹事長一名並に幹事若干名で外に顧問・相談役及び評議員若干名を置くことに成つて居ます評議員は贊助員の中より選擧し其の任期は二年です評議員會は會長において必要と認めたるとき又は評議員五名以上の請求ありたるとき開くのです評議員會は今日までに既に四回開きました本會の經費は會費及び寄附金を以て之れに充て會費は贊助員毎月貳圓、普通會員同上壹圓です追つて沿線重要地に支部を設けます。

研究會の組織綱領

◉資本主義と社會主義（堀經夫譯）……東京…岩波書店刊行

◉調査時報（二ノ八）…………滿鐵社長室調査課

◉滿洲日日新聞、遼東新報、大連新聞、泰東日報、週刊「極東」、日滿通信、滿蒙の文化、讀書會雜誌、新天地、海友、滿蒙實業彙報、滿鐵「調査彙報」、滿洲建築協會雜誌、滿洲公論、日華之貿易、滿洲經濟時報、關東新聞、赤陽、滿洲教報、聖德會々報、大連コドモ新聞（以上大連）◉順律報（漢文）旅順◉大陸日日新聞、奉天毎日新聞、滿蒙經濟時報、新滿洲（以上奉天）◉商業會議所月報、滿鮮縱橫公論（以上安東）◉商業會議所月報（長春）◉貝加爾新聞（滿洲里）◉支那研究彙錄（北京）◉大乘（上海）◉山東公論、濟南日報（以上濟南）◉青島新報、青島實業協會月報（以上青島）◉京城日報、朝鮮新聞、朝鮮銀行月報、朝鮮及滿洲、青年（諺文）、新生活（同）（以上京城）◉釜山日報（釜山）◉平南毎日新聞、平壤商業會議所月報（以上平壤）◉臺灣時報、臺灣月報（以上臺灣）◉臨時産業調査局資料、滿鐵東亞經濟調査局經濟資料、東洋、支那、大鵬、大日本、經濟時論、東京商業會議所所報、日本佛教新聞、憲政、日華之實業、愛國婦人戰友、我が家（以上東京）◉紡績界（大阪）◉同志社時報（京都）◉横濱商業會議所月報（横濱）◉東亞經濟研究（山口）◉福岡日日新聞（福岡）…以上

毎月一回發行

定價表

本號特別號＝壹部金七拾錢

冊數	定價	郵稅
三箇月分	壹圓九拾錢	五錢
半箇年分	參圓八十錢	郵稅共
壹箇年分	七圓五十錢	郵稅共

▲半年分及壹年分には特別號を含む▲誌代は總て前金拂の事▲郵券代用は一割增

廣告料

等級	半頁	一頁
特等	四拾圓	八拾圓
一等	貳拾五圓	五拾圓
二等	拾五圓	參拾圓
三等	拾圓	貳拾圓

◉三回以上は割引可仕候◉年極めは特別に御相談可致候

◉〆切りは前月二十日限り

大正十二年一月一日發行

發行人　山田武吉

編輯人　大内四郎

印刷人　太田信三

印刷所　小林又七支店　大連市大山通七十四號地

發行所（電話一四二六番）滿洲社會事業研究會　大連市霧島町ヌ區十六號地　振替口座大連一二三九番

大連市監部通
東亞煙草株式會社
大連販賣所
電話二七三番

營業課目

●運用若シクハ利殖ノ爲ニスル積立會
●各種企業ニ對シ資金ノ供給
●土地建物及有價證券ノ擔保貸付
●土地建物ノ賣買仲介竝ニ管理
●諸手形ノ賣買保證
●各種商品ノ擔保貸付及委託賣買
●其ノ他信託ニ關スル一般ノ業務

大連市羽前町拾七號地
滿洲貯金信託株式會社
電話長八三一番
振替大連九六六番

大正二年七月二十八日(第三種郵便物認可)

活版石版印刷

和洋紙、板紙類

年賀狀、名刺、其他諸印刷

十二年度 カレンダー、石版意匠刷

邦文歐文 タイプライター

リボン、活字、其他附屬品販賣、修繕

酸素療器 オキシヘーラー

奏效顯著、使用簡便、價格低廉

太陽インキ

萬年筆用 簿記用

大連市大山通

小林又七支店

電話 長四四二番 二〇四三番